

授 業 科 目 名		哲学	
担 当 者 名		吉田 正史	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2200001	授 業 形 態
学 年		2	開 講 期
単 位 数		2	履 修 方 法
授業の概要と方法		われわれはどこから来たのでしょうか。われわれはこの世で何をやるのでしょうか。われわれはどこへ行くのでしょうか。要するに、われわれはいったい何なのでしょうか。この問いこそ哲学の命であると言えます。この核心的で本来最高の人類的関心事であるはずの問題を先哲の言葉に耳を傾けながら考えてみましょう。	
授業の到達目標		・神と世界、自由と不死性といった伝統的な哲学の問題の基礎的な理解を通じて、人生を見つめる、より広くより深い精神的背景を身につけること。	
授 業 計 画			
1.	はじめに		
2.	霊魂の不滅 死後存続研究史		
3.	霊魂の不滅 仏教の輪廻転生説		
4.	霊魂の不滅 死後存続を示唆する事例の紹介 ①退行催眠被験者の諸事例		
5.	霊魂の不滅 死後存続を示唆する事例の紹介 ②前世記憶保持者の諸事例		
6.	霊魂の不滅 死後存続を示唆する事例の紹介 ③小泉八雲の勝五郎再生譚		
7.	霊魂の不滅 死後存続は可能か —ジェームズの脳の伝達機能説— ①脳科学の基本的立場		
8.	霊魂の不滅 死後存続は可能か —ジェームズの脳の伝達機能説— ②伝達説対生産説		
9.	霊魂の不滅 死後存続は可能か —ジェームズの脳の伝達機能説— ③伝達説のもたらす来世観		
10.	霊魂の不滅 死後存続は可能か —ベルクソンの心脳関係論—		
11.	神の存在 信仰とその正当性の問題		
12.	神の存在 神の摂理と自由意志		
13.	神の存在 愛の躍動と創造的進化		
14.	恋愛 倉田百三の恋愛論		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業 15 回終了後に提出を求めるレポート			
100%			
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・授業中に指示した参考図書を読むことが望ましい。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・教科書は使用しないが、適宜資料等を配布する。			
参考書又は参考資料等			
・スティーブンソン「前世を記憶する子どもたち」笠原敏雄 訳 (日本教文社、平成 2 年)			
・その他参考図書は授業中に適宜指示する。			
そ の 他 (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて			
・質問のある場合、メールは使わずに直接当方研究室 (1-207) まで来られたい (研修日を除けば、基本的に午後 5 時まで研究室に在室)。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
yoshida@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		心理学	
担 当 者 名	釘原 直樹	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2000001	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修
授業の概要と方法	「心理学」は人間の心や行動を科学的に解明する学問である。人間の行動は他者、経験・記憶・認知、文化、生態学的変数、生物学的要素などさまざまな要因に影響を受けている。心理学はその因果関係を明らかにするものである。本講義では特に社会や集団の中の人間の行動や心理について紹介する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団で仕事をする場合の心の動きを知る。 2. 会議など、集団で意思決定する場合の心理過程や問題点について考える。 3. 群集行動（流言、パニック、テロ）のメカニズムについて学び、集団の善と悪について考える。 		
授 業 計 画			
1.	心理学とは何か 心理学とは、集団とは何か（集団の定義、集団の機能）		
2.	集団パフォーマンス① 社会的手抜きの原因と発生条件		
3.	集団パフォーマンス② 社会的手抜きの防止方法		
4.	集団意思決定 集団意思決定の陥穽、集団的浅慮		
5.	ブレイン・ストーミング NASA の課題を用いたグループワーク		
6.	恋愛のパターン 恋愛の種類		
7.	流言① コミュニケーション伝達過程での歪み		
8.	流言② 世間は狭いことの証明実験		
9.	パニック 迷路脱出実験 コンピュータシミュレーション タイタニック号遭難事件		
10.	集合行動 集合行動の理論 火星人来襲事件		
11.	集合行動と環境問題 廃棄物処理ゲームを用いたグループワーク		
12.	スケープゴート現象 いじめの心理		
13.	テロリズム テロリストの心理		
14.	集団は善人に悪をなさしめるのか 同調と服従実験		
15.	まとめ 社会を見る方法としての心理学		
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕			
定期試験	授業内課題およびコメントシート		
70%	30%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・普段から人の話をきちんと聞くことを心掛けるようにしてください。また、心理学で学んだことと自分の体験を結び付けて考えておきましょう。 ・日常の体験や経験を授業で記述してもらいます。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
グループ・ダイナミクス-集団と群集の心理学	釘原直樹	有斐閣	
参考書又は参考資料等			
「人はなぜ集団になると怠けるのか」 釘原直樹 中公新書			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・心理学に興味のある人はぜひ受講してください。保育学科は発達心理学、教育心理学で学ぶため、その分野以外を取り上げていきます。 ・授業内でグループワークや課題を行います。積極的に参加してください。 ・大学生活に生かすために心理学を学びたいと思う人は、受講してください。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名	美術		
担 当 者 名	都 留 守	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2000002	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修
授業の概要と方法	<p>「対話による美術鑑賞」と「表現活動」を一体化した授業です。『見つめる感じる考える Watch Feel Think』の活動から生まれた各自の意見を交流し合うことで、芸術作品のテーマや作者の思いに迫り、自己の価値観を高め・深め・広げる鑑賞を行います。意見の交流を通して、自己の相対比や他者理解が促されます。学習者が発見し関心をもった課題を全員で考え、共同で知識を構成していく授業です。そして、鑑賞活動を通して得た感動や学びをもとに自由に自己表現します。</p>		
授業の到達目標	<p>「美術を通して豊かな感性をもつ人間形成」を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作品鑑賞を通して、見つめる力・感じる力・考える力を養う。 2. 芸術作品と出会って、見付けた課題を自分の言葉で表現する力を養う。 3. 他者の意見を受け入れ、自分の見方・感じ方・考え方を高め・深め・広げる。 4. 鑑賞を通して得た感動や学びをもとに、自己表現をする力を養う。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション、「トリックアート」色々な見方、感じ方、表し方に出会う。		
2.	デューラーの作品「祈りの手」を鑑賞し、作品に込めた思いに触れ、鉛筆で「祈りの手」を描こう。		
3.	古賀春江「無題」を鑑賞し、その続き話を創作して、水性色鉛筆でミニ紙芝居を描こう。		
4.	ゴッホが「ひまわり」に込めた思い・願いを受け止め、「私のひまわり」をオイルパステルで描こう。		
5.	マティスの作品「ジャズ」を鑑賞し、コラージュの技法で表現しよう。		
6.	ドガの作品「マネとマネ夫人像」を鑑賞し、作品の切り取られた部分を想像してパステルで表現しよう。		
7.	田中敦子の作品を鑑賞し、丸と線で表現をしよう		
8.	白髪一雄の作品を鑑賞し、絵の具と紙粘土で表現しよう。		
9.	糸園和二郎の作品「老婦と子ども」を鑑賞し、「過去・現在・未来」をモノトーンで表現しよう。		
10.	一原有徳の作品を鑑賞し、モノプリントで表現しよう。		
11.	ピカソの作品を鑑賞し、オイルパステルで「自画像」を表現しよう。		
12.	北九州市立美術館の企画展を鑑賞する校外研修の事前研修を行い、研修計画をたてる。		
13.	北九州市立美術館の企画展を鑑賞する（校外研修）		
14.	北九州市立美術館の企画展を鑑賞する（校外研修）		
15.	木下晋「103年の闘争3 2003」に描かれたものを感じ取ろう。「美術」のまとめと評価をしよう。		
成績評価の方法	〔評価項目と割合〕		
「鑑賞を通して膨らんだイメージを表現する」活動で生まれた作品を評価する。	毎時間「振り返りカード」の観点別自己評価をもとに評価する。	毎時間「振り返りカード」の記述（感想など）で評価する。	「作品カード」に書かれたコメントの内容を評価する。
50%	20%	20%	10%
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ芸術家について、本学の図書館や北九州市立美術館などの美術館に各自で行って調べる。 ・授業中に疑問に思ったことやもっと知りたいと思ったことを各自で研究する。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
参考書又は参考資料等	<ol style="list-style-type: none"> 1.『見つめる感じる考える Watch Feel Think』=鑑賞学習資料：北九州市立美術館を活用した学習プログラム 2.『見つめる感じる考える Watch Feel Think』=平成 21-23 年度科学研究費補助金基盤研究（B）研究課題「対話による意味生成的な美術鑑賞教育の地域カリキュラム開発」報告書 		
そ の 他（受講生への要望等）	<p>※授業後、鑑賞した作家や作品について自主的に調べたり、展覧会に行つて鑑賞したりしたことをレポートで提出したものについては、重く評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「振り返りカード」を毎時間提出します。 ・「作品鑑賞カード」「作品カード」は、必要に応じて配布します。 ・「鑑賞資料」は、必要に応じて配布します。 ・「スケッチブック」は、全員に配布し、毎時間使用します。 ・作業がしやすい服装で参加してください。 ・絵の具セット、小道具セット（はさみ、のり、カッター、定規など）、硬筆材（サクラクレパス 12 色セット）を各自で用意すると授業に取り組みやすくなります。 		
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
tsuru@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		国語	
担 当 者 名		増田 夏彦	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2000003	授 業 形 態
学 年		1	開 講 期
単 位 数		2	履 修 方 法
授業の概要と方法		<p>言葉は、発話者の心や心遣いが表現される大切なものである。日本語の言語としての特質を知ることが、日本語を正しく効果的に使うためにも重要なことであり、日本文化への理解をより一層深めることにもなる。</p> <p>日本語の基礎を見直しながら、日本語の特質を探っていく。</p>	
授業の到達目標		<p>敬語・文法・語彙・文字・表記・新しい表現・表現技巧等の基礎を見直しながら、言葉を適切に表現して物事を正確に理解する能力を養成し、言語能力や表現能力の向上を図る。また、国語を通して思考力や想像力を伸ばし、感情を豊かにすることがこの授業の目標である。</p>	
授 業 計 画 (○数字はテキスト付属の演習問題の番号)			
1.	オリエンテーション	……授業についての説明・授業計画。国語表現について。	
2.	会話表現 (基礎編)	……敬語の使い方について学ぶ。	
3.	会話表現 (基礎編)	……敬語表現について練習を重ね、実践的に学ぶ。①	
4.	会話表現 (基礎編)	……言葉の乱れについて学ぶ。	
5.	会話表現 (応用編)	……自己紹介の仕方について学ぶ。②	
6.	会話表現 (応用編)	……保育の現場での話し方について学ぶ。	
7.	会話表現 (応用編)	……就職面接等での話し方について学ぶ。	
8.	文章表現 (基礎編)	……平仮名・片仮名の正しい字形について学ぶ。③	
9.	文章表現 (基礎編)	……教育漢字の正しい字形について学ぶ。④	
10.	文章表現 (基礎編)	……現代表記や用字用語・慣用句について学ぶ。⑤⑥	
11.	文章表現 (基礎編)	……漢字の誤用や当て字について学ぶ。⑦	
12.	文章表現 (基礎編)	……差別語等や記号について学ぶ。⑧	
13.	文章表現 (基礎編)	……重複表現について学ぶ。⑨	
14.	文章表現 (応用編)	……原稿用紙のルールについて学ぶ	
15.	文章表現 (応用編)	……原稿用紙を用いて、実際に文章を書く。	
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験		授業への取組み姿勢・提出物	
70%		30%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・各回の講義にて、事後学習等について連絡をします。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名		著者	出版社
保育者になるための国語表現		田上貞一郎	萌文書林
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・講義の中で、適宜紹介していきます。			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等) / 課 題 等 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク に つ い て			
<p>※成績評価については、定期試験を行い、授業への取組み姿勢や提出物などを加味して、総合的に評価する。</p> <p>・とにかく社会人になって損をしない、恥をかかない国語力だけは身に付けてください。</p> <p>・テキストは必ず購入してください。数回終了後、テキストを持っていない者(なくした者を含む)には単位を出せません。</p> <p>・テキスト以外にもプリントを配布します。※各自ファイルを用意すること。</p>			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail		その他	
講義開始後に改めて連絡をします。		授業の前後 10 分間は、2 号館 4 階非常勤講師室にて質問等対応可。	

授 業 科 目 名	文学		
担 当 者 名	増田 夏彦	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2000004	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修
授業の概要と方法	文学史と有名作品の冒頭および内容から、日本文学を概観する。また、詩歌などの鑑賞も行う。		
授業の到達目標	1. 日本文学の概要を、文学史や有名作品から知る。 2. 詩歌などを鑑賞できる。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション.....授業の説明・計画, 日本文学史の時代区分と分類		
2.	上代の文学.....文学史と作品		
3.	中古の文学.....文学史と作品 (韻文学)		
4.	中古の文学.....文学史と作品 (散文学)		
5.	中世の文学.....文学史と作品		
6.	近世の文学.....文学史と作品 (散文学)		
7.	近世の文学.....文学史と作品 (韻文学・劇文学)		
8.	近代の文学.....文学史と作品		
9.	現代の文学.....文学史と作品		
10.	詩歌.....詩集・歌集など		
11.	外国の文学.....作家と作品		
12.	日本文学冒頭文.....古文・現代文		
13.	詩歌.....和歌・短歌の鑑賞		
14.	詩歌.....俳諧・俳句の鑑賞		
15.	まとめ.....講義のまとめ		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業への取り組み姿勢・提出物		
70%	30%		
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等)			
・講義に出てきた作品は、図書館で探して手に取ってみること。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
新版二訂 必携国語	第一学習社編集部編	第一学習社	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・講義の中で、適宜紹介していきます。			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等) / 課 題 等 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク に つ い て			
※成績評価については、定期試験を行い、授業への取り組み姿勢や提出物などを加味して、総合的に評価する。			
・日本文学の歴史を学ぶことにより、一般常識と精神的な豊かさを身に付けてください。また、講義の中で興味のわいた作品は、是非とも通読してみてください。			
・テキストは必ず購入してください。数回終了後、テキストを持っていない者(なくした者を含む)には単位を出せません。			
・テキスト以外にもプリントを配布します。各自ファイルを用意すること。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業の前後 10 分間は、2号館 4階非常勤講師室にて質問等対応可。		

授 業 科 目 名	日本国憲法		
担 当 者 名	水野 陽一	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2000005	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修 幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	私たちは日本というひとつの国をつくり、様々なルール、すなわち法律を決めて日々暮らしている。一人ひとりの自由や平等、国を運営していくしくみを定めた法律が日本国憲法である。この授業では、なるべく身近な話題から、憲法の持つ意味や、憲法をめぐる様々な議論を考えていこう。		
授業の到達目標	1. 人権や政治に関する用語を適切に理解する。 2. 人権や政治に関する新聞記事やニュース番組に関心をもつ。 3. 人権や政治に関する様々な議論について、自身の考えを深める。		
授 業 計 画			
1.	法とは何か		
2.	日本国憲法の構成		
3.	自由権①表現の自由		
4.	自由権②表現の自由とプライバシー		
5.	自由権③信教の自由		
6.	自由権④信教の自由、政教分離原則		
7.	自由権⑤人身の自由		
8.	自由権⑥人身の自由、冤罪		
9.	裁判所のしくみ		
10.	生存権		
11.	生存権、社会保諸制度、生活保護		
12.	統治のしくみ①平和主義		
13.	統治のしくみ②国会		
14.	統治のしくみ③内閣		
15.	統治のしくみ④地方自治		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験（筆記試験）			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・各回の講義にて、事後学習等について連絡をする。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
図録 日本国憲法	斎藤 一久 編・堀口 悟郎 編	弘文堂	
参考書又は参考資料等			
・必要に応じて講義中に紹介する。			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
・講義中の私語には厳しく注意する。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名		文化史	
担 当 者 名	恒遠 俊輔	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2000007	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修
授業の概要と方法	日々の暮らしの中のごく身近な文化にスポットライトをあて、その歴史をたどる。そこには先人たちの様々な知恵が隠されていて、我々にとって学ぶべきことが多い。又、そこには現代社会が抱える諸問題を解く手がかりがあるということもできる。授業は、資料を配布し、講義と板書を中心に進める。		
授業の到達目標	経済至上主義、科学万能の現代である。それ故に、地球環境の破壊が深刻化し、人類は生存の危機に直面している。又、人々の間では経済格差が拡大し、社会的弱者にとって生きづらい状況になってしまっている。我々は、今、価値観の転換、自らのライフスタイルの見直しを迫られていると言わなければならないが、「文化史」の授業がそのきっかけづくりになればと願うところである。		
授 業 計 画			
1.	文化史を学ぶにあたって ……歴史を学ぶことの意味を考える（よりよい未来を創造するために）		
2.	「論語」に学ぶ ……2500年前の人・孔子の言葉を味わう		
3.	性差別の歴史を学ぶ ……与謝野晶子の詩を鑑賞し、永六輔のエッセイを読んで、性差別について考える		
4.	森の文化考 ……①国土の70%を占める山や森が育んだ日本の文化について考える		
5.	" ……②エコロジー（環境保護）について考える		
6.	竹の文化考 ……「竹取物語」に始まる日本人と竹とのかかわりについて考える		
7.	日本の祭 ……様々な祭を通して、人々にとって神とは何かを考える		
8.	茶の文化と日本人 ……①茶樹栽培と喫茶の歴史を学ぶ		
9.	" ……②茶道と日本人の心について学ぶ		
10.	江戸文化を考える ……①未来につなげてはならない江戸文化		
11.	" ……②未来につなげたい江戸文化		
12.	暦と日本のならわし ……暦のなりたち、年中行事のもつ意味について学ぶ		
13.	日本人の死生観 ……①仏教の浄土信仰（阿弥陀信仰）について学ぶ		
14.	" ……②終活（死の準備教育）について考える		
15.	まとめ ……定期試験にむけて		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	レポート及び授業への取り組み姿勢		
60%	40%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・政治や経済など時事問題に関心を持つ（大量の情報にふりまわされるのではなく、自分の頭でしっかり考えよう） ・モノやおカネだけを追い求める人生ではなく、ぜひ「筑紫の心」を大切に			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・講義中に、適宜資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
必要に応じて提示する			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
tuneto1225@hi2enjoy.ne.jp	kubotesan.1225@ezweb.ne.jp（携帯）		

授 業 科 目 名	情報処理学		
担 当 者 名	林 勝裕	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2000008	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修 幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	本講義では、コンピュータ操作とインターネットを利用した情報処理に慣れ、日常生活や仕事の中で有効活用するための情報活用能力を身につけます。 幼児教育活動での利用が予測されるアプリケーションソフトウェアの実践的活用ができるように、演習課題では教育現場に即した内容を想定しています。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ Windows の基本操作ができ、ネットワーク端末としてのコンピュータを利用し、電子メールの基礎的使用方法、Web 検索の簡単な方法など、インターネットを使用した正しい情報の収集・加工ができる。 ・ Word を使用して文書整形を文章入力、文字の装飾、ページレイアウト、作表、図形挿入ができる。 ・ Excel を使用して数値データ処理、表整形、関数の使用、グラフ作成ができる。 ・ Power point を使用してプレゼンテーション資料の作成ができる。 		
授 業 計 画			
1.	コンピュータの基礎：コンピュータの仕組み、ハード・ソフトウェア、OS 等		
2.	Windows の基本操作：マウスの操作、ウィンドウの操作、日本語入力		
3.	インターネットの有効利用：インターネットの概要、情報の検索・加工等		
4.	電子メールの仕組みと設定：電子メールの仕組みと学内でのメール利用環境設定		
5.	電子メール演習：ビジネス様式の電子メール演習		
6.	(Word)基本操作演習 1：文章入力、文字の設定変更、描画オブジェクト、図形描写		
7.	(Word)基本操作演習 2：テキストボックス、特殊効果文字、クリップアート		
8.	(Word)課題作成 1：ペイントの基本操作、「園だより」課題作成		
9.	(Word)課題作成 2：「園だより」課題提出（印刷物・メール貼付・ファイル COPY）		
10.	(Power point)基本操作 1：プレゼンテーションの基礎、図形挿入、アニメーションの設定、画面切り替え「園だより」の素材（データ）を使って課題作成		
11.	(Power point)基本操作 2：プレゼンテーションの基礎、図形挿入、アニメーションの設定、画面切り替え「園だより」の素材（データ）を使って課題提出		
12.	(Excel)基本操作演習 1：データ入力の基礎計算式、書式の変更、Word に Excel の表を貼り付け		
13.	(Excel)基本操作演習 2：オートフィル、基本的関数、罫線、グラフ等		
14.	(Excel)実技試験		
15.	(Excel)基本操作演習 3：「児童台帳」、「日々の記録の例」作成		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験	Word・Excel の課題	Power point の課題	Excel の実技試験
40%	40%	10%	10%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
基礎から応用まで幅広い内容となっていますので、毎回の講義の復習は必須です。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
「保育者のためのパソコン講座」 Windows10/8.1/7 Office2010/2013/2016 対応版	阿部正平・阿部和子・二宮祐子	萌文書林	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
授業の後半になると課題作成が多くなりますので、提出期限に遅れないようにすること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡します。	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名		人間科学	
担 当 者 名		塩田 光重	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2000009	授 業 形 態
学 年		2	開 講 期
単 位 数		2	履 修 方 法
授業の概要と方法		「AI (人工知能)って何だ、AI で本当に仕事なくなるの?」。囲碁も将棋もチェスも AI が勝利、手術の判断は医師が〇〇のところ AI は 4 秒だったなどと AI が我々を驚かせた例は挙げればきりが無いほど、いま、AI が世の中を変えようとしている。AI がさらに知的作業支援の幅を拓き、人間と AI との協働作業で仕事はさらに効率的に、人間はより高度な判断を求められるようになる。このダイナミックな社会の変化の中で、人間てなんだ? と考えてみよう。人間科学は複雑極まりない人間そのものを対象とする科学である。人間の幸福とは何かについても考えよう。	
授業の到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. ディープラーニングを学ぶ 2. 人間と AI との協働作業を考える。 3. 遺伝子の働きと脳の働きを理解する。 4. 人類移動の歴史を理解する。 5. 幸福の意味を考える。 	
授 業 計 画			
1.	AI が目を獲得—グーグルの猫		
2.	ディープラーニング—人間の脳神経ネットワークがモデル		
3.	AI と人間の協働そして 20 年後も残る職業		
4.	AI は人間を超えるか—シンギュラリティー		
5.	人間の二つの情報世界—遺伝子と脳		
6.	脳はいかに進化したか		
7.	動的平衡		
8.	男と女		
9.	iPS 細胞		
10.	免疫システム		
11.	38 億年の物語		
12.	出アフリカ—遍歴 20 万年		
13.	「銃・病原菌・鉄 (ジャレド・ダイヤモンド)」を読む		
14.	「幸福」を考える		
15.	百年時代の人生		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
授業への取り組み姿勢		レポート	
50%		50%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・随時、参考資料を紹介しますから、準備学習して頂きたい。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名		著者	出版社
・講義中に適宜資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
○「養老孟司の人間科学講義」養老孟司 (筑摩書房)			
○「10 年後の仕事図鑑」落合陽一、堀江貴文 (SBクリエイティブ)			
そ の 他 (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて			
・実際に社会で起き、報道される人間の諸行動についても、何故かと考えて見よう。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
mitprinshiota@gmail.com		講義開始前 10 分間小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて質問対応可。	

授 業 科 目 名		国際理解	
担 当 者 名		竹並 正宏	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2000010	授 業 形 態
学 年		1	開 講 期
単 位 数		2	履 修 方 法
授業の概要と方法		<p>本学は、平成 13 年に韓国・釜山女子大学と姉妹校締結をした。教育目標として、学生達のより積極的な国際意識と外国の教育現場における国際的交流感覚の高揚というねらいで国際的感覚を持った人材を育成することをテーマに、釜山女子大学は建学の理念である現代の韓国社会の要請に応ずる人材の育成と徳性教育により、創意、誠実、礼節をそなえた明るく礼儀正しい人材を育て上げる教育に重点を置き、日韓の文化を相互に理解し、韓国語をトータルに学び、いかに実践的に活用できるかを目的とする。</p>	
授業の到達目標		<p>①学生達のより積極的な参加意識と外国の教育現場における国際的交流感覚の高揚というねらいで、国際的感覚を持った人材に成長しようとする姿勢が身に付いている。 ②日本と韓国との文化を相互に理解して、また韓国語をトータルに学び、その学んだことをいかに実践的に活用できる姿勢が身に付いている。</p>	
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション・・・国際交流の目的について		
2.	マナーについて・・・目上に対する挨拶の仕方（会話）・挨拶の仕方		
3.	韓国の教育について・・・学歴社会の特徴（会話）・挨拶の仕方		
4.	韓国の食生活について・・・韓国料理と食文（会話）・数の数え方①		
5.	韓国の自然について・・・各都市の把握とオンドル（会話）・数の数え方②		
6.	韓国の交通について・・・地下鉄やタクシーの乗り方（会話）買い物での会話①		
7.	韓国の姓氏について・・・父系の血統（会話）・・・買い物での会話②		
8.	韓国の家屋について・・・建築と町並み（会話）・・・買い物での会話③		
9.	韓国の年中行事について・・・年間の風習（会話）・・・時間と曜日①		
10.	韓国の経済について・・・同族的経営（会話）・・・時間と曜日②		
11.	韓流スターについて・・・日本における韓流（会話）・・・ホテルでの会話①		
12.	日韓の歴史について・・・韓国人の対日観①（会話）・・・ホテルでの会話②		
13.	日韓の文化交流について・・・韓国人の対日観②（会話）・・・場面別会話①		
14.	渡航手続きについて・・・最終日程の説明指導（会話）・・・場面別会話②		
15.	結団式		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
報告書	授業への取組み姿勢	研修への取組み姿勢	
60%	20%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
国際化の取り組みの中で、海外で日本人としての自覚に基づき目的や状況に応じた適切な言動をとることが重要であることを認識して臨む。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
プリント配布。			
参考書又は参考資料等			
韓国入門（三省堂選書） 視聴覚教材を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
学生達のより積極的な参加意識と外国の教育現場における国際的交流感覚の高揚というねらいで、国際的感覚を持った人材に成長しようとする姿勢が身に付くように世界で起きている諸問題に目を向けて授業に臨んでほしい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
takenami@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	英語 I		
担 当 者 名	梅崎 義雄 ・ 高野 裕子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2000017	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	近年の国際化により、保育の現場でも、外国人の園児や保護者と関わる機会も増えてきている。そこで、保育士がよく使う英語表現を、普段、保育園や幼稚園で使う場面を想定し、会話形式でシャドーイングを取り入れて練習する。テーマ毎の頻出フレーズを正しい英語の音で発音することによりリスニング力をあげる。また、基礎になる 5 つの文型を意識しながらよどみなく簡単な英文が発話できるように練習する。以上により、保育士として、現場での基礎的な英語コミュニケーション能力を養う。		
授業の到達目標	1. テキストの各ユニットのリスニング、スピーキングパートを習熟することにより、保育関連の英単語を発音し聞き取れるようになる。 2. 会話時に必要なフレーズや自分の意思や意見を表現する簡単なフレーズが聞き取れ、かつ、タイムリーに、簡単な英文を発話できるスキルを身につける。		
授 業 計 画			
1.	Pre-unit: Please Speak More Slowly (Listening&Speaking)		
2.	Unit 1: Hi, I'm Yuri Tanaka (Listening&Speaking)		
3.	Unit 2: Where Is the Multi-purpose Room? (Listening&Speaking)		
4.	Unit 3: Good Morning. How Are You Today? (Listening&Speaking)		
5.	Unit 4: What Color Do You Like? (Listening&Speaking)		
6.	Unit 5: There's a Ladybug on the Leaf (Listening&Speaking)		
7.	Unit 6: It's Time to Play Outside (Listening&Speaking)		
8.	Unit 7: She Is Allergic to Eggs (Listening&Speaking)		
9.	Unit 8: You Should Go to the Bathroom (Listening&Speaking)		
10.	Unit 9: We Made Masks Today (Listening&Speaking)		
11.	Unit 10: If It Rains, What Happens? (Listening&Speaking)		
12.	Unit 11: What Shall We Do Today? (Listening&Speaking)		
13.	Unit 12: I Feel Feverish (Listening&Speaking)		
14.	Unit 13: This Is Yuri from Cosmos Day Care Center (L&S)		
15.	Unit 14: Thank You Very Much for Everything (Listening&Speaking)		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験	小テストやレポート	授業への取り組み姿勢	
50%	30%	20%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準備学習・事後学習等)			
・授業中に配ったプリントを完成させ、会話の部分は、ダウンロードした音源を使ってリスニングの練習し、次回の授業までに、スピーキングで使えるようにする。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
Happy English for Childcare 保育のための基礎英語	土屋麻衣子	金星堂	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
特になし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
※成績評価については、授業中に行う小テストと定期試験を行い、総合的に評価する。 ・辞書は紙辞書でも電子辞書でもいいので必ず持参してください。 ・携帯電話やスマートフォンの電源は授業前に必ず切ってください。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
realfoods@knwu.ac.jp (梅崎)			

授 業 科 目 名	英語 II		
担 当 者 名	梅崎 義雄 ・ 高野 裕子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2000018	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	前期の授業で習熟したリスニング、スピーキングスキルをさらに高め、身近な保育関連のトピックについて読んで理解できるようにする。さらに、自分の意見を簡単な文章で書くことができるようにする。以上により、保育士として、現場での基礎的なライティングスキルを含めた英語コミュニケーション能力を養う。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育関連の英単語を正確に発音し聞き取れる。 2. 自分の意思や意見を表現するライティングスキルを高める。 3. 各ユニットを聞いて、簡単な文章の書き取りができるようになる。 		
授 業 計 画			
1.	Pre-unit: Please Speak More Slowly (Writing)		
2.	Unit 1: Hi, I'm Yuri Tanaka (Writing)		
3.	Unit 2: Where Is the Multi-purpose Room? (Writing)		
4.	Unit 3: Good Morning. How Are You Today? (Writing)		
5.	Unit 4: What Color Do You Like? (Writing)		
6.	Unit 5: There's a Ladybug on the Leaf (Writing)		
7.	Unit 6: It's Time to Play Outside (Writing)		
8.	Unit 7: She Is Allergic to Eggs (Writing)		
9.	Unit 8: You Should Go to the Bathroom (Writing)		
10.	Unit 9: We Made Masks Today (Writing)		
11.	Unit 10: If It Rains, What Happens? (Writing)		
12.	Unit 11: What Shall We Do Today? (Writing)		
13.	Unit 12: I Feel Feverish (Writing)		
14.	Unit 13: This Is Yuri from Cosmos Day Care Center (Writing)		
15.	Unit 14: Thank You Very Much for Everything (Writing)		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験	小テストやレポート	授業への取組み姿勢	
50%	30%	20%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準備学習・事後学習等)			
・授業中に配ったプリントを完成させ、会話の部分は、ダウンロードした音源を使って書き取りの練習を行い、ライティングのスキルを伸ばす。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
Happy English for Childcare 保育のための基礎英語	土屋麻衣子	金星堂	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
特になし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
※成績評価については、授業中に行う小テストと定期試験を行い、総合的に評価する。 ・辞書は紙辞書でも電子辞書でもいいので必ず持参してください。 ・携帯電話やスマートフォンの電源は授業前に必ず切ってください。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
realfoods@knwu.ac.jp (梅崎)			

授 業 科 目 名		スポーツ健康科学 I	
担 当 者 名	石原 勇次郎	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2000019	授 業 形 態	講義・実技
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	講義においては、健康の維持・増進や生活習慣病の予防、精神の安定（ストレスマネジメント）、文化としてのスポーツの意味合い等を理解し、多角的にスポーツを捉えることで、健康的な生活をおくる為の知識を習得する。特に「スポーツ健康科学 I」では自身の身体の状態を把握・理解することに注力する。また、実技においては、講義にて得られた知識をもとに、生涯にわたり継続可能なスポーツ種目に親しむことのできる能力獲得を目標にし、自らが主体的な姿勢で取り組み、各種スポーツのルールを理解と実践、身体を動かす楽しさや重要性を理解する。本科目を通して保育者として必要な資質能力を講義と実践を通して高める。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の身体の状態を把握・理解する。 2. 健康の維持・増進の為の知識を得る。 3. 様々な角度からスポーツを捉え、文化としてのスポーツの意味を理解する。 4. スポーツのルールを理解した上で、自ら進んで行動し、主体的な姿勢と態度で取り組むことができる。 5. 保育者として必要な使命感や責任感、社会性や対人関係能力、幼児理解を高めることができる。 		
授 業 計 画			
1.	実技 オリエンテーションおよび学内レクスポ大会に向けた練習①		
2.	実技 学内レクスポ大会に向けた練習②（出場種目の練習）		
3.	実技 体力測定①（成人期を前にした身体状態の把握）		
4.	実技 体力測定②（持久力の測定と私生活における運動習慣と食生活の調査）		
5.	実技 ニュースポーツ①（ドッチビーにおけるルールと基本テクニックの理解と習得）		
6.	実技 ニュースポーツ②（試合）		
7.	実技 フットサル①（ルールと基本テクニックの理解・習得）		
8.	実技 フットサル②（基礎練習と試合）		
9.	実技 バトミントン①（ルールと基本テクニックの理解・習得）		
10.	実技 バトミントン②（基礎練習とダブルス試合）		
11.	実技 バトミントン③（ダブルス試合）		
12.	実技 選択種目①（スポーツ健康科学 I で経験した種目からクラスで選択）		
13.	実技 選択種目②（スポーツ健康科学 I で経験した種目からクラスで選択）		
14.	講義 運動やスポーツの魅力（必要性和楽しさの仕組み）		
15.	講義 心身の発育発達（発育発達に必要な運動の理解と前期のまとめ）		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
授業への取り組み姿勢	講義毎の小レポート	理解度確認小テスト	ゲーム結果
60%	20%	10%	10%
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・前期最後の講義にて小テストを実施するので、講義で配られた資料を各自まとめておくこと。 ・新聞等を読み、日頃からスポーツ、健康に関する情報を収集するよう努めること。 			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
・講義中に適宜、資料を配布する。			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
特になし			
そ の 他 （受 講 生 へ の 要 望 等）／課題等に対するフィードバックについて			
<p>※成績評価について、授業態度評価は授業後に記入する自己評価表と教員による評価を合わせたものとする。</p> <p>①講義を行う際は前週までに掲示をするので、各自確認を行い、指定された講義室に筆記用具を持って集合すること。毎回の授業では資料を配布し記述をしてもらいます。授業の終わりに感想や意見を記述する小レポートを課します。また、前期まとめの際に、配布資料をもとにした理解度確認小テストを実施するので、各自資料の管理を行い受講すること。</p> <p>②実技は基本的に体育館で実施しますが、場所の変更が生じる際は前週に告知をします。実技の際はピナス、アクセサリー等はずして集合し、運動に適した服装と運動靴（体育館では指定されたシューズ）を着用すること。尚、体調不良により実技に参加できない場合は速やかに担当教員に申し出ること。</p>			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
ishiharay@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		スポーツ健康科学 II	
担 当 者 名	石原 勇次郎	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2000020	授 業 形 態	講義・実技
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	<p>「スポーツ健康科学II」では、原則的に「スポーツ健康科学I」を習得してから履修するものとする。講義においては、スポーツ健康科学Iに引き続き、健康の維持・増進や生活習慣病の予防、精神の安定（ストレスマネジメント）、文化としてのスポーツの意味合い等を理解し、多角的にスポーツを捉えることで、健康的な生活をおくる為の知識を習得する。また、実技では、講義にて得られた知識をもとに、生涯にわたり継続可能なスポーツ種目に親しむことのできる能力獲得を目標にし、各種スポーツのルールの理解と実践、身体を動かす楽しさや重要性を理解し、自らが主体的な姿勢で実践する。本科目を通して、保育者として必要な資質能力を講義と実践を通して高める。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の維持・増進の為の知識を得る。 2. 様々な角度からスポーツを捉え、文化としてのスポーツの意味を理解する。 3. スポーツのルールを理解した上で、自ら進んで行動し、主体的な姿勢と態度で取り組むことができる。 4. 運動の楽しさを知り、運動を習慣化できる。 5. 保育者として必要な使命感や責任感、社会性や対人関係能力、幼児理解を高めることができる。 		
授 業 計 画			
1.	講義 オリエンテーション		
2.	実技 バレーボール・ソフトバレーボール①（ルールと基本テクニックの理解・習得）		
3.	実技 バレーボール・ソフトバレーボール②（基礎練習と試合）		
4.	実技 バレーボール・ソフトバレーボール③（応用練習と試合）		
5.	実技 バレーボール・ソフトバレーボール④（試合）		
6.	実技 バasketボール①（ルールと基本テクニックの理解・習得）		
7.	実技 バasketボール②（基礎練習と試合）		
8.	実技 バasketボール③（応用練習と試合）		
9.	実技 バasketボール④（試合）		
10.	実技 選択種目①（スポーツ健康科学I・IIを通して経験した種目からクラスで選択）		
11.	実技 選択種目②（スポーツ健康科学I・IIを通して経験した種目からクラスで選択）		
12.	実技 選択種目③（スポーツ健康科学I・IIを通して経験した種目からクラスで選択）		
13.	実技 選択種目④（スポーツ健康科学I・IIを通して経験した種目からクラスで選択）		
14.	講義 運動やスポーツの効果と安全（心身への影響）		
15.	講義 将来を見据えた運動への取り組み（体力テストの結果とまとめ）		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
授業への取り組み姿勢	講義毎の小レポート	理解度確認小テスト	ゲーム結果
60%	20%	10%	10%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・後期最後の講義にて小テストを実施するので、講義で配られた資料を各自まとめておくこと。 ・新聞等を読み、日頃からスポーツ、健康に関する情報を収集するよう努めること。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・講義中に適宜、資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
<p>※成績評価について、授業態度評価は授業後に記入する自己評価表と教員による評価を合わせたものとする。</p> <p>①講義を行う際は前週までに掲示をするので、各自確認を行い、指定された講義室に筆記用具を持って集合すること。 毎回の授業では資料を配布し記述をしてもらいます。授業の終わりに感想や意見を記述する小レポートを課します。 また、前期まとめの際に、配布資料をもとにした理解度確認小テストを実施するので、各自資料の管理を行い受講すること。</p> <p>②実技は基本的に体育館で実施しますが、場所の変更が生じる際は前週に告知をします。実技の際はピアス、アクセサリー等はずして集合し、運動に適した服装と運動靴（体育館では指定されたシューズ）を着用すること。 尚、体調不良により実技に参加できない場合は速やかに担当教員に申し出ること。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
ishiharay@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	音 楽 I		
担 当 者 名	瓦 林 他	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2200060	授 業 形 態	演 習
学 年	1	開 講 期	前 期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修

授業の概要と方法	「音楽 I」では、養成校として基本的に「基礎技能」であり教科として関連のある「保育の内容・方法の理解」に基づく科目である。「音楽 I」では、授業構成として①ピアノ基礎技術②理論（前期）③声楽（前期）から構成されている。授業の展開として本学では 2 コマで設定され、前半 90 分がピアノ基礎技術の個人指導。後半 90 分の声楽では、園児と一緒に歌えることを第一に考え、基礎的な発声を習得しながら身体表現（ボディパーカッション）についても学ぶ。そこで「音楽 I」では、子どもと直接的な関わりの中で主体化された内容の教材であり、保育を展開する上での基礎的な方法や技術、そのために必要な教具・教材等に関する知識や技能、保育の環境構成や援助のあり方等、現場における音楽に関する基礎的技術を身につけなければならない。
----------	---

授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき保育現場で生かすために、「音楽 I」では音楽的基礎技術を身につけると共に音楽的能力と表現力並びに音楽的感性を高めることを目標とする。 2. 保育者として子どもの発達段階に応じた音楽的表現を子どもの歌と一緒に身体的表現活動（ボディパーカッション）しながら基礎的なリズムを修得することを目標とする。また、基礎的知識と技術を修得することで保育現場において保育者としての使命感、責任、愛情を持って支援できる能力を身につけることを目標とする。
---------	---

授 業 計 画	
1.	オリエンテーション：ピアノの受講目的と心構え並びにグレード表の説明。学生のピアノ進捗状況確認。音楽理論（ピアノ教本についての音符、テンポ、リズム、表情記号等について指導）声楽（現場において活躍できるだけの発声能力を身に付けさせる）
2.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論 2（音符について）・声楽（音階での発声）2。
3.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（記号・リズムについて）・声楽（音階での発声）3。
4.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（音名について）・声楽（コールユーブンゲンの練習）4。
5.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（音階について）・声楽（コールユーブンゲンの練習）5。
6.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（記号について）・声楽（コールユーブンゲンの練習）6。
7.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（臨時記号について）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）7。
8.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（異名同音について）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）8。
9.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（記号、調号について・リズム）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）9。
10.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（和音について・リズム）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）10。
11.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（合奏について①）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）11。
12.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（合奏について②）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）12。
13.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（移調について）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）13。
14.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（移調について）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）14。
15.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（まとめ）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）15。

成績評価の方法	〔評価項目と割合〕	
定期試験	事前・事後学習状況	
70%	30%	

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の練習が技術向上に結び付き事前及びレッスン終了後の練習をする。 ・前期の試験に向け、ピアノは試験曲を暗譜。音楽理論をまとめる。
------------------------	---

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
Let's play the BEYER	高御堂愛子 他	圭文社
最新ピアノマーチアルバム	坂 敏子 編集代表	音楽之友社
こどものうた 200	小林美実 編	チャイルド社
ブルグミュラー・25 の練習曲		カワイ出版

参考書又は参考資料等	特になし ②理論（前期）については、プリント配布
------------	--------------------------

そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて	※成績評価については、日常の事前・事後学習状況並びに定期試験から評価を行う。「音楽 I」②理論（前期）については、プリントを点検しながら学生にフィードバックする。
------------------------------------	---

担当教員の連絡先等	
担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は（瓦林）（阿部）（北嶋）（笹部）研究室にて質問・応答を受ける。

授 業 科 目 名	音楽 II		
担 当 者 名	瓦林 他	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2200061	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	「音楽II」では、養成校として基本的な「音楽的基礎技術」を修得し、ピアノの基礎技術向上に向けて個人指導を行う。そこで「音楽II」では、保育現場において子どもとの直接的な関わりの中でピアノを生かすために、また保育を展開する上で基礎的な方法や技術、保育の環境構成や援助のあり方等を含め音楽に関する基礎的音楽的表現能力を身につけなければならない。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき保育現場で生かすために、「音楽II」では音楽的基礎技術を身につけると共に音楽的能力と表現力並びに音楽的感性を高めることができる。さらに、高度なピアノ技術習得に向けて総合的に学習することを目標としている。 2. 保育者として子どもの発達段階に応じた音楽表現に関する基礎的な知識と技術を修得することを目標とし、保育現場において保育者としての使命感、責任、愛情を持って支援できる能力を身につけることを目標としている。 		
授 業 計 画			
1.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
2.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
3.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
4.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
5.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
6.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
7.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
8.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
9.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
10.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
11.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
12.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
13.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
14.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
15.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業への取組み姿勢		
70%	30%		
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）			
・ピアノ授業では毎日の練習が技術向上に結びつけることになる。従って、事前及びレッスン終了後の練習が特に必要である。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
Let's play the BEYER	高御堂愛子 他	圭文社	
最新ピアノマーチアルバム	坂 敏子 編集代表	音楽之友社	
こどものうた 200	小林美実 編	チャイルド社	
ブルグミュラー・25の練習曲		カワイ出版	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・講義の進度に応じて、適宜紹介をします。			
そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ） / 課 題 等 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク に つ い て			
※成績評価については、日常の事前、事後学習状況並びに定期試験から評価を行う。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は（瓦林）（阿部）（北嶋）（笹部）研究室にて質問・応答を受ける。		

授 業 科 目 名	音楽 III		
担 当 者 名	瓦林 他	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2200062	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士選択
授業の概要と方法	「音楽Ⅲ」では、授業内容として①幼児唱歌②マーチ③自由曲（ブルグミュラー等）で構成され 90 分で実施している。但し、この教科は幼稚園教諭免許・保育士資格に必要な単位の選択科目として本学では設定している。また、幼稚園教諭・保育士として現場において音楽的表現活動が円滑に行われるよう、その音楽的能力を高めることを目指している。本学では基本的に必修選択として位置づけている。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽の授業を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領とのつながりを重視し、「音楽Ⅲ」で身に付けた音楽技術を持って、かつ磨かれた音楽的能力及び表現力を保育現場において確実に円滑に表現活動ができることを目標とする。 2. 更に、子どもたちに対して、自然に音楽的表現活動が可能となるようなピアノ技術能力を高めることを目標とする。 		
授 業 計 画			
1.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」ステップⅢを中心に一覧表によるピアノ個人指導。		
2.	ピアノ技術指導（応用編）：幼児唱歌を習得するための作品の音楽性、表情及び歌い方について指導する。		
3.	ピアノ技術指導（応用編）：マーチ及び幼児唱歌については、リズム、テンポ、曲の表情について指導する。		
4.	ピアノ技術指導（応用編）：ブルグミュラー等については、作品の要求されるテクニックについて指導する。		
5.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌及びマーチの修得を目指す。		
6.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
7.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
8.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
9.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
10.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
11.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
12.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
13.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
14.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
15.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業への取組み姿勢		
70%	30%		
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）			
・ピアノ授業では毎日の練習が技術向上に結びつけることになる。従って、事前及びレッスン終了後の練習が特に必要である。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
最新ピアノマーチアルバム	坂 敏子 編集代表	音楽之友社	
こどものうた 200	小林美実 編	チャイルド社	
ブルグミュラー・25 の練習曲		カワイ出版	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・講義の進度に応じて、適宜紹介をします。			
そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ） / 課 題 等 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク に つ い て			
※成績評価については、日常の事前、事後学習状況並びに定期試験から評価を行う。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は（瓦林）（阿部）（北嶋）（笹部）研究室にて質問・応答を受ける。		

授 業 科 目 名	音 楽 IV		
担 当 者 名	瓦 林 他	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2200063	授 業 形 態	演 習
学 年	2	開 講 期	後 期
単 位 数	1	履 修 方 法	保 育 士 選 択
授 業 の 概 要 と 方 法	「音楽Ⅳ」では、授業内容として①幼児唱歌②マーチ③自由曲（ブルグミュラー等）で構成され90分で実施している。但し、この教科は幼稚園教諭免許・保育士資格に必要な単位の選択科目として本学では設定している。また、2年後期では保育者として現場に赴くことになるので音楽的表現活動が更に円滑に行われるよう、その音楽的能力を高めることを目指している。本学では基本的に必修選択として位置づけている。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 音楽の授業を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領とのつながりを重視し、2年後期に設定された「音楽Ⅳ」で身に付けた音楽技術を持って、かつ磨かれた音楽的能力及び表現力を保育者として保育現場において確実に円滑に表現活動ができることを目標とする。 2. 更に、子どもたちに対して、自然に音楽的表現活動が可能となるようなピアノ技術能力を高めると同時に子供たちへの音楽的環境づくりができるよう指導の目標とする。		
授 業 計 画			
1.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
2.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
3.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
4.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
5.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
6.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
7.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
8.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
9.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
10.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
11.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
12.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
13.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
14.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児消化及びブルグミュラーの修得を目指す。		
15.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップⅣを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業への取組み姿勢		
70%	30%		
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）			
・ピアノ授業では毎日の練習が技術向上に結びつけることになる。従って、事前及びレッスン終了後の練習が特に必要である。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
最新ピアノマーチアルバム	坂 敏子 編集代表	音楽之友社	
こどものうた 200	小林美実 編	チャイルド社	
ブルグミュラー・25の練習曲		カワイ出版	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・講義の進度に応じて、適宜紹介をします。			
そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ） / 課 題 等 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク に つ い て			
※成績評価については、日常の事前、事後学習状況並びに定期試験から評価を行う。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は（瓦林）（阿部）（北嶋）（笹部）研究室にて質問・応答を受ける。		

授 業 科 目 名	音楽演習		
担 当 者 名	藤松 純子 (合奏) ・ 寿崎 綾子 (わらべうた)	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200072	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士選択

授業の概要と方法	<p>【わらべうた】</p> <p>「わらべうたは」は、子どもの遊びが心の中から生まれた歌である。従って、「わらべうた」は乳幼児期の音楽のあり方を考えるための示唆を与えてくれる。</p> <p>本授業では、豊かな実践力を持った保育者となるために、「わらべうた」を通して、子どもたちに、どのようにかかわっていけば良いのかを具体的に学ぶことに重点を置く。</p>
	<p>【合奏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 概要は、発表会で練習の成果を発表したり、リズム遊びや小編成でのアンサンブルを体験する中で子ども又は保育現場での合奏指導について考える。 ・ 楽器を奏でる楽しみや、アンサンブルをする楽しみを体感し、保育者として豊かな感性を育み、表現力の向上を図ることを目標とする。
履修上の注意等	<p>※「音楽演習」は通年科目であるが、「わらべうた」を半期、「合奏」を半期として開講をする。従って、「音楽演習」の単位修得には「わらべうた」15回、「合奏」15回の受講が必要となる。また、出席回数については原則として「わらべうた」及び「合奏」を半期の科目として取扱う。</p>
授業の到達目標	<p>【わらべうた】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際に歌いながら体験し、「わらべうた」を知る。 2. 「わらべうた」を通して、子どもとのコミュニケーションを深められるようになる。 3. 「わらべうた」を通して歌唱能力、リズム感、聴感などの保育者としての音楽的基礎の向上をはかる。 4. 保護者にも「わらべうた」での子育ての楽しさを伝えられるようになる。
	<p>【合奏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種楽器の扱い方や奏法、基礎的な指揮法、音によるコミュニケーションの取り方、円滑なリハーサルの計画と進め方を習得する。

授 業 計 画 ※			
わらべうた		合奏	
1.	わらべうたとはなにか	16.	オリエンテーション／楽器の説明と取り扱いについて
2.	わらべうたの実践 (幼児) 鬼きめ、しぐさあそび、役交代あそび	17.	打楽器の奏法①スティックを使用して演奏する大きな楽器
3.	わらべうたの実践 (幼児) 門くぐり、鬼ごっこ、隊列をくむあそび	18.	〃 ③鍵盤打楽器
4.	わらべうたの実践 (幼児) かぞえうた、じゃんけんあそび、手あそび	19.	アンサンブル①譜読み、練習
5.	わらべうたの実践 (乳児) 体あそび、手あそび、指あそび、顔あそび	20.	〃 ②発表
6.	わらべうたの実践 (乳児) 舟こぎあそび、膝のせあそび、腕あそび	21.	タンバリンを使っでの隊列移動をしながらの表現① 譜読み、練習
7.	わらべうたの実践とタッチケア (乳児)	22.	〃 ②練習
8.	わらべうたの実践とタッチケア (親子用・子育て支援用)	23.	〃 ③発表
9.	子どもに聞かせてあげる (こもりうた) (季節のうた) (行事のうた)	24.	ドレミパイプを使っでの表現
10.	わらべうたの実践と音楽的ねらい (拍とは) (リズムとは) (はやい、ゆっくりとは)	25.	ミュージックベルを使っでの表現①譜読み、練習
11.	わらべうたの実践と音楽的ねらい (大小とは) (高低とは) (内的聴感とは) (音色の区別)	26.	〃 ②発表
12.	わらべうたをカノンでうたう＝声局でうたう	27.	発表会に向けて①選曲と構成、練習
13.	グループで鑑賞曲を発表する	28.	〃 ②練習
14.	グループで保育計画を考え発表する	29.	発表会のリハーサル
15.	まとめ／保育とは	30.	発表会での発表

成績評価の方法 [評価項目と割合]		
わらべうた		
授業への取り組み姿勢	実技	レポート
40%	30%	30%
合奏		
授業への取り組み姿勢	発表での完成度	定期試験（実技・筆記）
40%	30%	30%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
【わらべうた】：配布されたプリント曲を事後、必ず復習してくることを。 【合奏】：授業で譜読みした項目について、各自で練習してから次の授業にのぞむこと。		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
・講義中に適宜、資料を配布する。		
参考書又は参考資料等		
【わらべうた】 ○「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」文部科学省（フレーベル館） ○「保育所保育指針（平成 29 年告示）」厚生労働省（フレーベル館） ○「幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年告示）」内閣府、文部科学省、厚生労働省（フレーベル館） ○「幼稚園・保育園のわらべうたあそび」畑 玲子、知念直美、大倉三代子（明治図書） ○「わらべうたと子ども」木村はるみ、蔵田友子（古今社）		
その他の（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて		
【わらべうた】 ・実際に体を動かし、歌いながら遊ぶことを通して学ぶ ・上述のとおり、配布されたプリント曲を事後必ず復習してくることを。 ・動きやすい格好をして授業にのぞむこと。		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
【合奏】：junkofujimatsu@yahoo.co.jp（藤松）	【わらべうた】：授業終了後 10 分間は講義室にて待機。	

授 業 科 目 名		図画工作	
担 当 者 名		都 留 守	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2200010	授 業 形 態
学 年		1	開 講 期
単 位 数		2	履 修 方 法
授業の概要と方法		<p>「表現」及び「鑑賞」の活動を通して、豊かな情操を養うことを目指して授業を行う。</p> <p>(授業の概要) 1年間を通して、材料・用具・表現方法・テーマなどと出会い、発想を広げ、構想を練り、表現の見通しを立て、表現活動を行う。作品完成後に作品鑑賞会をする。毎時間「振り返りカード」で自己評価をする。毎時間繰り返すことで、豊かな情操を養う授業を行う。</p> <p>前期では、オイルパステル、水彩絵の具によるモダンテクニックを活用した平面での表現活動に取り組む。また、共同制作の喜びを味わうようにする。</p> <p>後期では、手袋・和紙・糊・綿棒・新聞紙・水・紙粘土など身近な材料を活用した立体表現に取り組む。また、共同制作の喜びを味わうようにする。</p>	
授業の到達目標		<p>(通年目標)「表現」及び「鑑賞」の活動を通して、感性をはたらかせ、つくりだす喜びを味わい、造形的な創造活動の基礎的な能力を養い、豊かな情操を養う。保育者として必要な「造形への意欲・関心・態度」「発想・構造の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」の育成を目指す。</p> <p>(前期目標) モダンテクニックを使って偶然できた色や形から発想を膨らませて構想を練り、表現する力を育成すると共に表現の喜びを味わわせる。パネルシアターをグループで制作することにより共同制作する力を育成すると共に制作の喜びを味わわせる。</p> <p>(後期目標) 目的や用途に合わせて素材を選び、つくり方を工夫し、色・形・素材の特性を生かした組み合わせを考えて表現する力を育成する。と共にその喜びを味わわせる。グループ活動を通して認め合い・励まし合い・高め合う喜びを味わわせる。</p>	
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション (本授業の目的、目標、授業内容・計画、評価方法など) 両面カーボン紙を使って「広がる模様」を描こう	16.	後期のシラバスについて知り、見通しをもとう 手袋人形をつくろう① デモンストレーションを見て、手袋人形作りの計画をたてよう
2.	オイルパステルで「ぼかし遊び」をしよう	17.	手袋人形をつくろう② 手袋人形をつくろう
3.	オイルパステルで「ステンシル遊び」をしよう	18.	手袋人形をつくろう③ 完成した手袋人形で練習しよう
4.	「スクラッチ遊び」をしよう ① オイルパステルで下塗りをした上からアクリル絵の具を塗り、スクラッチ遊びの準備をしよう	19.	手袋人形をつくろう④ 発表会をしよう 和紙でランプシェードをつくろう① ランプシェードの土台をつくろう
5.	「スクラッチ遊び」をしよう ② 竹串や割りばしペンで「心の花」を描こう	20.	和紙でランプシェードをつくろう② 土台に水糊で和紙を貼ろう (下地貼り)
6.	「スクラッチ遊び」をしよう ③ 作品カードのコメントを書いて鑑賞会をしよう	21.	和紙でランプシェードをつくろう③ 土台に水糊で和紙を貼ろう (重ね貼り)
7.	「マーブリング遊び」をしよう 「マドレー遊び」の準備をしよう (定着材)	22.	和紙でランプシェードをつくろう④ 中身を抜いて、補強して完成しよう
8.	「マドレー遊び」をしよう	23.	ランプシェードにあかりを灯そう みんなのランプシェードを並べて点灯式をしよう
9.	モダンテクニックによる「絵の具遊び」をしよう ① スパッタリングで遊ぼう	24.	紙粘土 (Kクレイ) で遊ぼう① Kクレイ体操をして、粘土の特徴を感じよう
10.	モダンテクニックによる「絵の具遊び」をしよう ② ドリッピング、デカルコマニーで遊ぼう	25.	紙粘土 (Kクレイ) で遊ぼう② Kクレイで、自分の個人弁当をつくろう
11.	モノプリントによる「絵の具遊び」をしよう ① シャボンの泡で絵を描こう	26.	紙粘土 (Kクレイ) で遊ぼう③ 個人弁当を完成して、鑑賞会をしよう。
12.	モノプリントによる「絵の具遊び」をしよう ② スタンプング、ビー玉で絵を描こう	27.	紙粘土 (Kクレイ) で遊ぼう④ グループでテーマを決めてグループ弁当をつくろう
13.	モノプリントによる「絵の具遊び」をしよう ③ スポンジローラーで絵を描こう	28.	紙粘土 (Kクレイ) で遊ぼう⑤ グループ弁当を完成して、鑑賞会をしよう
14.	「マーブリング・マドレー・絵の具遊び」でできた画用紙でコラージュをしよう	29.	紙粘土 (Kクレイ) で遊ぼう⑥ 弁当づくりを紹介する動画をつくろう

15.	スチレン版画をしよう	30.	弁当づくり動画の発表会をして、1年間を振り返ろう
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
時間の制作に対する「意欲・関心・態度」「発想・構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」を評価する。	毎時間提出する「振り返りカード」の記述から評価する。	毎時間「振り返りカード」を使って、10項目の評価の観点をそれぞれ5段階で自己評価する。	授業後、鑑賞した作家や作品について自主的に調べたり、展覧会に行き鑑賞したりしたことをレポートで提出したものについては、重く評価する。
50%	30%	20%	+α
授業外で行うべき学習 （準備学習・事後学習等）			
授業で学んだモダンテクニックなどを使って表現活動を行い、表現力を高める努力をする。用途や目的に合わせた身近材の活用や表現方法の工夫などによる表現活動を行い、表現力を高める努力をする。授業で作成したパネルシアター・手袋人形などを、幼稚園・保育所・施設などの実習で活用する。			
参考書又は参考資料等			
<p>1. 「振り返りカード」毎時間配布します。毎時間提出します。</p> <p>2. 「作品鑑賞カード」「作品カード」必要に応じて配布します。</p> <p>○小学校学習指導要領（図画工作）</p> <p>○文部科学省検定済教科書小学校図画工作用「ずがこうさく1・2上、1・2下、図画工作3・4上、3・4下</p> <p>○図画工作5・6上、5・6下」及び指導書、「幼児造形教育の基礎知識」建帛社</p> <p>○幼稚園教育指導資料「指導と評価に生かす記録」文部科学省</p>			
その他の （受講生への要望等）			
できるだけ次に制作するための資料を集めてきてほしい。制作を通して膨らんだイメージを大切にして、授業時間外にも表現活動をして欲しい。作品は、必ず作品観賞会・締め切りに間に合うように提出すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
tsuru@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		体育	
担 当 者 名		木原 寛子	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2200011	授 業 形 態
学 年		1	開 講 期
単 位 数		2	履 修 方 法
授業の概要と方法		<p>〔前期〕 幅広く社会に貢献できる道徳的、社会的人柄の育成を目指し、パワフルでリズム感あふれる身体づくりと健康で安全な生活を営むために必要な知識や能力、体力の向上を図る。また、「天野式リトミック」の体得を通して、リズム感の習得と器用性、集中力、コントロール力を養うと同時に幼児体育に必要な運動とリズムの関係を理解する。</p> <p>〔後期〕 前期に習得した「天野式リトミック」の基本のリズムを用いて、子どもと楽しく身体を動かす方法を学ぶ。保育現場に備えられている手具（縄、ボール、輪）マット、跳び箱、平均台の特徴を活かした運動あそびの展開方法、指導法を学ぶ。またグループ活動を通して個人の能力向上に留まらず、個々の能力を集団の中で活かすことを目指す。保育者として心身の健康に心がけ、豊かな表現力で子どもたちと関わる力を育成する。</p>	
授業の到達目標		<p>〔前期〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心豊かな保育者として健康な身体と豊かな表現力、安全な環境づくりに必要な知識を身につける。 2. 「天野式リトミック」を体得し、運動とリズムの関係性を理解する。 3. グループ活動における仲間との協働にて、お互いを理解し協力し合うことの大切さを理解する。 4. 「救命救急法」の体得と幼児を対象とした水遊びを安全に実施するための留意点と楽しむ方法を学ぶ。 5. 基本のリズムを使って全身運動に繋がる遊びを工夫し展開する方法を学ぶ。 <p>〔後期〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 仲間と協力し、基本のリズムを応用してダンスを創り上げる。 2. 「天野式リトミック」の基本のリズムを使って、手具を用いた運動あそび・指導法を理解する。 3. マット・跳び箱・平均台を用いた運動を通して、指導法、補助法を理解する。 4. 子どもの発達にあった様々な運動あそびを安全に魅力的に実践できるよう運動あそびの指導案を作成する。 	
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション・授業内容について (到達目標と天野式リトミック、運動の重要性を理解する)	16.	大学祭「全員リトミック」に向けたダンス作品創作 (1) 曲・モチーフ決め
2.	「天野式リトミック」を通して、心身の繋がりと自己の身体を知る ストレッチ 1分間トレーニング (毎回)	17.	大学祭「全員リトミック」に向けたダンス作品創作 (2) モチーフ・構成決め
3.	音符の体得 (四分音符、八分音符、二分音符、全音符) 手拍子、足踏み、全身で正しく表現する	18.	大学祭「全員リトミック」に向けたダンス作品創作 (3) 作品を撮影し、映像鑑賞と省察
4.	基本の音符 (四分音符=1拍) を理解し、展開する方法を学ぶ	19.	基本のリズムを組み合わせてグループで動物・乗り物の模倣運動をつくる
5.	手拍子、足踏み、歩く (前後～左右～斜め～回る) スキップ、ギャロップなど基本の動作を体得する	20.	動物の模倣 グループで発表
6.	発令で手足の音符を表現する	21.	基本のリズムを組み合わせてリズムをつくる、手足で表現し暗譜する / 発令に合わせて動く
7.	個人で、2人組で、グループで、全員で音やリズムの変化を楽しみながら習得し、動く楽しさを感じる	22.	休止符による手足をコントロールするトレーニング
8.	「救命救急法」講義・実技	23.	手具を使用して、それぞれの特徴を活かした運動あそびについて (1) 短縄・長縄
9.	幼児を対象とした水遊びとその留意点について	24.	手具を使用して、それぞれの特徴を活かした運動あそびについて (2) 輪
10.	基本のリズムを使って動きを探求する 音楽に合わせて表現する	25.	手具を使用して、それぞれの特徴を活かした運動あそびについて (3) ボール
11.	ダンスステップ・基本のステップ (ギャロップ・ツーステップ・ワルツ・バランスステップ・スキップ)	26.	手具を使用して、それぞれの特徴を活かした運動あそびについて (4) 各手具を組み合わせた運動あそび
12.	音階 (ドレミファソラシド) を両手で表現し基本のステップに合わせる (季節の歌、わらべ歌、童謡を歌いながら表現する)	27.	マット運動 (横転・前転・側転) と跳び箱についての指導法・補助法について
13.	両手を使って「拍子」の体得 (2・3・4・6拍子) カノン・分割・異拍子・手→拍子・足→音符で表現する (反復練習で習得)	28.	平均台・バランス運動 (歩く前後・四つんばい・両手支持) の指導法について

14.	総合練習 ・発令を聞き、体現する。リズムを活かした模倣運動の創作	29.	手具や器具を組み合わせて運動あそびを展開する（安全の配慮、子どもにとって魅力的な環境をつくる）
15.	前期まとめ	30.	後期まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業への取組み姿勢		実技テスト	ノート・レポート
40%		30%	30%
授業外で行うべき学習 （準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・前時間に学んだ内容をノートに記入し、今後自分の資料として活用できるようまとめる。 また、学んだ動きを一日一分でもトレーニングし体得できるようにする。 ・ストレッチを習慣化し体力づくり及び健康維持を心がける。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・必要に応じて資料配布。			
参考書又は参考資料等			
○出村慎一監修『幼児のからだところを育てる運動遊び』（杏林書院）			
その他の （受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・服装はフード付きではない運動着（実習着可）、体育館シューズを着用し、アクセサリ等の装着は禁止する。 ・髪の毛の長い学生は結ぶこと。授業内では自己の身体と向き合い、素直に行動すること。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
tomo119k@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		国語（教職）	
担 当 者 名	高倉 照男	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200012	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	通年
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	乳幼児期の子どもの発達と言葉の習得過程の関連について理解を深め、子どもが豊かな言語活動を身に付けていくにはどうすればよいのかを考察する。そのため、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」にもとづき、絵本・紙芝居・読み聞かせなどの児童文化財による言語活動や具体的保育の事例研究等を通して、保育者として子どもの心や言葉育ての支援の在り方を考える。演習、討論、発表、レポート等。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の子どもの発達と言葉の習得過程の関連について理解を深める。 2. 「言葉の源」は意欲であり、伝えるもとになるメリハリのある生活環境と伝えたい人が必要であることを理解し、保育者の基礎としての能力を身に付ける。 3. 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」における領域「言葉」の内容を理解し、実践的な活動を通して、いろいろな言語活動を身に付ける。 		
授 業 計 画			
1.	授業概要およびオリエンテーション	16.	幼稚園教育要領・保育所保育指針における言葉の指導の実際
2.	言葉をめぐるワークショップ 子どもにとっての言葉	17.	言葉を育てる文化的環境 児童文化財とは何か
3.	言葉の育つ道筋(1) 言葉の前の言葉	18.	「読み聞かせ」の重要性
4.	言葉の育つ道筋(2) 一語文	19.	読み聞かせをしよう(1) グループ A
5.	人とつながる言葉(1) 人との関わりと言葉 1～3 歳	20.	読み聞かせをしよう(2) グループ B
6.	人とつながる言葉(2) 人との関わりと言葉 4 歳・5 歳	21.	オリジナル「絵本」づくり
7.	保育の中の言葉 言葉の育ち 言葉の機能	22.	オリジナル「かるた」づくり
8.	言葉で考える 言葉で考えるための発達の道筋	23.	ストーリーテリング(1) 準備
9.	子どもの言葉を育てる指導	24.	ストーリーテリング(2) 実演
10.	「言葉」遊びから生まれる表現 遊び歌・数え歌	25.	文学作品を読む(1) 童話を読み感想を話し合う
11.	いろいろな言葉遊び(1) しりとり 回文等	26.	文学作品を読む(2) 詩を読み感想を話し合う
12.	いろいろな言葉遊び(2) パズル 反対言葉等	27.	パネルシアター・エプロンシアター・ブックトーク
13.	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」	28.	紙芝居について
14.	言葉のかかわりにおける配慮と相談 保護者の心配ごと	29.	紙芝居の実演
15.	まとめ 〈心と体と言葉の一体的発達〉	30.	まとめ 〈言葉を育てる児童文化財のいろいろ〉
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕			
定期試験	レポート	授業への取り組み姿勢	
70%	20%	10%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・5月の連休明けに、①絵本、②幼少年童話、③児童文学等を読んで感想文をレポート用紙一枚に書いて提出してもらいます。 ・後期のストーリーテリング、読み聞かせ、紙芝居等の作品を夏休み中に決定しておいてください。 ・26回目には、童話の感想文をレポート用紙一枚に書いて提出してもらいます。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
シードブック 保育内容 言葉	榎沢 良彦 他	建帛社	
演習 保育内容 言葉	戸田 雅美	建帛社	
参考書又は参考資料等			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文部科学省編『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館 2. 厚生労働省編『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館 			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
<ul style="list-style-type: none"> ・教養を磨くため、自己挑戦的にノルマを決めて、毎日少しでも読書をする。 ・各活動で活用できる絵本、昔話、幼年童話等、1冊でも多く目を通す。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
	授業終了後 10 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名		保育制度論	
担 当 者 名	上村 初美	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200013	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	<p>幼児教育を志す者にとっては、幼稚園、児童福祉施設等（保育所も含む）に関する現行制度を理解することが求められている。</p> <p>そこで、教育行政の立場から、幼児教育の制度の仕組みやその考え方を学ぶことを目的とする。プリント・資料を用いて学ぶ。</p>		
授業の到達目標	<p>公教育の原則及び法制度的な理念に関する用語を理解し、現実の教育問題を制度的な視点から考察することを身に付ける。</p>		
授 業 計 画			
1.	子どもと保育の基本について		
2.	教育関係法にもとづく教育機関について—学校・幼稚園・認定こども園		
3.	教育関係法にもとづく教育機関について—保育所およびその他の児童福祉施設		
4.	日本の学校制度の変遷と今後について		
5.	幼稚園、認定こども園、保育所に関する制度と法規について		
6.	幼稚園の管理運営について—学校安全や感染症等への対応・児童虐待等		
7.	幼稚園の管理運営の基本について—感染症・予防接種法・児童虐待・食育基本法等		
8.	保育者の身分や資格について／保育者の職責に関する法令		
9.	保育者の身分や資格について／保育者の勤務条件とこれからの改善点		
10.	法規にもとづく施設設備に関する事		
11.	保育所等、児童福祉における法的な措置について		
12.	幼児教育関係文書について		
13.	幼児教育の現状と課題／保育関連、新制度などについて —子ども・子育て新制度・学校と地域の連携・子育て支援等		
14.	幼児教育の現状と課題／保育関連、新制度などについて —自己評価・第三者評価など		
15.	まとめ		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業への取組	その他（提出物）	
70%	20%	10%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）			
・倉橋惣三『育ての心』を読み、講義内容の理解に役立ててほしい。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
『最新保育資料集 2018』	森上史朗ほか編著	ミネルヴァ書房	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
<p>1. 文部科学省編『幼稚園教育要領（平成 29 年告示）』フレーベル館。</p> <p>2. 厚生労働省編『保育所保育指針解説（平成 29 年告示）』フレーベル館。</p> <p>※（倉橋惣三『育ての心』、ルソー『エミール』（特に上巻）ほか）</p>			
そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ） / 課 題 等 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク に つ い て			
・受講に際しては、礼節を弁えた態度で臨まれることを希望する。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて質問等対応可。		

授 業 科 目 名	教育方法論		
担 当 者 名	木本 節子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200014	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	幼稚園教諭必修

授業の概要と方法
 教育方法とは子どもが教師や他児との集団の中で環境にかかわり、みずからの成長・発達に必要な体験をしていく状況をつくりだす具体的な方法、つまり教師の援助方法である。その方法を実現するために教師は子どもを観察し、環境（情報活用能力を含む）を工夫し、子どもの生きる力の基礎を育むための資質・能力・指導力が重要である。そこで10年前より附属幼稚園の指導計画（筑紫オリンピック）と「教育方法論」・領域『健康』とのシラバスを一体化し、筑紫オリンピックを通して教育方法の位置づけを図り、教師としての知識や技能を身に付けることを養成する。

授業の到達目標

（1）教育の方法論
 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。
 1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。
 2) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。
 3) 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。
 4) 学習評価の基礎的な考え方を理解している。
 ※幼稚園教諭は「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。」

（2）教育の技術
 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。
 1) 話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。
 2) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。

（3）情報機器及び教材の活用
 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。
 1) 子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。
 ※幼稚園教諭は「子供たちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。」
 2) 子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。

授 業 計 画		到達目標
1.	「教育方法論」の意義（オリエンテーション）担当者作成資料	(1) -1)
2.	教育・保育方法の基本（保育の営みについて）	(1) -1) 2) 3) 4)
3.	教育・保育方法の基本（保育の形態について）	(1) -1) 2) 3) 4)
4.	教育方法の基本（環境による保育） 事例を通して教育的価値観のある人的環境・物的環境とは	(1) -1) 2) 3) 4)
5.	教育方法の基本（環境による保育） 教育的価値観のある自然・時間・空間とは	(1) -1) 2) 3) 4)
6.	教育の基本 { ・幼児期にふさわしい生活の展開方法 ・遊びを通しての指導と統合的指導について ・特性に応じた指導について } 担当者資料作成	(1) -1) 2) 3) 4) (2) -2)
7.	保育の手順（指導案）について（担当者資料作成）	(1) -1) 2) 3) 4) (2) -2)
8.	行事を展開させる方法（「筑紫オリンピック」への準備）	(1) -1) 2) 3) 4) (2) -2)

9.	「筑紫オリンピック」参加（子どもの姿や教師の援助を学ぶ）	(1) -3) 4)
10.	「筑紫オリンピック」について総評（アクティブラーニング）	(1) -4) (2) -1)
11.	「筑紫オリンピック」についての子どもの育ちと学び	(1) -3) (2) -2) (3) -1)
12.	発表方法を自分たちで考える（情報機器の活用）	(1) -1) (3) -2)
13.	全体のまとめ（保育の思想家・実践家について） 発表と評価（相手に伝える方法について学ぶ）	(2) -1) 2)
14.	全体のまとめ（保育者としての使命・責任について） 発表と評価（発表評価をおたがいに伝え資質向上に繋いでいく）	(1) -4) (2) -1) 2)
15.	まとめ カルテ作成 定期試験について	(1) -3) (2) -2) (3) -2)
成績評価の方法 【評価項目と割合】		
定期試験	授業への取り組み姿勢	ICT活用（筑紫オリンピック発表）
50%	20%	30%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
授業終了後の「ふりかえり」を行い、次へのステップに繋いでほしい。		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
保育方法・指導法（最新保育講座）	大豆生田啓友他編	ミネルヴァ書房
参考書又は参考資料等		
1. 文部科学省編『幼稚園教育要領（平成29年告示）』フレーベル館。 2. 厚生労働省編『保育所保育指針解説（平成29年告示）』フレーベル館。 3. 担当者作成資料。		
その他の（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて		
「情報処理学」の学びを理解し、その活用と効果的な作成ができる。		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
講義開始後に改めて連絡をします。	講義終了後の質問等対応可	

授 業 科 目 名	保育指導論		
担 当 者 名	岩橋 敏子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200015	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	指導とは幼児を好ましい方向に導く総合的な捉えや行為である。そのことは保育者の大きな役割であり、保育者自身の保育観・資質によって子どもの育ちが変わってくる側面をもつ。1年次で習得した教育方法に繋がる指導論を学ぶことにより、実践力を学び指導力のある保育者を目指す。授業内容としては講義を中心とし、数例の実践例から指導案作成を手がけていく。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 幼稚園教育要領に示された幼稚園の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本や各領域のねらい及び内容と具体的事例を基に指導力ある保育者としての姿や全体構造が理解できる。 幼児にとって、環境による教育・体験学習なぜ大切であるかまた、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点が理解できる。 遊びをどのように捉え、援助していくか総合的指導の重要性について幼稚園における評価の考え方を理解できる。 幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解できる。 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 <ol style="list-style-type: none"> 幼児理解や援助のあり方により、保育が変わることや幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 子どもの自発性を尊重することと保育者の指導性の関係について理解を深めることができ、各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 		
授 業 計 画			
1.	幼稚園教育要領解説（1）幼稚園教育要領及び保育所保育指針について再認識		
2.	幼稚園教育要領解説（2）ねらい及び内容と5領域の捉え方についての理解		
3.	環境による保育について・・・人的、物的、自然的を捉えて行う環境における保育援助		
4.	総合的指導について・・・5領域と総合的指導の捉えから遊びを通して総合的に育つことへの理解		
5.	保育方法の原理について・・・集団と個の育ち、 自発性と指導性について支援を要する子ども理解とクラス運営		
6.	指導計画について・・・指導計画とは何か、情報機器及び視聴覚教材を活用しながら幼児教育と 小学校教育の指導法の違いについて学ぶ		
7.	指導案作成（1）・・・実際の教育課程・指導計画を持ち寄り指導法について学ぶ		
8.	指導案作成（2）・・・長期指導計画・短期指導計画について援助と指導の捉え方を学ぶ（グループ討議）		
9.	指導案作成（3）・・・実際の指導計画を持ち寄り、実践例を基にグループで具体的に作成		
10.	指導案作成（4）・・・実際の指導計画を持ち寄り、実践例の子どもの姿を基に個別に作成（情報処理演習）		
11.	指導案作成（5）・・・模擬保育（案）を目指して指導案作成（情報処理演習）		
12.	指導案作成（6）・・・添削部分を修正しながら、子ども理解、目標、保育の内容、保育者の役割、評価に ついて学ぶ（情報処理演習）		
13.	保育活動の実践について（1）・・・模擬保育（ねらい及び内容に沿って指導することを実践する）を グループで実施する		
14.	保育活動の実践について（2）・・・模擬保育をグループで実践する		
15.	まとめと評価・・・評価と改善から模擬保育の振り返り		

成績評価の方法 [評価項目と割合]		
定期試験	指導案の作成提出	授業への取り組み
60%	20%	20%
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
・指導案作成時は添削を繰り返します。次の授業までに必ずしあげておくこと。		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
『幼稚園教育要領解説 (平成30年3月)』	文部科学省編	フレーベル館
『保育方法指導法の研究』	森上史朗他	ミネルヴァ書房
参考書又は参考資料等		
1. 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館。 2. 文部科学省編『幼稚園教育要領 (平成30年3月)』フレーベル館。 3. 厚生労働省編『保育所保育指針 (平成30年3月)』フレーベル館。 4. 厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成30年3月)』フレーベル館。 ※その他、授業中に適宜資料を配付する。		
その他の (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて		
・自宅や学生ホールなどで入力できるように USB を持参しておくこと。 ・授業ファイルを作成 (毎回配布する資料添付) すること。 ・提出物は期日までに提出すること。授業内容についての質問等が必要な学生には授業終了後及びオフィスアワーにて対応する。		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
t0106h0730@hcc.ac.jp		

授 業 科 目 名		特別支援教育概論	
担 当 者 名	山田 幸代	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200076	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	「発達障害」と鑑別診断された幼児、児童生徒のみならず、その疑いをもちざるを得ない幼児や児童生徒は一般の保育現場及び通常学級にもかなりの割合で在席している。さらに「特別の支援」という概念を広げるならば、全ての幼児、児童生徒がそれぞれ「特別な支援を必要とする子どもたち」であると考えられる。本講は、発達心理学、対人心理学、知能心理学の視点から、幼児、児童生徒の自己実現を支援する方法を講義及び演習で学ぶことを目的とする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育に関する制度や理念を理解している。 2. 特別支援教育を要する幼児、児童生徒の発達特性や心理・行動特性を理解している。また、以上の特性を科学的根拠に基づいて把握できるように発達・知能・社会性に関する検査法などを理解している。 3. 特別支援教育に関する種々の視点からその方法を理解し、例示することができる。 4. 「生活単元学習」「自立活動学習」の教科課程上の位置づけと内容を理解している。 5. 特別支援教育の対象となる幼児、児童生徒について他機関などとの連携を理解している。 		
授 業 計 画			
1.	「特別の支援を要する子どもたち」(導入-事例提示)		
2.	生物学的存在の「ヒト」から社会的存在の「人」へ。 子どもへの3つのきょういく「胸育」「共育」「教育」の視点(事例提示)		
3.	心身の発達と3つのきょういく(1) 種々の阻害要因と特別な支援のあり方 - 検査法の概説		
4.	心身の発達と3つのきょういく(2) 発達や成熟とともに生じる「子どもが示す生き辛さ」に関して		
5.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ(1) 知的障害		
6.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ(2) 肢体不自由		
7.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ(3) 視覚・聴覚障害		
8.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ(4) 発達障害 ADHD		
9.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ(5) 発達障害 ASD		
10.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ(6) 発達障害 SLD		
11.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ(7) 精神疾患、若年性うつ、統合失調症		
12.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ(8) 家庭の問題。虐待など		
13.	特別支援教育のプログラム作成。事例提示と対応を考える(1) グループでのプログラム作成		
14.	特別支援教育のプログラム作成。事例提示と対応を考える(2) 発表と討議		
15.	受講者各自にとっての「特別支援教育とは何か」。レポート作成		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験	レポート作成		
70%	30%		
授業外で行うべき学習(準備学習・事後学習等)			
適時指示する。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
適時指示する。			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文部科学省編「特別支援教育の現状と課題」(平成27年4月)。 2. 北九州市立特別支援教育相談センター編「てをつなごう-お子様のすこやかな成長のために-」。 3. 文部科学省編『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館。 4. 厚生労働省編『保育所保育指針解説(平成29年告示)』フレーベル館。 			
そ の 他 (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて			
適時指示する。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡します。			

授 業 科 目 名		幼児の理解と教育相談	
担 当 者 名	寺本 普見子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200016	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	幼児理解の意義と重要性を理解し、保育実践と結びつけて考察する力を身に付ける。また、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原因や対応について、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付ける。		
授業の到達目標	<p>一般目標</p> <p>幼児理解についての知識を身に付け、考え方及び基礎的態度を理解する。</p> <p>1) 幼児の遊び及び生活の実態に即した幼児理解の意義を理解している。</p> <p>2) 家庭、幼稚園、地域等の幼児を取り巻く環境の特質や関連性を捉えることの意義を理解している。</p> <p>3) 幼児理解から発達及び学びを捉える原理を理解している。</p> <p>4) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。</p> <p>到達目標</p> <p>幼児理解の方法を具体的に理解する。</p> <p>1) 観察及び記録の意義並びに目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。</p> <p>2) 個と集団の関係を捉える意識及び方法を理解している。</p> <p>3) 幼児のつまずきを周りの幼児の関係及びその他の背景から理解することができる。</p> <p>4) 保護者の心情及び基礎的な対応の方法を理解している。</p>		
授 業 計 画			
1.	保育の出発点としての幼児理解	－幼児理解と評価との関係を学ぶ	
2.	幼児の発達に関わる様々な課題	－保育実践事例から幼児の気になる行動の課題を捉える	
3.	幼児の自己表現と受容する他者との関係	－幼児と保育者の温かい関係・信頼関係の重要性	
4.	幼児の発達や学びの過程を捉える視点	－遊びの中で幼児が何を学び、身に付けているか読み取る	
5.	「自分」の世界と「友達」の世界の広がり（ロールプレイング）	－協同性の育ちを捉える視点	
6.	気になる子どもの事例からの学び	－けんかやつまずきの場面から個の育ちと集団の育ちを読み解く	
7.	気になる行動への教師の対応（姿）と周囲の幼児の受け止め（ロールプレイング）	－教師の対応（姿）から周囲の幼児は何を学んでいるかを考える	
8.	観察・記録の方法と分析・考察の視点	－幼児の発達や学びを捉える観察及び記録の方法（情報機器及び教材を使って事例研究）	
9.	演習：観察・記録の実践	－幼児の遊びの様子を観察し、記録する	
10.	発達と協議：観察・記録のまとめについて協議	－グループ協議から、多様な見方、考え方に気付く	
11.	観察・記録からの幼児理解と学びの読み取り	－学びのつながり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（情報機器活用）	
12.	子育てに関わる現代的な課題の特徴	－事例から子育ての支援の課題を捉える	
13.	カウンセリングの技法	－カウンセリングの基礎的な姿勢と技法を学ぶ	
14.	演習：保護者へのロールプレイ	－保護者への心情の理解と家族への支援の方法を学ぶ	
15.	支援体制の整備と家族や地域との連携	－園内の協力体制と専門機関等との連携の在り方	
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	折々に提示する課題への取り組みと内容	提出物及びレポート	
50%	30%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
各回の講義にて、準備学習、事後学習について連絡する。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
幼稚園教育要領解説	文部科学省編	フレーベル館	
保育所保育指針解説	厚生労働省編	フレーベル館	

参考書又は参考資料等	
大竹直子『やさしく学べる保育カウンセリング』金子書房。 ※授業の中で、参考書や参考文献を紹介する。	
そ の 他 (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて	
① 授業ファイルを作成（毎回の授業内容を記述、配布した資料を添付）してください。 ② 提出物は期日までに提出してください。 ③ 授業内容について質問等、対応が必要な学生には授業終了後、あるいはオフィスアワーを設けて対応します。	
担当教員の連絡先等	
担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡をします。	

授 業 科 目 名		教育実習事前・事後指導	
担 当 者 名	梶田 郁子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200017	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	幼稚園教育の概要（幼稚園の役割・幼稚園における保育の基本等）を学習し、教育実習にそなえて保育者としての人間性について学ぶ。また、教育実習に臨む心構えと態度、教育実習記録の書き方、まとめ方等の教育実習に関する内容について実例を通して学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義と心構えが理解できる。 2. 幼稚園の役割と幼児理解の大事さや発達過程が理解できる。 3. 実習の種類や実習記録の書き方が理解できる。 		
授 業 計 画			
1.	実習の意義と目標—実習とは何か・実習の種類・実習の時期と単位		
2.	実習の意義と目標—幼稚園の生活と保育者の職務を理解する		
3.	実習の心構えと準備—実習の心構えと心得について		
4.	実習の心構えと準備—実習段階における内容と実習方法について		
5.	実習の心構えと準備—実習に向けた提出書類と実習先幼稚園への連絡方法について		
6.	園生活と幼児理解—幼稚園の一日の流れ、幼児の遊びの姿について		
7.	園生活と幼児理解—幼児の発達理解について学ぶ		
8.	園生活と幼児理解—ビデオを通して教師の援助のあり方を学ぶ		
9.	実習記録の書き方—実習記録とは何か		
10.	実習記録の書き方—記録を書く目的や形式、書く視点の内容、記録をとる際の注意事項		
11.	実習記録の書き方—観察実習の一日を記録するために 練習（1）週日案の書き方		
12.	実習記録の書き方—観察実習の一日を記録するために 練習（2）生活の流れ、環境の構成、指導上の援助・配慮		
13.	実習記録の書き方—観察実習の一日を記録するために 練習（3）園舎内・外		
14.	観察実習の心構え—観察実習に向けた心構えと準備内容の確認		
15.	まとめ		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
小テスト	授業への取り組み		
70%	30%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
実習で使う漢字や援助の書き方については復習をしてほしい			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
幼稚園実習保育所・施設実習	大豆生田啓友・高杉 展・若月芳浩編	ミネルヴァ書房	
幼稚園教育要領解説	文部科学省		
保育所保育指針解説書	厚生労働省		
実習の手引	東筑紫短期大学 編		
幼稚園の教育実習実施要項	東筑紫短期大学 編		
参考書又は参考資料等			
講義の進度に応じて、適宜紹介をする。			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
前半は幼稚園や実習についての知識を講義にて学び、後半は実習記録の書き方を中心に演習で学ぶ。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		教育実習事前・事後指導	
担 当 者 名	梶田 郁子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200017	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	1. 実習終了後、自分が立てた実習目標に従って学んだこと、幼児観を形成するのにどのように役立ったかなどについて学び合う。 2. 実習先で得た貴重な体験をグループで発表し合い、幼稚園教育についての理解を深める。さらに実習体験を今後の学習に生かすと共に、自己の保育観、幼児観が持てるようにする。		
授業の到達目標	1. 実習を基に、自分の幼児観や保育観を確かなものにでき、保育者像をもつことができる。 2. 実習後自己評価して自分の課題を明確に持ち、保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 3. 実践力育成のために、子どもの発達と保育の展開について実践や事例を通して学ぶ。		
授 業 計 画			
1.	2 回目の実習目標 (1) ・ 1 回目の実習を振り返り、2 回目の実習目標を明確にする ・ 実習記録の書き方について		
2.	2 回目の実習目標 (2) 部分実習の指導案を書く		
3.	2 回目の実習目標 (3) 一日実習の指導案を書く		
4.	幼稚園実習のまとめ (1) 実習記録のまとめ方,自己研究のまとめ方		
5.	幼稚園実習のまとめ (2) 実習後の振り返りと自己評価について分析		
6.	実習後に学んでおくこと (1) 実習で学んだ保育者の仕事について		
7.	実習後に学んでおくこと (2) 実習で学んだ幼児の発達と遊びについて		
8.	実習後に学んでおくこと (3) 子どもが充実する遊びについて		
9.	幼児理解と評価 (1) 幼児理解と評価の考え方		
10.	幼児理解と評価 (2) よりよい保育をつくり出すために		
11.	幼児理解と評価 (3) 適切な幼児理解と評価のために		
12.	幼小の接続を考えた保育展開 (1) グループで言葉・数量・科学リテラシーを育てる保育を考える		
13.	幼小の接続を考えた保育展開 (2) グループで考えた保育の感想・課題を話し合う		
14.	子どもが求める保育者像とは？		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
小テスト	授業で書いたレポートや話し合いの記録等		
70%	30%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
より理解でき実践力を高めるのに繋がると思うので、事前に教科書や資料を読んで学習に臨んでほしい。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
幼稚園教育要領解説	文部科学省		
実習の手引	東筑紫短期大学 編		
幼稚園の教育実習実施要項	東筑紫短期大学 編		
参考書又は参考資料等			
講義の進度に応じて、適宜紹介をする。			
そ の 他 (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて			
実習に行く前は、実習に必要な内容を学習し、実習後はその実践を基に実践力を高めるような演習をする。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名	教育実習		
担 当 者 名	梶田 郁子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200018	授 業 形 態	実習
学 年	1・2	開 講 期	後期(1年)・通年(2年)
単 位 数	4(※1年後期・2年通年を合計した単位数)	履 修 方 法	幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	1. 教育実習の時期 1年次(後期)附属幼稚園において、見学・観察実習 2年次(前期)学外実習(参加実習・責任実習(部分指導実習)) 2年次(後期)学外実習(参加実習・責任実習(部分または一日指導実習)) 2. 教育実習の実習期間・総時間数 附属幼稚園観察実習 1年次後期隔週5回 第1回目学外実習 2年次5月下旬の1週間 第2回目学外実習 2年次10月上旬の2週間		
授業の到達目標	1. 実習を通して幼児教育の重要性、保育者としてそなうべき人間性や技術の必要性等について理解する。 2. 附属幼稚園での観察実習では、保育の観察記録を作成することを通して、園生活の流れ、保育の在り方を学ぶと共に、幼稚園の施設・設備・遊具等の配置、活用状況を観察し、幼児教育のあり方を理解する。 3. 学外実習で幼児と触れ合う中で、幼児理解に努めると共に、部分実習や一日実習を通して幼児への関わり方や援助のあり方を理解する。また、具体的な保育者像を目指して自己課題を解決しようとする意欲をもつ。		
授 業 計 画 [学外実習の内容含む]			
教育実習内容 (1) 幼児の理解 保育は一人一人の幼児を望ましい方向に発達させる営みであるから、幼児をよく理解することが必要である。幼児理解のためには、単に一面からのみでなく、いろいろな角度から観察し、その実態を把握しなければならない。容貌が一人一人異なっているように、幼児個々の能力・興味・欲求なども多様であり個人差も大きいのである。そこで本学で学んだ「幼児は自ら育とうとする」幼児観にたつて、幼児の目線においてより確かな幼児理解に努めて欲しいものである。それが幼児と実習生の信頼関係を生むのである。 (2) 保育方法(指導方法)の習得 保育方法の習得では、指導計画作成に関するものと、計画に沿った保育活動の展開等での指導技術に関するものがある。年間・期・月の指導計画では幼児の活動の予想だてをし、週・日案では眼前の幼児をしっかり理解して作成する。そしてその計画した活動を楽しくしていく方法を実習を通して学ばなくてはいけない。また、長期の指導計画は幼児の生活を長期的に見通しながら、具体的な指導の順序や方法を大筋で捉えたものであるが、短期の指導計画では、幼児の実態に応じてどのような方法で活動し経験させるかを考えていかなければならない。そこで、実習の場では、経験のさせ方、即ち保育方法を園長や教師の保育を参観したり、手伝ったりして学ぶと共に、実習生自らが実際に指導して、指導助言を受け、望ましい指導方法を学び取っていかなければならない。 (3) 保育環境の理解 保育環境には物的環境と人的環境が考えられ、いずれも幼児が情緒を安定させて自立へ向けて遊び、一方では生活習慣づくりに向かわせて幼児の成長発達を促すためのものである。物的環境としての園の施設設備・遊具などが幼児の自発性を刺激して遊びをさかんにするために、どのように整えられたり、利用されたりしているかをよく理解することである。また、人的環境としては、教師と幼児、幼児同士などがあげられ、その中でも幼児集団での「自分」の出し方や振る舞い方には注意をする。幼児集団の実態を踏まえた生活指導、教師の関わり方を学び取ってほしいものである。また、職員同士がつくる園の雰囲気も幼児に微妙な影響を与えることに留意する必要がある。 (4) 園や園運営の理解 園には園長、教諭の他に、園務に携わる人々がおり、その人たちが園運営のためにどのように関わっているか、また、園長や主任、担任はそれぞれの任務をどのように遂行しているかを理解していくこと、そして、実習生は職員に準じた一員として責任ある行動をとってほしいものである。 (5) 新しい課題の発見 実習にあたり、各自は自分なりに課題をもって参加しているであろうが、実際とはかなりずれることが多いものである。特に幼児理解をはじめ、保育指導にあたっての思いと実際のズレなどである。そこで、実習生として、その事態を謙虚に受け止め、反省のもとで新たな課題を見つけて挑戦して欲しいものである。 また、その課題によっては学校にもちかえっての保育研究に生かしたいものである。			
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
実習記録と実習評価			
100%			

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
・基本的な生活習慣を身につけるよう心がけてほしい。（身だしなみ・挨拶・言葉づかい・時間を守る等）		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館
教職課程履修の手引き	東筑紫短期大学 編	
幼稚園の教育実習実施要項	東筑紫短期大学 編	
参考書又は参考資料等		
・相談等に応じて、適宜参考資料を紹介する。		
その他の（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて		
<p>教育実習生に対する指導の方法 幼稚園教育の概要（幼稚園の役割・幼稚園における保育の基本等）と、教育実習にそなえて保育者としての人間性について指導する。また、教育実習に臨む心構えと態度、教育実習記録の書き方、まとめ方等の教育実習に関する内容について事例を通して指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前の学内オリエンテーションは必ず出席すること。 ・実習記録は決められた期日までに必ず提出すること。 ・休んだり、実習記録が未提出だったりした場合は、追加補完実習参加となる。 ・無断欠席の場合は、実習中止になる場合がある。 		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
i.masuda@hcc.ac.jp		

授 業 科 目 名	保育原理		
担 当 者 名	前川 公一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200019	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 保育士必修
授業の概要と方法	乳幼児期の教育のあり方が将来の人間形成の基礎として極めて重要である。そのため、保育者には乳幼児を養護・教育し、心身の健やかな成長を助ける重要な責務と大きな期待が寄せられている。そこで、保育原理の授業では、保育の意義、保育に関する法令及び制度、保育の基本、保育の内容と方法、保育の思想、保育の現状と課題などを学ぶようにする。そして、保育についての幅広い視野を養い、基礎的な知識を身に付け、よりよい保育を考える力を育てることを目指す。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義や目的、保育所保育の特性について理解できる。 2. 保育に関する法令及び制度について理解できる。 3. 保育所保育指針における保育の基本について学び、そのねらいや内容について理解できる。 4. 保育の思想と歴史の変遷について理解できる。 5. 保育の現状と課題について理解できる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション・・・教科の内容、講義の進め方、試験・評価の仕方		
2.	保育の意義と理念		
3.	現代の子どもの問題・・・子どもの最善の利益、家庭の養育力、地域環境		
4.	子ども家庭福祉の法体系・・・保育の位置づけ、社会的役割、関係法令		
5.	子ども・子育て支援新制度		
6.	保育所保育指針における保育の基本・・・保育における養護・教育		
7.	0, 1, 2 歳児の発達と保育の目標・内容・環境・方法		
8.	3, 4, 5 歳児の発達と保育の目標・内容・環境・方法		
9.	子どもの理解に基づく保育の過程とその循環		
10.	保育における国際化、障害のある子どもへの指導、外国人の子どもの保育等		
11.	保育者の資質向上と評価・・・保育の計画と評価		
12.	諸外国における保育の思想と歴史		
13.	日本における保育の思想と歴史		
14.	保育の現状と課題		
15.	保育原理のまとめと評価		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	レポート		
70%	30%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・授業の中で参考図書や文献を紹介するので、本学の図書館等で積極的に読んで下さい。また、新聞やテレビなどを通して最新の教育の動向や保育の課題について把握するようにして下さい。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
『保育原理-保育者になるための基本- [改訂版]』	金村美代子編著	同文書院	
参考書又は参考資料等			
授業の中で、参考書や参考文献を紹介します。			
そ の 他 (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて			
・この授業は、保育にかかわる様々な課題や問題について広く学ぶので、保育園や幼稚園を見学し、教育や保育の実際についてイメージを膨らませておいて下さい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
maekawa@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	教育原理		
担 当 者 名	前川 公一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2000014	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	今、子どもたちに「生きる力」をはぐくむ保育者が求められている。そのため、保育者にはそのような教育実践ができる高い専門的力とそれを支える豊かな人間性や確固とした教育理念が必要となる。そこで、教育原理の授業では、教育の意義や目的及び児童福祉等のかかわり、教育思想と歴史の変遷、基礎理論、教育制度、生涯学習の現状と課題を学ぶようにする。それにより教育について幅広い視野を養い、基礎的な知識を身に付け、考える力を育てることを目指す。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 教育の意義や目的、教育と児童福祉について理解できる。 2) 欧米の教育思想が、日本の幼児教育の分野に大きな影響を及ぼしていることを理解できる。 3) 教育が制度として、どのように運営されているかについて理解できる。 4) 教育内容、方法、計画と評価のあり方について、歴史的な経緯を踏まえながら現代的な課題を理解できる。 5) 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解できる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション・・・教科の内容、講義の進め方、試験・評価の仕方		
2.	教育の意義と目的		
3.	教育と児童福祉		
4.	古代の教育、中世の教育、近世の教育思想		
5.	近代の教育思想の成立、近代公教育制度の確立		
6.	日本の教育思想と子ども観		
7.	日本の教育制度の基礎、子どもの権利の特質、日本国憲法		
8.	日本の教育法規・教育行政の基礎		
9.	日本の学校教育に関する制度、教員に関する制度		
10.	教育実践の基礎理論と教育の方法		
11.	教育内容と教育指導の原理		
12.	教育実践の多様な取り組み		
13.	生涯学習社会の概念、教育評価		
14.	現代の教育課題		
15.	教育原理のまとめと評価		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験	レポート	授業への取り組み	
70%	10%	20%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・授業の中で参考図書や文献を紹介しますので、本学の図書館等で積極的に読んでください。また、新聞やテレビなどを通して、最新の教育の動向や保育の課題について把握するようにして下さい。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
新保育士養成講座第2巻『教育原理』改訂2版	新保育士養成講座編纂委員会編著	全国社会福祉協議会	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
文部科学省編『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針解説(平成29年告示)』フレーベル館 ※その他、授業の中で、参考書や参考文献を紹介する。			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等) / 課 題 等 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク に つ い て			
・教育原理に取り上げる内容を十分に理解し、保育者になる基礎的知識を身に付け、それらを生かした保育実践ができるようになることを期待します。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
maekawa@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		子ども家庭福祉	
担 当 者 名	古野 誠生	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200020	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 保育士必修
授業の概要と方法	子ども家庭福祉の意義や歴史の変遷から制度、実施体系など基本的な知識を学習していきます。その上で、児童虐待・DV等の問題を取り上げていき、子ども家庭福祉に携わる専門家に必要とされる資質を構築していけるようにします。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童家庭福祉の現状を説明できる。 2. 子どもの行動に関する問題を説明できる。 3. 児童家庭福祉の歴史と仕組みを説明できる。 4. 児童家庭福祉行政と実施機関を理解する。 5. 児童家庭福祉の実践を理解する。 		
授 業 計 画			
1.	社会福祉と子ども家庭福祉		
2.	子ども家庭福祉とは		
3.	子どもの権利擁護、子どもの権利擁護の歴史		
4.	子ども家庭福祉の歴史		
5.	児童家庭福祉の法体系		
6.	児童家庭福祉の実施体系、制度		
7.	少子化対策と子育て家庭への支援		
8.	母子保健と健全育成		
9.	子どもと暴力		
10.	社会的養護とは		
11.	障害のある子どもの福祉		
12.	少年非行と支援		
13.	子どもと貧困		
14.	子育てと保育サービス		
15.	専門職との連携、教科のまとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業への取組み姿勢・提出物		
70%	30%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
準備学習：課題の調べ学習をすること。 事後学習：授業で理解したことの整理をしておくこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会 保育と子ども家庭福祉	櫻井奈津子 編著	みらい	
参考書又は参考資料等			
○「保育福祉小六法 2019年度版」(みらい)			
○「保育実践と児童家庭福祉論」相澤譲治・今井慶宗 編著 (勁草書房)			
○「保育者のための児童家庭福祉データブック 2018」一般社団法人全国保育士養成協議会 監修 (中央法規)			
そ の 他 (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて			
・日頃より社会福祉や社会問題に関心を持ち、こころのアンテナを鋭敏にしてください。			
・授業時に出す課題など、その場で考え筆記、提出してください。成績評価の対象にします。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		子ども家庭福祉演習	
担 当 者 名	古野 誠生	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200021	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	1 年次の「児童家庭福祉」を、教材作り、レポート作成、レポート発表等を通じて深めるとともに、保育所実習、幼稚園実習、施設実習などの体験を通して、児童家庭福祉を理解し、「保育実習Ⅰ（施設実習）」と関連づけて、被虐待児及び発達障害者・児を含めた障害者・児への対応を習得する。		
授業の到達目標	<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期の発達について理解する。 2. 児童家庭福祉について、演習、見学、レポート発表を通して深く理解する。 3. 保育所・幼稚園・施設における実習の経験を通して児童家庭福祉を理解する。 4. 大学祭や保育・教職実践演習につながる教材作りを学ぶ。 5. 視覚障害、身体障害の体験実習を通して児童家庭福祉について理解する。 <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児や障害児等の生活習慣形成に必要な絵カードを作成する。 2. 保育者として必要な子どもの生活習慣の指導法を学ぶ。 3. 子どもの基本的な生活習慣について考察し、レポートを作成する。 4. 発達障害についての理解、環境構成考案など保育者としての心構えを習得する。 5. 子どもが示す様々な信号を受け止め、適切な対応法を学ぶ。 		
授 業 計 画			
1.	本講義の概要及びオリエンテーション	16.	絵カード作り (1) : 担当者指定の絵カード作成
2.	児童家庭福祉の現状について (DVD 視聴等)	17.	手作り教材作り (1) : 教科担当者指定の教材作成
3.	下記のテーマを自由に選んでレポート作成。 里親制度、肢体不自由児、LD 児、ADHD 児、 ダウン症、自閉症児、盲聾啞児・ 軽度発達障害児、いじめ、児童虐待、 子どもの自殺、非行、子どもの貧困 等	18.	レポート作成 (遊びに関すること) (1)
4.	児童虐待事例に関するレポート作成	19.	里親制度を学ぶ (DVD 視聴等)
5.	レポート発表 (3 回目・4 回目分)	20.	絵カード作り (2) : オリジナル (自分で考えた) 絵カード作成
6.	第 1 回 絵カードづくり : 教科担当者指定の絵カード作成	21.	手作り教材作り (2) : ペットボトルを利用した教材を作る
7.	第 2 回 絵カードづくり : オリジナル (自分で考えた) 絵カード作成	22.	レポート作成 (食育に関すること) (2)
8.	知的障害児について学ぶ (DVD 視聴等)	23.	子どもと保護者の対応を学ぶ (1)
9.	児童発達支援センター (到津ひまわり学園) 見学	24.	手作り教材作り (3) : 紙芝居又は絵本を作る
10.	第 1 回 手作り教材づくり (1) : 教科担当者指定の教材作成	25.	レポート作成 (排泄に関すること) (3)
11.	第 2 回 手作り教材づくり (2) : オリジナル手作り教材作成	26.	児童虐待事例の対応について学ぶ (DVD 視聴その他)
12.	ADHD (注意欠陥多動性障害児) について学ぶ (DVD 視聴等)	27.	レポート作成 (着脱に関すること) (4)
13.	第 3 回 手作り教材づくり (3) : 牛乳パックを用いた手作り教材作成	28.	子どもと保護者の対応を学ぶ (2)
14.	視覚障害者、 身体障害者の体験 (手引き歩行、白杖歩行、車椅子歩行)	29.	発達障害 (アスペルガー症候群) について学ぶ
15.	前期教科のまとめ	30.	保育者としての心構え及び教科のまとめ

成績評価の方法 [評価項目と割合]		
作品提出	レポート	授業への取組み姿勢
60%	20%	20%
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
調べ学習、オリジナル教材のアイデアづくり		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
・参考資料等随時配布する。		
参考書又は参考資料等		
○「新プリマーズ／保育／福祉 児童家庭福祉」 福田公教、山縣文治 編著 (ミネルヴァ書房)		
○「保育者のための児童家庭福祉データブック 2018」一般社団法人 全国保育士養成協議会 監修 (中央法規)		
その他の (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて		
・事前の準備、教材作りのための材料及びハサミ、カッター等工具類の準備をすること。		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
講義開始後に改めて連絡をします。		

授 業 科 目 名	社会福祉		
担 当 者 名	井村 亮一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200022	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 保育士必修
授業の概要と方法	社会福祉に携わっていく専門職である保育士として、社会福祉の意義や歴史の変遷、制度、法体系、社会福祉を取り巻く近年の状況などについて理解しておくことは必要です。本授業は実践課程での具体的な援助技術とは程遠く感じられますが、その根幹をなすものとなります。できるだけイメージしやすいトピックスなどを取り上げたりしながら、授業をすすめていきます。		
授業の到達目標	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について説明できる。 2. 社会福祉と児童福祉および児童の人権や家庭支援との関連性について説明できる。 3. 社会福祉の制度や実施体系などについて説明できる。		
授 業 計 画			
1.	本講義の概要及びオリエンテーション、社会福祉の考え方		
2.	社会福祉を取り巻く環境		
3.	社会福祉の歴史		
4.	社会福祉の仕組み		
5.	社会福祉サービスの利用の仕組み		
6.	社会福祉の機関と施設		
7.	社会保障		
8.	低所得者福祉		
9.	児童家庭福祉		
10.	高齢者福祉		
11.	障害者福祉		
12.	地域福祉		
13.	利用者保護制度		
14.	社会福祉援助技術		
15.	社会福祉の担い手及び全体のまとめ		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業への取り組み姿勢・提出物		
80%	20%		
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等)			
・教科書の各章を予習し、理解しておくこと。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
福祉の基本体系シリーズ① 社会福祉の基本体系 [第5版]	井村圭壯・今井慶宗 編著	勁草書房	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
○「保育福祉小六法 2019年度版」(みらい)			
○「学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現代社会 保育と社会福祉【第2版】」橋本好市・宮田徹 編著 (みらい)			
○「保育者のための児童家庭福祉データブック 2018」一般社団法人 全国保育士養成協議会 監修 (中央法規)			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等) / 課 題 等 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク に つ い て			
・日頃より社会福祉や社会問題に関心を持ち、こころのアンテナを鋭敏にしてください。 ・授業時に出す課題など、その場で考え筆記、提出してください。成績評価の対象にします。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		子ども家庭支援論	
担 当 者 名	竹並 正宏	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2200033	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	家庭支援に関する基本的な知識や技術を修得するとともに、講義を通して具体的な保育場面で家族に対しどのような対応や援助を行うべきなのかを把握する。		
授業の到達目標	保育者は子どものみならず個別の家庭環境を考慮して子育て不安や不満といった悩みの解決を図っていかねばならない意志を持ち、自己の責務を果たすことを理解する。		
授 業 計 画			
1.	子ども家庭支援論の意義と必要性		
2.	子ども家庭支援論の目的と機能		
3.	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義		
4.	子どもの育ちの喜びの共有		
5.	保育士と家庭支援、家族の抱える問題とは何か		
6.	地域における子育ての社会資源の基本的視点		
7.	地域における子育ての社会資源の支援拠点事業		
8.	保育の環境の理解と構成		
9.	家庭の状況に応じた支援		
10.	面接相談援助①要保護者への対応		
11.	面接相談援助②さまざまな家庭への支援		
12.	面接相談援助③多文化への対応		
13.	要保護児童等及びその家庭に対する支援		
14.	子ども家庭支援に関する現状と課題		
15.	子ども家庭支援のまとめ		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
授業への取組姿勢	レポート	定期試験	
20%	30%	50%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
保育士を志す学生が子ども家庭支援論を学ぶにあたり、子どもの育ちの喜びの共有や、保育士と家庭支援、家族の抱える問題とは何か。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
プリントを配布			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布し重要点を記入し参考資料としていく。			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
親の役割についての支援や、子どもの権利条約や児童福祉法における親と共に、国や地方自治体が責任を負うことについての理解を把握し、子どもの福祉の向上に貢献することを要望する。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
takenami@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		社会的養護 I	
担 当 者 名	古谷 俊雄	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200024	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷 2. 社会的養護の基本 3. 社会的養護の制度と実施体系 4. 社会的養護の対象・形態・専門職 5. 社会的養護の現状と課題		
授業の到達目標	1. 社会的養護が必要とされている現代社会の現状について理解を深める 2. 子ども観の歴史の変遷を通して、子どもの人権について理解を深める 3. 社会的養護を担う里親、児童福祉施設等の役割について理解を深める 4. 社会的養護の意義を理解することを通して、保育士が果たすべき役割について認識を深める		
授 業 計 画			
1.	社会的養護の理念と概念	—社会的養護とは何か—	
2.	社会的養護の歴史の変遷	—歴史の変遷と現在の状況—	
3.	子どもの人権擁護と社会的養護	—子どもの最善の利益のために—	
4.	社会的養護の基本原則	—子どものニーズに応じた支援の提供—	
5.	社会的養護における保育士等の倫理と責務	—求められる倫理観と専門性—	
6.	社会的養護の制度と法体系	—措置制度と児童福祉法—	
7.	社会的養護の仕組みと実施体系	—児童相談所の役割と社会的養護体系の概要—	
8.	社会的養護の対象	—社会全体でのすべての子どもの支援—	
9.	家庭養護と施設養護	—家庭養護、施設養護の理解と今後の課題—	
10.	社会的養護に関わる専門職	—社会的養護の職種と職務内容—	
11.	社会的養護に関する社会的状況	—社会的養護問題と家庭・地域の現状—	
12.	施設等の運営管理	—運営基準とサービス評価—	
13.	被措置児童等の虐待防止	—児童養護施設等の実態と対応—	
14.	社会的養護と地域福祉	—地域社会と連携した社会的養護—	
15.	社会的養護の課題と展望	—新たな社会的養育の方向性—	
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	小テスト（もしくは小論文）	授業への取り組み姿勢	
70%	20%	10%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （準備学習・事後学習等）			
子ども虐待や貧困問題等、マスコミで頻繁に報道されている内容に普段から関心を抱き、考え、問題意識を深めておくこと。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
新基本保育シリーズ⑥ 社会的養護 I	監修 公益財団法人 児童育成協会	中央法規	
保育福祉小六法 2019 年度版	保育福祉小六法編集委員会	みらい	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
授業中に適宜紹介する			
そ の 他 （受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
被虐待児など家庭環境上、社会的養護を必要とする子ども達のために、何をしなければならないのか一緒に考えましょう。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡します	授業終了後 20 分間は 4 階非常勤講師室にて待機		

授 業 科 目 名	教職概論		
担 当 者 名	上村 初美	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200078	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	教育職とは、未発達な子どもを対象とし、人間を教育する職業であり、人間の生涯に大きな影響を与える重要な仕事である。従って、「教育職」の職務内容をあらゆる角度から検討し、教師の本来的役割を考察することを目標とする。なお、できる限り現実的事象を教材として取り上げ、進路決定へのプロセスの中で教科を捉えることを心がける。		
授業の到達目標	1. 保育の場における教職の意義とその役割及び職務内容をあらゆる角度から検討し、保育現場に則した指導力を養う。 2. 保育者としての学習目標や計画を考察し、自らの課題を明確にできる。		
授 業 計 画			
1.	授業のねらいと進め方、テキストの使い方、成績評価の方法など		
2.	保育の意義		
3.	保育者としての適性と義務		
4.	保育の歴史と思想（日本の幼稚園、保育所の歴史）		
5.	世界の歴史と思想（世界の幼稚園、保育所の歴史）		
6.	幼稚園と保育所等の目的、制度的技能について		
7.	幼稚園教諭の役割と職務内容について		
8.	保育所およびその他の児童福祉施設の役割と職務内容について		
9.	保育者としての保育技術を磨く：保育者の専門性と「遊び」		
10.	保育者としての保育技術を磨く：保育者の専門性と「環境」		
11.	保育者としての保育技術を磨く：保育者の専門性と「子育て支援」		
12.	保育者になるための学習過程について—今、保育者に求められるもの ・研究する保育者 ・職業人としての保育者 ・チーム学校運営		
13.	保育者になるための学習過程について—今、保育者に求められるもの：保育者の専門性を高めるために		
14.	教育職（保育者）としての課題・・・保育者のキャリア形成と生涯発達		
15.	まとめ（要点の復習）		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業への取組	その他（提出物）	
60%	20%	20%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （準備学習・事後学習等）			
・倉橋惣三『育ての心』を読み、講義内容の理解に役立ててほしい。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
『改訂 保育者論』	榎田二三子、増田時枝、大沼良子著	建帛社	
『養護と教育が一体となった保育の言語化～保育に対する理解の促進と、さらなる保育の質向上に向けて～』	（社福）全国社会福祉協議会 全国保育士会	トロール	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
1. 文部科学省編『幼稚園教育要領（平成 29 年告示）』フレーベル館。 2. 厚生労働省編『保育所保育指針解説（平成 29 年告示）』フレーベル館。 ※講義の進行状況に応じて、適時紹介をする。（倉橋惣三『育ての心』、ルソー『エミール』（特に上巻）ほか）			
そ の 他 （受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
・受講に際しては、礼節を弁えた態度で臨まれることを希望する。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に連絡をします。	授業終了後 10 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて質問等対応可。		

授 業 科 目 名		教育心理学	
担 当 者 名		釘原 直樹	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2000016	授 業 形 態
学 年		1	開 講 期
単 位 数		2	履 修 方 法
授業の概要と方法		教育心理学は教育事象の解明とその研究成果の教育現場への応用を旨とする心理学分野である。教育心理学の知見は、教師や生徒だけでなく親や社会にとっても有益である。また、教育心理学は変化し発達する人間の教育に役立つ実践的なものである。すなわち教育現場の中で問題を発見し、解明・評価し、これを学問の進歩にもつなげるものである。	
授業の到達目標		1. 発達の概念及び教育における発達の意義を理解している。 2. 学習を支える動機づけ、集団作り、学習評価について、発達の特徴と関連付けて理解している。 3. 幼稚園教諭や保育士として必要な生活習慣、心の健康に関する適切な指導・助言の在り方を理解する。	
授 業 計 画			
1.	教育心理学とは何か・・・教育心理学の方法		
2.	遺伝と環境・・・遺伝と環境の相互作用、遺伝子や染色体の異常		
3.	心身の発達・・・発達理論、体や認識の発達、アイデンティティの獲得		
4.	記憶と忘却・・・短期・長期記憶、作業記憶、再生と意味処理		
5.	学習理論・・・古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習		
6.	動機づけ・・・学習性無力感、内発的動機づけ、教師期待効果		
7.	教師のリーダーシップ・・・リーダーシップ特性理論、PM 理論、条件即応理論		
8.	学級集団のダイナミクス・・・友人関係、集団規範		
9.	学習指導・・・発見学習、ジグソー学習、適正処遇交互作用		
10.	教育評価・・・測定と評価の意味、評価のタイプ、テスト		
11.	教育統計・・・平均値、分散、偏差値		
12.	知能とパーソナリティ・・・知能指数、知能の生理学的基礎、パーソナリティテスト		
13.	発達障害・・・発達障害の特徴とアセスメント		
14.	児童生徒・父兄との関係・・・モンスターペアレント、不登校		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験（レポート）		授業中に求めるミニレポートと質疑応答	
70%		30%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・講義で出てきた事例や方法論について、自分が児童の時、生徒の時、どう感じたかをまとめてきてもらいます。詳細は講義で説明します。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名		著者	出版社
保育のためのやさしい教育心理学		高村和代 他	ナカニシヤ出版
探求！ 教育心理学の世界		藤澤伸介 他	新曜社
参考書又は参考資料等			
1. 文部科学省編『幼稚園教育要領（平成 29 年告示）』フレーベル館。 2. 厚生労働省編『保育所保育指針解説（平成 29 年告示）』フレーベル館。 ※その他、講義中に適宜紹介します。			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
・履修者全体の理解度や到達度により授業内容及び進度が若干前後することがあります。不明な点や質問、もっと知りたい部分があれば積極的に申し出てください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		子ども家庭支援の心理学	
担 当 者 名	釘原 直樹	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2200025	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	本科目は保育士資格取得のための必修科目である。本講義では、子ども自身や家族関係を発達的な観点から理解し、子育て中の家庭支援に役立つ知識を身につけることを目標にする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の知識を習得する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況について理解する。 4. 子どもの精神保健について理解する。 		
授 業 計 画			
1.	子ども家庭支援の心理学とは		
2.	胎児、新生児・・・体、脳、視聴覚の発達		
3.	乳児・・・体、情緒・愛着の発達		
4.	幼児・・・脳、体、言葉、遊びの発達 自己認知、性役割、心の理論、人格の発達		
5.	児童・・・思考、知能、動機づけ、記憶、友人関係		
6.	幼児・児童の自立・・・となりのトトロを見て考える		
7.	青年期①・・・体の発達、アイデンティティ		
8.	青年期②・・・恋愛		
9.	子育て・仕事・・・仕事、結婚、育児、夫婦関係		
10.	学校・保育施設の問題・・・保護者からのクレーム対応、不登校		
11.	家庭の問題・・・ひとり親、再婚家庭、虐待、ネグレクト		
12.	発達障害・・・ADHD、LD、自閉症スペクトラム（ASD）、アスペルガー症候群（AS）		
13.	危機管理・・・学校や園内で生じる危機への対応		
14.	人生について考える		
15.	まとめ		
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕			
定期試験	授業中の課題及びコメントシート		
70%	30%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・次週の講義に関連した予習課題を提示します。また復習課題の提出を求めることもあります。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
よくわかる発達心理学	林洋一	ナツメ社	
参考書又は参考資料等			
・講義中に、適宜紹介します。			
そ の 他（受講生への要望等）			
・授業への積極的な参加を求めます。質問や演習中の発言なども歓迎します。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名	発達心理学		
担 当 者 名	釘原 直樹	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2200026	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	本講義では、特に乳幼児期の子どもの発達を深く理解することを目指す。		
授業の到達目標	1. 子どもの心身の発達の中でも、特に乳幼児期の子どもたちの発達について理解する。 2. 保育における子どもの健全な発達支援に関わる知識と対応方法について理解する。		
授 業 計 画			
1.	人間発達の特徴① 発達とは何か		
2.	人間発達の特徴② 発達の原理		
3.	愛着① 他者との関係づくり		
4.	愛着② 遊びの発達		
5.	自己の発達① 反抗期		
6.	自己の発達② 自己制御、自己評価		
7.	情緒発達① 情緒の複雑化		
8.	情緒発達② 情緒理解		
9.	認知発達① ピアジェの発達理論		
10.	認知発達② 記憶、想像力の発達		
11.	言語発達① 話し言葉		
12.	言語発達② 読み書き		
13.	保育士による家庭支援		
14.	家族の病理と家庭支援		
15.	まとめ		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業中の課題及びコメントシート		
70%	30%		
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等)			
・実習等で子どもをよく観察しておいてください。気づいたことを授業内で提示してもらい、子どもの心について考える題材とします。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学	岡本依子	新曜社	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
幼児心理学への招待 内田伸子 著 (サイエンス社) 子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論 加藤邦子他著 福村出版			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
・単位を取るためではなく、保育者として必要な心理学の知識を身につけたいという姿勢で取り組んでください。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名	臨床心理学		
担 当 者 名	松本 明夫	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2200028	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士必修

授業の概要と方法	臨床心理学とは、こころの悩みや病を抱える人の心理学的な理解と援助方法を研究し実践する学問である。具体的にはクライアント（来談者）に対して心理アセスメントやカウンセリング等を行う。本講義では心理検査について概説し、子どものこころを理解するための新たな視点を提供したい。さらにカウンセリング技法について概説し、保育現場で出会う「気になる子どもとその保護者」に対する心理的な支援を行う際のヒントを提供したいと考えている。
----------	---

授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理検査の概要について正しく理解することができる。 2. 子どもの心を理解するための新たな視点を得る。 3. カウンセリング技法の概要について理解することができる。 4. 子どもやその保護者に対する心理的な支援を行う際のヒントを得る。
---------	---

授 業 計 画	
1.	はじめに
2.	子どもの発達とその障害 ADHDと ASD について
3.	子どもの発達を評価する (1)新版 K 式発達検査 2001
4.	子どもの発達を評価する (2)田中ビネー知能検査 V
5.	子どもの発達を支援する (1)子どもへの支援
6.	子どもの発達を支援する (2)保護者への対応
7.	子どものメンタルヘルス (1)心身症・不登園など
8.	子どものメンタルヘルス (2)いじめ・習癖など
9.	子どもの性格を知る (1)バウムテスト実習
10.	子どもの性格を知る (2)S - HTP 実習
11.	プレイセラピー (1)アクスラインの 8 原則
12.	プレイセラピー (2)ロールプレイ実習
13.	箱庭療法
14.	子どもの分析心理学
15.	まとめ

成績評価の方法 [評価項目と割合]	
コメントシート	定期試験
50%	50%

授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)
・ 次回の講義で理解度を確認するため○×クイズを行うので、事後の復習に励んでください。

使用テキスト						
<table border="1"> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> </tr> <tr> <td>・ 適宜、プリントを配布する。</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	書籍名	著者	出版社	・ 適宜、プリントを配布する。		
書籍名	著者	出版社				
・ 適宜、プリントを配布する。						

参考書又は参考資料等
<ul style="list-style-type: none"> ○「拝啓、アスペルガー先生」 奥田健次 (飛鳥新社) ○「樹木画テスト」 高橋雅春 他 (北大路書房) ○「子どもの深層」 秋山さと子 (海鳴社)

そ の 他 (受講生への要望等)
・ 講義では心理テストを実施し自らの性格分析を行うなど、体験的に理解が深まるようなワークを行います。

担当教員の連絡先等				
<table border="1"> <tr> <th>担当教員 E-mail</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>a-matsumoto@knwu.ac.jp</td> <td></td> </tr> </table>	担当教員 E-mail	その他	a-matsumoto@knwu.ac.jp	
担当教員 E-mail	その他			
a-matsumoto@knwu.ac.jp				

授 業 科 目 名	子どもの理解と援助		
担 当 者 名	竹並 正宏	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2200023	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	観察、記録、省察、評価について学び、本質である信頼感や安心感がどのように子どもの理解と援助に係わっているか理解する。		
授業の到達目標	多様な福祉制度やサービスを活用し、ケアの提供を行うことを通して、個人及び家族の生活困難や生活問題を解決・緩和しより人間らしい暮らしを実現することを目指す。 対象、過程、技術・アプローチについて学び、本質である信頼感や安心感がどのように相談援助の方法と技術に係わっているか理解することを修得する。		
授 業 計 画			
1.	保育における子どもの理解の意義		
2.	子どもの理解に基づく養護及び教育の展開		
3.	共感的理解と子どもとの関わり		
4.	子どもの生活や遊び		
5.	保育者と子どもの発達		
6.	子ども相互の関わりと関係		
7.	集団における経験と育ち		
8.	保育の環境の理解と構成		
9.	職員間の対話と保護者との情報共有		
10.	発達の課題に応じた援助と関わり		
11.	特別な配慮を要する子どもの理解と援助		
12.	発達の連続性と就学支援		
13.	総合事例演習①・・・生活課題を抱えるクライアントに対する総合的な援助演習		
14.	総合事例演習②・・・生活課題を抱えるクライアントに対する総合的な援助演習		
15.	子どもの理解と援助のまとめ		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	レポート	授業に向かう姿勢	
50%	30%	20%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）			
子どもの理解と援助を学ぶことについて、子どもや保護者との信頼関係を築く手段、信頼関係を築く援助技術で心を開き相談するという社会福祉援助技術の技法が身に付いて必要な機能や役割が円滑に果たせるよう、また回復できるよう支援する役割を担う保育士にとって重要であることを認識して臨む。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
プリント配布			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布し重要点を記入し参考資料としていく。			
そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ） / 課 題 等 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク に つ い て			
基本的知識を身に付け、福祉の向上を意識して授業に臨んでほしい。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
takenami@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		子どもの保健	
担 当 者 名	井上 和子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200029	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 保育士必修
授業の概要と方法	子どもは将来の社会を創り出し、明るい未来につながる可能性を秘め、健全な身体と心を持って発育していく。そのために子どもの保健に関する知識と実践が必要となる。授業は下記の到達目標を達成する為、パワーポイントを中心に講義を行い、必要に応じ DVD 学習も行う。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の発達過程と心身の健康状態を把握し理解する。 2. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。 3. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。 4. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション：授業の進め方の説明。『生命の誕生』を DVD 学習し、胎児の発育と出生の過程を知り、レポート提出。		
2.	子どもの発育・発達：第 2 章(1)～(7)		
3.	子どもの発育・発達：第 2 章(8)～(11)		
4.	生理機能の発達：第 3 章(1)～(5) 免疫について DVD 学習		
5.	生理機能の発達：第 3 章(6)～(10)		
6.	生理機能の発達：第 3 章(11)～(13)		
7.	小児の主な病気：第 4 章感染症と予防接種		
8.	小児の主な病気：アレルギー性疾患、免疫疾患。エピペン使用の実際		
9.	小児の主な病気：消化器・呼吸・循環・血液・腎疾患		
10.	小児の主な病気：皮膚・眼、耳・整形外科・内分泌、代謝・SIDS		
11.	子どもの精神保健：第 5 章児童虐待・発達障害		
12.	環境と衛生管理・安全管理：第 6 章保育現場における衛生管理		
13.	環境と衛生管理・安全管理：第 6 章保育現場の事故防止と安全管理		
14.	健康及び安全の実施体制：第 7 章		
15.	児童養護施設の DVD 学習。後期小児保健のまとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験（100%）と提出レポートを参考にする。			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
学習した項目について復習を行う。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
子どもの保健 1	佐藤益子／中根淳子	ななみ書房	
参考書又は参考資料等			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
私語を慎み静かな環境で学習しましょう、疑問点は質問すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
	休憩時間に小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機しています。		

授 業 科 目 名		子どもの食と栄養	
担 当 者 名	近藤 順子・梅林 千恵子・室井 由起子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200032	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 保育士必修
授業の概要と方法	人間の食生活の基礎は乳幼児期に形作られ、この時期からの食生活習慣形成能力を高めていくことは不可欠であり、現場で、食育を実施する際、保育士の担う役割は非常に大きい。現場で食育を充実させるうえでの管理栄養士・栄養士・調理士との連携及び、子どもたちの栄養の基本を学び実践できる知識を身につける。		
授業の到達目標	まず、自らの食事に目をむけ、身体をつくる食事の重要性についての認識、健康的に食べるために食品を選べる知識を身につける。 発達段階に応じた食や栄養の特徴を知ること及び、現場での多職種との連携方法を学び実践できるようにする。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション「子どもの食と栄養」を学ぶ目的	16.	成人期・妊娠期・授乳期の食生活
2.	栄養に関する基本的知識① …食品の分類、それぞれの機能	17.	乳児期の食生活①…母乳栄養
3.	栄養に関する基本的知識② …三大栄養素（糖質、脂質、たんぱく質） ビタミン・ミネラル・水	18.	乳児期の食生活②…人工栄養
4.	子どもの食生活の問題	19.	乳児期の食生活③ …離乳、離乳食
5.	子どもの食生活の問題	20.	乳児期の食生活④ …ベビーフード
6.	子どもの発育、食べる機能の発達	21.	幼児期の食生活① …食機能の発達、食事の仕方とマナー
7.	子どもの消化吸収機能	22.	幼児期の食生活② …間食、むし歯予防
8.	献立と食品構成、食事バランスガイド	23.	幼児期の食生活③ …お弁当、食生活上の問題
9.	衛生配慮、食の安全について	24.	学童期・思春期の食生活…栄養上の問題
10.	日本の伝統行事と食育	25.	特別な配慮を要する場合① …食物アレルギーへの対応
11.	保育所における食育	26.	特別な配慮を要する場合② …体調不良、疾病への対応
12.	食育の内容	27.	保育所給食／行事食
13.	食育の計画	28.	乳幼児の食事・おやつ計画
14.	食育の実践	29.	乳幼児の食事・おやつの実践
15.	前期のまとめ、レポートについて	30.	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験		授業中の課題	
60%		20%	
		レポート	
		20%	
授業外で行うべき学習 （準備学習・事後学習等）			
・日常生活の中で、食事に対して興味をもつようにしてください。			
使用テキスト			
書籍名		著者	
子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養		堤ちはる、土井正子 編著	
		出版社	
		萌文書林	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他 （受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
・まず自分の食事をしっかり選んで食べられるようになってください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
講義開始後に改めて連絡します。			

授 業 科 目 名	教育課程・保育計画と評価		
担 当 者 名	前川 公一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200034	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	保育者は、保育の計画のもつ意義を理解し、それを立案する素地的能力を身に付ける必要がある。そこで、具体的な全体的な計画（教育課程）や指導計画等をもとに、その園での目的や目標を達成するための内容や編成の仕方、カリキュラム・マネジメントなどについて、基礎的な理解をするとともに、ワークを通して幼児の発達や生活の特徴に応じた計画立案能力を付けていくことを目指す。		
授業の到達目標	1) 保育に計画及び評価が必要な理由を理解できる。 2) 全体的な計画（教育課程）の意義、その編成や展開の仕方等を理解できる。 3) 指導計画及びその種類と作成の基本について理解できる。 4) 幼児の発達や生活の特徴及びその指導計画等のあり方を具体的に理解できる。 5) ゲームや手遊び、絵本、製作活動などの部分指導計画を立案できる。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション・・・授業の内容、講義の進め方、試験・評価の仕方		
2.	全体的な計画（教育課程）の考え方、カリキュラムの基礎理論・・・幼稚園教育要領や保育所保育指針等		
3.	長期の指導計画の考え方・・・指導計画の作成の手順、指導計画の種類と実際		
4.	幼稚園の全体的な計画・・・教育課程の編成とその実際、カリキュラム・マネジメント		
5.	保育所の全体的な計画・・・保育計画の編成とその実際、カリキュラム・マネジメント		
6.	指導計画の実際：0歳児、1歳児、2歳児の発達と生活の特徴		
7.	指導計画の実際：3歳児の発達と生活の特徴		
8.	指導計画の実際：4歳児の発達と生活の特徴		
9.	指導計画の実際：5歳児の発達と生活の特徴		
10.	文化祭等の計画と実際・・・計画的保育の理解		
11.	指導計画立案過程の留意事項・・・ねらいや内容の設定、環境構成		
12.	「手遊び」の指導計画の立案・・・中心となる活動の理解と立案過程のワーク		
13.	「絵本」の指導計画の立案・・・中心となる活動の理解と立案過程のワーク		
14.	「製作活動」の指導計画の立案・・・中心となる活動の理解と立案過程のワーク		
15.	教育・保育の評価・・・自己評価、幼稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験	レポート		
70%	30%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・教科書をもとに事前、事後の学修をし、分からないことを積極的に質問するようにして下さい。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
『教育課程保育課程論』	河邊貴子編著	東京書籍	
参考書又は参考資料等			
1. 文部科学省編『幼稚園教育要領解説（平成29年告示）』フレーベル館。 2. 厚生労働省編『保育所保育指針解説（平成29年告示）』フレーベル館。 3. 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領解説（平成29年告示）』フレーベル館。 ※その他授業の中で、参考書や参考文献を紹介する			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
・幼児教育について、具体的な指導計画案などの書き方も指導しますので、主体的な参加を期待します。教育・保育課程についての知識は、実際に教育・保育を行う際に極めて重要ですので、授業内容を理解するようにして下さい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
maekawa@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	保育内容総論		
担 当 者 名	梶田 郁子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200035	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	幼稚園や保育所で行われている生活や、特別に催される園行事等の保育内容が、どのような保育の目的・目標・ねらいのもとに構想されているか具体的に学習する。さらに、環境を通して行う教育の考え方や、子ども理解にはじまる保育の展開について理解する。また、なぜ今「生きる力」を育むことが必要なのか、保育内容の歴史的変遷とともに成熟社会のなかでの子どもと保育・教育について考える。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育および保育の内容の考え方が理解できる。 2. 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について理解できる。 3. 発達を見通した指導計画作成の考え方を習得し、具体的な指導法が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 教材を工夫する力を身につける。 2) 保育記録の書き方を知り、子どもを理解する力をつける。 3) 模擬保育を通して、ねらいおよび内容に沿って総合的に指導する力をつける。 4. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容についての理解を深める。 		
授 業 計 画			
1.	保育の基本と保育内容—保育内容総論で学ぶこと		
2.	成熟社会のなかでの子どもと保育・教育—「生きる力」とは		
3.	幼稚園教育要領、保育所指導指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領—教育および保育内容の考え方		
4.	遊びを通した総合的な指導—遊びと学び		
5.	幼児期の教育と小学校教育の接続—小学校教育との円滑な接続に向けて		
6.	保育内容の変遷—戦前と戦後の保育内容の変遷		
7.	子ども理解に基づく保育の展開—子ども理解の方法と保育者の姿勢		
8.	保育の計画の考え方—「カリキュラム・マネジメント」をとらえる視点		
9.	指導計画作成の考え方と指導計画の評価・改善の必要性		
10.	園行事の考え方と指導—年間指導計画に位置づく行事		
11.	環境の構成と教材研究—環境を通して行う授業		
12.	保育記録を書くことの意義		
13.	障害のある子どもの指導—障害のない子ども等の交流と学級づくり		
14.	模擬保育の実際—ITを活用して指導計画案を作成し模擬授業を行う		
15.	保育内容の現状と課題—まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	アクティブラーニング又は模擬授業の発表内容		
70%	30%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容総論	神長美津子・津金美智子・田代幸代著	光生館	
幼稚園教育要領〈平成29年告示〉	文部科学省編	フレーベル館	
保育所保育指針〈平成29年告示〉	厚生労働省編	フレーベル館	
参考書又は参考資料等			
1. 厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館。 ※その他、講義の進度に応じて適宜配布する。			
そ の 他 (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
i.masuda@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	保育内容総論演習		
担 当 者 名	梶田 郁子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200077	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 保育士必修
授業の概要と方法	保育所に入所している乳幼児がどのような保育の目的の上で生活をしているか学習する。また保育内容の歴史の変遷を踏まえ、養護及び教育を一体的に行う保育とはなにか、保護者への保育指導、地域の子育て支援における保育所の役割等について理解する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。 		
授 業 計 画			
1.	保育の全体構造と保育内容（1）保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解		
2.	保育の全体構造と保育内容（2）保育の内容の歴史の変遷とその社会的背景		
3.	保育の全体構造と保育内容（3）子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本的な考え方		
4.	乳幼児期の発達の特徴～子どもの育ちとは～		
5.	保育の基本を踏まえた保育内容の展開（1）養護及び教育が一体的に展開する保育		
6.	保育の基本を踏まえた保育内容の展開（2）子どもの主体性を尊重する保育		
7.	保育の基本を踏まえた保育内容の展開（3）環境を通して行う保育		
8.	保育の基本を踏まえた保育内容の展開（4）生活や遊びによる総合的な保育		
9.	保育の基本を踏まえた保育内容の展開（5）個と集団の発達を踏まえた保育		
10.	保育の基本を踏まえた保育内容の展開（6）家庭や地域、小学校等との連携を踏まえた保育		
11.	保育の多様な展開（1）長時間の保育		
12.	保育の多様な展開（2）特別な配慮を要する子どもの保育		
13.	保育の多様な展開（3）多文化共生の保育		
14.	保育における計画と観察・記録と評価		
15.	これからの保育と課題・まとめ		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	アクティブラーニングの発表内容		
70%	30%		
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）			
・インターンシップを利用して、積極的に保育所や認定こども園で自主実習をして子どもの発達を観察してください。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
『保育所保育指針解説』	厚生労働省編	フレーベル館	
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』	内閣府 文部科学省 厚生労働省編	フレーベル館	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
講義の進度に応じて適宜配布する。			
そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ） / 課 題 等 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク に つ い て			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中でアクティブラーニングを取り入れ、考える力や発表する力を育成する。 ・毎時間参考資料として保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を持参すること。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
i.masuda@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	健康（指導法）		
担 当 者 名	木本 節子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200036	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修

授業の概要と方法
 幼稚園教育要領の領域『健康』のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。とくに乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴と理解を深め、適切な指導法を学ぶ。
 その為に10年前よりキャンパス内にある附属幼稚園の指導計画（筑紫オリンピック）と領域『健康』（指導法）のシラバスを一体化し、保育現場での領域『健康』（ねらい及び内容）の位置づけを図り、附属幼稚園での実践を通して教師としての役割と指導力を育成する。

授業の到達目標
 (1) 各領域のねらい及び内容
 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。
 (新教育要領解説)
 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。
 (2) 保育内容の指導方法と保育の構想
 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
 1) 幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

授 業 計 画		到達目標
1.	保育における「健康」とは—幼稚園教育要領ねらい（心情・意欲・態度）の編成と位置づけ（担当者作成資料を基に解説）	(1) -1) 4) (2) -3) 4)
2.	幼稚園教育要領内容（自ら体を動かして活動することを喜ぶ子どもを育てるため）保育内容 (1) ～ (4) ①	(1) -2) 3) (2) -1) 4)
3.	幼稚園教育要領内容（自ら体を動かして活動することを喜ぶ子どもを育てるための指導法について学ぶ）保育内容 (1) ～ (4) ②	(1) -2) (2) -1) 4)
4.	幼稚園教育要領内容（生活の習慣やリズムの必要性を身に付けていくため）保育内容 (5) ～ (8) ①	(1) -2) (2) -4)
5.	幼稚園教育要領内容（生活の習慣やリズムの必要性を身に付けていくため指導法について学ぶ）保育内容 (5) ～ (8) ②	(1) -2) (2) -4)
6.	幼稚園教育要領内容（健康や安全な生活を自ら気付き進める子供を育てるため）保育内容 (9) ～ (10) ①	(1) -2) (2) -1) 2) 4) 5)
7.	幼稚園教育要領内容（健康や安全な生活を自ら気付き進める子供を育てるため指導法について学ぶ）保育内容 (9) ～ (10) ②	(1) -1) 2) 4) (2) -4)
8.	戸外あそび（運動あそび）についての演習—筑紫オリンピック大会準備（アクティブラーニング）①	(2) -4) 5)
9.	筑紫オリンピック—演習の視点を学ぶ（指導案—担当者資料作成）、メダル製作（色々な素材について学ぶ）② 学生自身の自己評価・他者評価を行う。	(2) -2) 4) 5)
10.	筑紫オリンピック大会演習（競技参加・審判・記録・園児係など）幼稚園教育要領の「ねらい」と建学の精神「筑紫の心」の成長を学ぶ。	(1) -1) 4) (2) -1) 2) 3) 4)
11.	筑紫オリンピックを通しての学び（指導法・子どもの発達・安全面など）アクティブラーニング	(1) -2) 3) 4) (2) -1) 2) 3) 4)
12.	筑紫オリンピックを通しての学び（内容の指導上の留意点の位置づけと理解）アクティブラーニング	(1) -2) 3) 4) (2) -1) 2)

13.	筑紫オリンピック（発表）①アクティブラーニング（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校とのつながり）	(1) -3) 4) (2) -1) 4) 5)
14.	筑紫オリンピック（発表）②アクティブラーニング（適切な指導法についての学び）	(1) -4) (2) -1) 3) 4)
15.	まとめ カルテ作成 試験について	(2) -4) 5)

成績評価の方法 [評価項目と割合]

定期試験	授業の振り返り	授業への取組み	メダル製作
40%	30%	20%	10%

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

・授業終了後の「ふりかえり」を行い、次のステップに繋いでほしい。

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉	文部科学省	フレーベル館
保育内容「健康」	井筒紫乃	圭文社

参考書又は参考資料等

附属幼稚園『安全マニュアル』
 担当者作成資料
 文部科学省編『幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館。
 厚生労働省編『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館。
 厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館

そ の 他（受講生への要望等）

・「情報処理学」の学びを理解し、その活用と効果的な作成ができる。

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡をします。	

授 業 科 目 名	人間関係（指導法）		
担 当 者 名	寺本 普見子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200037	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	幼稚園教育要領に示された「人間関係」のねらい及び内容について幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。		
授業の到達目標	<p>幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>1) 幼児の心情、認識、思考及び動きを踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育に活用することができる。</p> <p>2) 領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなど留意点を理解している。</p> <p>3) 模擬授業やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>4) 領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>		
授 業 計 画			
1.	幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむーこれからの社会を生き抜く人を育てるために		
2.	教師との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助の在り方ー個々への丁寧な関わりと集団保育の展開		
3.	自立心を育む援助ー3～5歳の育ちの姿に沿った必要な援助と環境構成		
4.	友だちとの遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助のあり方ーいざごと教師の援助		
5.	自他の気持ちの違いに気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助のあり方ー折り合いがつかない事例		
6.	きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助ー家族生活・園生活・社会生活のきまりと幼児に経験させたい内容		
7.	ルールのある遊びと援助ー葛藤しながら自分たちにとって意味のあるきまり		
8.	個と集団の育ちを考えるー幼児同士の関わり合いを生かす間接的援助の在り方		
9.	協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育展開を考えるー見通しや振り返りの工夫を意識して		
10.	様々な保育形態で育つ人間形態ー協同的な活動の一ヶ月の展開		
11.	幼少の交流活動を考えるー相互主体的で互恵的な活動の工夫と展開（情報機器活用）		
12.	小学校以降の生活や学習で生かされる力ー「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸に幼少接続期		
13.	地域の中の幼稚園ー様々な人との関わりにある特徴を捉えて、幼児期に経験させたい地域の人との関わり（情報機器使用）		
14.	多様な人、多様な子どもとの関わりの中で豊かに生きる子どもへー幼児の経験を育ちへ根付かせる長期的な計画と教師の援助（ロールプレイング）		
15.	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題ーまとめ		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験	提出物及びレポート	授業への取り組み姿勢	
60%	30%	10%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
毎回の授業内容（配布物）を整理しておいてください。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
幼稚園教育要領解説	文部科学省編	フレーベル館	
保育内容「人間関係」	石渡敬一、松村正幸	建帛社	
参考書又は参考資料等			
1. 岸井勇雄『保育内容「人間関係」』同文書院。			
2. 厚生労働省編『保育所保育指針（平成29年告示）』フレーベル館。			
3. 厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』フレーベル館。 ※授業の中で、参考書や参考文献を紹介する。			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
1. 授業ファイルを作成（毎回の授業内容を記述、配布した資料を添付）してください。			
2. 提出物は期日までに提出してください。			
3. 授業内容について質問等、対応が必要な学生には授業終了後、あるいはオフィスアワーを設けて対応します。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名	環境（指導法）		
担 当 者 名	田村 鈴子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200038	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	<p>養護と教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくために必要な知識、技術、判断力を習得する。特に、領域「環境」に示されているねらいと内容について、その基本的な考え方を他の領域との相互の関連性を踏まえながら解説し、幼児が好奇心や探究心を持って周囲のさまざまな環境と関わり、主体的に生活（あそび）を展開できるようにするための具体的な指導法および活動事例などについて情報機器及び視聴覚教材なども活用しながら学ぶ。</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「環境」に示されている「ねらい」や「内容」等について、その基本的な考え方を理解する。 ・子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うための領域「環境」に関係する多くの活動事例を学び、その指導法について理解する。 ・保育者として知っておいて欲しい身近な自然環境や自然科学に関する多くの知識を身に付けることができ、それらに興味、関心を示すことができる。 		
授 業 計 画			
1.	幼児教育（保育）のめざす方向	幼児教育（保育）の基本	
2.	領域「環境」の考え方	領域「環境」のとらえ方と保育の展開	
3.	領域「環境」のねらい、内容	領域「環境」のねらい、内容及び内容の取扱い	
4.	幼児の発達と環境の構成	幼児の発達、環境の構成及び幼児の活動	
5.	指導計画の作成	指導計画作成の方法と実際	
6.	植物とのふれあい	植物とふれあうことの意義と活動の事例	
7.	動物とのふれあい	動物とふれあうことの意義と活動の事例	
8.	物とのふれあい	身近な素材とふれあう活動と事例	
9.	遊具・用具とのふれあい	用具への親しみと遊具を使って遊ぶ事例	
10.	自然事象との関わり 1	気象現象に関わる活動と事例	
11.	自然事象との関わり 2	季節、天体に関わる活動と事例	
12.	地域との関わり	地域の行事および施設に関わる活動と事例	
13.	情報との関わり	情報機器、絵本・言語情報に関わる活動と事例	
14.	数量・図形との関わり	数量・図形に関わる活動と事例	
15.	まとめ		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
授業への取組み姿勢（発表、課題提出）		定期試験成績	
20%		80%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<p>授業のはじめに前回の授業内容の復習はするが、領域「環境」の内容が広い範囲にわたるため、毎回の授業内容については、教科書、ノートでその都度確実に理解しておいて欲しい。</p>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
『新子どもと環境—理論編』	小田豊監	三晃書房	
参考書又は参考資料等			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文部科学省編『幼稚園教育要領（平成 29 年告示）』フレーベル館 2. 厚生労働省編『保育所保育指針（平成 29 年告示）』フレーベル館 3. 厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年告示）』フレーベル館 			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
教科書に沿って段階的に授業を進めるが、発表、課題提出等を課すため欠席すると不利になるので注意すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
講義開始後に改めて連絡をします。		講義後の質問等対応可。	

授 業 科 目 名	言葉（指導法）		
担 当 者 名	寺本 普見子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200039	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修

授業の概要と方法
 幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

授業の到達目標

- ・一般目標
 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。
 - 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構想を理解している。
 - 2) 領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
 - 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
 - 4) 幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解している。
- ・到達目標
 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
 - 1) 幼児の心情、認識、思考及び動きを踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。
 - 2) 領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなど留意点を理解している。
 - 3) 模擬授業やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
 - 4) 領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
 - 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の重要性を理解している。
 - 2) 領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育に活用することができる。
 - 3) 言語障害について理解する。
 - 4) 発達段階別絵本の扱い方を理解する。
 - 5) 模擬授業とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。

授 業 計 画

1.	保育における「言葉」とは？－幼稚園教育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容
2.	子どもの言葉の発達過程（1）－言葉を生む基盤と話し言葉の発達の道筋
3.	子どもの言葉の発達過程（2）－話し言葉と書き言葉
4.	言葉を育む環境構成と援助（1）－話したい、聞きたい意欲を生む援助
5.	言葉を育む環境構成と援助（2）－生活に必要な言葉の習得を支える援助
6.	言葉を育む環境構成と援助（3）－言葉のすれ違いやうまく伝わらないもどかしさへの援助
7.	子どもにとって意味のある行事のねらいと活動内容－言葉による伝えあいを育む援助
8.	言葉を豊かにする環境構成と援助－文字などで伝える楽しさを生み出す援助
9.	子どもの言葉を豊かにする教材：児童文化財－絵本・物語・紙芝居などの実際と保育の中での生かし方
10.	言葉に対する感覚を豊かにする実践：言葉遊び －言葉遊び（しりとり・言葉集めなど）の実際と保育の中での生かし方（情報機器及び教材の活用）
11.	子どもの言葉を育む保育の実際－保育実践もしくは模擬保育に向けての保育観察と教材研究
12.	子どもの言葉を育む保育の構想－領域「言葉」に関する具体的な保育場面を想定
13.	子どもの言葉を育む保育の実践－保育実践もしくは模擬授業の実施

14.	子どもの言葉を育む保育の評価と改善ー保育実践もしくは模擬授業の振り返り	
15.	まとめ：子どもの言葉を育み、豊かにする保育実践 ー「言葉」をめぐる現代的課題と特別な配慮が必要な幼児への指導を踏まえた「言葉」に関わる保育実践	
成績評価の方法 [評価項目と割合]		
定期試験	授業への取り組み姿勢	提出物及びレポート
60%	10%	30%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
毎回の授業内容（配布物）を整理しておいてください。		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
幼稚園教育要領解説	文部科学省編	フレーベル館
参考書又は参考資料等		
<ol style="list-style-type: none"> 柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容「言葉」』ミネルヴァ書房。 徳安敦・堀科編『生活事例からはじめる保育内容言葉』青鞥社。 厚生労働省編『保育所保育指針（平成29年告示）』フレーベル館。 厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』フレーベル館。 ※その他、授業の中で、参考書や参考文献を紹介する。		
その他の（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて		
<ol style="list-style-type: none"> 授業ファイルを作成（毎回の授業内容を記述、配布した資料を添付）してください。 提出物は期日までに提出してください。 授業内容について質問等、対応が必要な学生には授業終了後、あるいはオフィスアワーを設けて対応します。 		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
講義開始後に改めて連絡をします。		

授 業 科 目 名		表現（指導法）	
担 当 者 名		木本 節子	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2200040	〇
学 年		2	授 業 形 態
単 位 数		1	演習
授 業 の 概 要 と 方 法		開 講 期	
授 業 の 到 達 目 標		履 修 方 法	
授 業 の 概 要 と 方 法		必修 幼稚園教諭必修 保育士必修	
授 業 の 概 要 と 方 法		<p>保育内容の各領域を総合的に捉え、子どもの実態に応じた保育の展開や指導法を学ぶ。その為には幼稚園教育要領などに示された、ねらい及び内容について理解を深め、一年次に学んだ『教育方法論』、領域『健康』での演習（附属幼稚園での筑紫オリンピック）での体験を生かしながら幼児の発達に即し、主体的・対話的な学びを実現する。</p> <p>また、10年前よりキャンパス内にある附属幼稚園の指導計画（こいのぼり交流会・運動会・誕生会・すもも狩りなど）と領域『表現』のシラバスを一体化し、保育学科生が A・B・C・D のグループに分かれて附属幼稚園での演習を行い、その中から保育現場の学びを生かした領域『表現』ねらいと内容の位置づけを図り、豊かな感性を備えた教師としての適切な指導法を身に着けることを目指す。</p>	
授 業 の 到 達 目 標		<p>（1）各領域のねらい及び内容（新教育要領解説） 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。</p> <p>1）幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2）当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>4）領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>（2）保育内容の指導方法と保育の構想 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>1）幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>2）各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>3）指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>5）各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>	
授 業 計 画		到達目標	附属幼稚園での演習
1.	表現とは何か その源に会う体験 （受容・共感・共有）を通して感性を育てる。	(1) -1) (2) -4)	A グループ こいのぼり造形活動 (1) -4) (2) -1)
2.	表現のねらい（心情・意欲・態度面の育ちについて） 新指導要領解説	(1) -1) 2) (2) -4)	幼・小の連携 こいのぼり交流会 （小学生とのおたのしみ会）
3.	表現の保育内容（1）～（3）（生活的表現）	(1) -1) 2) (2) -4)	B グループ 運動会道具づくり 保育内容（5） (1) -4) (2) -1) 3)
4.	自然との対話（キャンパス内にある環境との関わり の中から創造的表現の展開方法を学ぶ）。	(2) -2) 4)	運動会リハーサル
5.	表現の保育内容（創造的表現） 造形活動	(1) -1) 2) (2) -2) 4)	運動会参加（演習） （進行・会場・園児係など教師 としての指導法を体得する）
6.	表現の保育内容（創造的表現） 音楽活動	(1) -1) 2) (2) -4)	C グループ 誕生会準備（造形） 保育内容（5） 「色々な素材に親しみ工夫して遊ぶ」 (1) -4) (2) -1) 3)

7.	創作絵本（一本のすももの木）を通して五領域の関連性と建学の精神（勇気・親和・愛・知性）を理解する①	(1) -1) 3) 4) (2) -4)	誕生会参加 誕生会の目的を知る
8.	筑紫の心（勇気・親和・愛・知性）を理解する②	(1) -1) 3) 4) (2) -1) 4)	Dグループ 学園内のすもも狩り (1) -4) (2) -1) 3)
9.	表現活動の位置づけを具体化する（創作絵本の製作）	(1) -1) 4) (2) -4) 5)	創作絵本づくり 保育内容 (5)
10.	キャンパス内にある人的・物的・自然環境などの関わりの中から創造的表現への展開方法を学ぶ①	(1) -1) 4) (2) -4) 5)	
11.	キャンパス内にある人的・物的・自然環境などの関わりの中から創造的表現への展開方法を学ぶ②	(1) -1) 4) (2) -1) 4) 5)	上記グループ演習終了後アクティブラーニングを行い、学生の主体的な学びを大切にする。
12.	キャンパス内にある人的・物的・自然環境などの関わりの中から創造的表現への展開方法を学ぶ③	(1) -4) (2) -1) 4) 5)	同上
13.	附属幼稚園の演習を体験し、簡単な指導案を作成しお互いに学び合う①	(1) -2) 4) (2) -1) 3) 4) 5)	同上
14.	附属幼稚園の演習を体験し、簡単な指導案を作成しお互いに学び合う②	(1) -1) 2) 3) 4) (2) -1) 3) 4) 5)	同上
15.	まとめ 到達目標 カルテ作成	(1) -4) (2) -5)	

成績評価の方法 [評価項目と割合]

授業の振り返り	授業（アクティブラーニング含む）取組み	創作絵本	レポート
30%	30%	20%	20%

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

・授業終了後の「ふりかえり」を行い、次へのステップに繋いでほしい。

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
一本のすももの木	木本節子著	

参考書又は参考資料等

1. 文部科学省編『幼稚園教育要領（平成 29 年告示）』フレーベル館。
2. 厚生労働省編『保育所保育指針（平成 29 年告示）』フレーベル館。
3. 厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年告示）』フレーベル館。
4. 授業担当者オリジナル作成資料。

その他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて

・「情報処理学」の学びを理解し、その活用と効果的な作成ができる。

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡をします。	

授 業 科 目 名	保育内容（子どもと環境）		
担 当 者 名	冨永 睦子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200041	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	幼稚園教諭選択必修 保育士選択
授業の概要と方法	幼児が環境に主体的に関わり、体験の積み重ねを通して、「何を感じ、考え、味あわせるか」など環境の出会い合わせ方や活かし方、援助について、四季を通した具体的実践例を基に考える。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境が幼児の育ちや学びにどんな意味を持つか、環境の重要性を理解する。 ・保育環境への深い知識を養うと共に、幼児の豊かで多様な経験を支える為に、具体的な活動の展開と、視点や課題等についての理解を深め、実践力を身につける。 		
授 業 計 画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：環境は幼児が学び、育つ為の教科書：保育内容と幼児の学びや芽生えとの繋がりについて学ぶ （人的環境、物的環境、自然環境、社会環境）</p> <p>第2回：【春の自然物】①五感を使って自然物を楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草花を活かす （染める。きゃべつの葉で作るころころ水玉。ちゅうりっぷの球根人形。ペタペタくつつくツツジの葉。など）。 ・桜の花びらでいい匂いのケーキとジュース作りなど。 ・タケノコで遊ぶ （いろいろな物と長さ比べ。皮剥きと剥いた皮でできる遊びを楽しむ。切ってみよう。中が階段のマンションみたい。絵の具を入れて色の部屋作り。など）。 <p>第3回：【春の自然物】②不思議や生命との出会い（生き物の生態、植物の成長の様子や特徴）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試してみようカーネーションを色水に挿して色を変身。 ・オタマジャクシの飼育で出会う気づきや発見。 ・種の水栽培や朝顔と夏野菜の世話や観察を通して気づくこと。など。 <p>第4回：【夏の自然物】①自然物を多角的な視点で多様に活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シソの変身 （煮る。酢を入れるとどうなる。紙に汁で絵を描く。紙の種類で色が変わる面白さと出会う。など） ・夏野菜で遊ぶ （キュウリやナスやトマトの色や葉の形の比較。茎を折ったり、皮を剥いて出る汁、種の有無に気づく。剥いた皮で遊ぶ。など） ・土絵具（土をつぶす、叩く、擦って土の粉作り、水で溶かすと絵が描けるなど） <p>第5回：【夏の自然物】②身近な物に目を向けて好奇心や探求心を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カタツムリの飼育（餌とウンチの色は同じ。夜動くカタツムリの足跡を実験。など） ・製作（カタツムリの殻に似ている形探し。身の回りにある物や生活用品を利用してカタツムリ作り。など） ・海の音、波の音作り（ホースに石と水を入れて。タライに石や砂を入れて。どんな音が生まれる。など） <p>第6回：【秋の自然物】①手先をコントロールして使う経験に着目して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実や葉で遊ぶ （いろいろな葉の大きさや色を比べてみよう。組み合わせて何が出来るかな。実を叩いたり、すり潰して色作り。紙や布を染めたり絵を描いたり。など） ・入れる容器の工夫で微細運動経験やいっぱいを実感する （ホースの入れ口。持った重さや振って出る音の違いなど） <p>第7回：【秋の自然物】②いろいろな遊び方への創意工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試してみよう、落ち葉は生きている （ビニール袋に入れていたら、中が白くなった。汗をかいている。不思議だね。など） ・果物や野菜で遊ぶ （玉ねぎ、キャベツ、バナナ、キュウイ、リンゴを切ってみる。色々なミカンの種類を集めて、中はどうなっている。手で皮がむけるものとむけないもの。匂いや種比べ。切った形を活かしてスタンプや形作り。など） <p>第8回：【秋の自然物】③一つの活動を豊かに広げる経験の展開の仕方に注目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イモ掘りで知ること、できる事 （焼き芋の準備の中で。たわしで洗う、新聞紙でくるむ。葉をすり潰したらネバネバした。茎の汁が手につくと黒くなる経験。意味の種類で茎の色が違うね。つるで長さ比べ。縄とび、綱引き。葉をイヤーキャップに詰めて芋団子作り。つるを干してリース作り。など） 			

第9回：【冬の自然物】身近な物を活かす、興味関心を持つ

- ・野菜の水栽培
(白菜、ジャガイモ、人参、大根・・・切った所から芽が出てきた、ジャガイモはシワシワになった。など)
- ・春探し (花壇や廻りの木々を見に行く。フキノトウが咲いた。など)、冬眠する動物の話。

第10回：【春～冬の自然現象】①風のかや働きに注目(揺れる、廻る、なびく、転がる、飛ぶ、舞い上がる)

- ・揺れるノレン：試してみよう、どれが良く揺れる。長さや材料の違い。
- ・いろいろな大きさの紙の輪の転がす競争。
- ・風で音を出すポールに渡したスズランテープと鈴。
- ・高く舞い上がってクク動く日もテープで作ったイカの足。
- ・ユラユラおぼけ(スズランテープを裂いて束ねて紐にたくさんつけて下げたら、風がユラユラおぼけをつくる)
- ・ビニールの部屋(フェンスに広いビニールをくくり付け、風をジッと待つ。舞い上がった。それ、何人で入る?)など。

第11回：【春～冬の自然現象】②おひさまの働きに注目

○光や影で遊ぶ

- ・影の花畑(CDに洗濯バサミを挟んで緑のコップに乗せた。地面に沢山置いたら花畑が広がった)など。
- ・CDで出来た光の輪を追いかける。色々な身近な影をつなげて形作り。
- ・窓が作った影の部屋
(開いた窓から入った日差しが床にぼかぼか影の部屋を作った。温かいね、何人は入れるか試してみよう)など。
- ・洗濯ハンガーで楽しむ影の水族館、カラーコップとビニール傘の打ち上げ花火。

第12回：【春～冬の自然現象】③雨ふりや水、雪や氷を活かす

- ・雨で遊ぶ(スポンジで雨集め。リボンや食紅を入れて色作り。跳ねた色や溶け出した色の動きは面白い)など。
- ・泡で遊ぶ
(骨だけの団扇やダンボールで作る面白シャボン玉。果物ネットで作るモミモミ泡。吹いたり、手を叩いて泡飛ばし。水に浮かべてフワフワ池作り。ベランダいっぱい泡の海作り。コップに入れて泡のアイス作り)など。
- ・雪や氷であそぶ
(雪のうえにいろいろな容器の足跡作り。スポイトでポタポタ絵を描こう。氷の上に葉や枝を乗せて顔作り。溶けると変な顔に変身。割れた氷を並べたら隙間が迷路になった。絵の具を流すと迷路を通っていく)など。

第13回：【行事】①

- ・母の日
(オシロイ花でお化粧ごっこ。髪が伸びるお母さんの仕掛け絵。身近なものを利用したカーネーション作り)など。
- ・子どもの日
(ポールにみかんの葉でいい匂いのこいのぼり作り。菖蒲で足湯ごっこ。柏餅とちまき調べ(あんこ、葉の包み方、匂い、柏の葉や笹は何に見える。ロケット、いか。ウサギを作った)など。
- ・虫歯予防デー
(タイル壁を歯に見立てて、スポンジに洗剤を含ませて歯みがきごっこ。製氷トレーを口に見立て、表裏の色が違うスポンジを歯にした歯磨き人形で遊ぶ)など。

第14回：【行事】②

- ・父の日：お父さんグッズ作り(泡を活かしたビール、振ると泡が出てくるよ)など。
- ・七夕：切ると輪ができる身近なものに着目(紙皿、牛乳パック、箱、コーヒーフィルター)、パンチで穴あけした星の空、星型スパンコールを使って星すくい。流れ星遊び。凍らせたすべる星遊び。など。
- ・勤労感謝の日：働く人や仕事をする車に注目。
- ・クリスマス：スポンジを使ってサンタのフカフカ靴遊び。色々な材料でツリー作り(オアシスに飾りを刺したり埋めこんだりサフランの葉を逆さにして。モジャモジャのひまわりの根を活かして)。サンタポストに手紙を書こう。カラーコップで影のツリーとイルミネーションの道。など。

第15回：【行事】③

- ・お餅つき：道具や材料の名前を知る、お餅ができるまでの仕事を知ろう(洗う、水につける、蒸す、丸める)など。
- ・お正月：包帯の伸びるお餅作り、大中小の大きさに注目した鏡餅(紙皿を重ねて、四角の紙の角を折って)。七草やおせちの話。色々な材料や方法で干支作り(紙袋、蛇腹折で、牛乳パック1箱で)。パーツをひもで作った福笑い。など。
- ・節分：角取りゲーム。形遊びの鬼の面(ティッシュ箱や紙皿を組み合わせる、光るもの集め)など。
- ・ひなまつり：ひなあられの色。雛人形を良く見よう(飾り、着物、人形の名前)。身近な材料を使って人形作り。など。

定期試験は実施しない

成績評価の方法 [評価項目と割合]		
レポート	ノート	
50%	50%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義内容をきちんと整理しておくこと。 ・配布したプリントはノートに添付しておくこと。 		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
幼稚園教育要領解説〈平成 29 年告示〉	文部科学省	フレーベル館
教師研修大会研究発表資料、講演会、研修会資料など。		
参考書又は参考資料等		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館。 2. 文部科学省編『幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館。 3. 厚生労働省編『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館。 4. 厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館。 ※その他、講義中に適宜資料を配布する。		
その他の (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて		
<ul style="list-style-type: none"> ・講義に意欲的に参加し、具体的事例を通して実践力を身につけて欲しい。 		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
講義開始後に改めて連絡をします。	講義終了後 10 分間は、小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて対応。	

授 業 科 目 名		保育内容（子どもの生活と遊び）	
担 当 者 名		岩橋 敏子	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2200042	授 業 形 態
学 年		2	開 講 期
単 位 数		1	履 修 方 法
授業の概要と方法		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちにかかわる「生活と遊び」の意味や本質に関する知識を深める。 ・子どもの思いや願いを捉え、遊びの体験の中に五領域のねらいを相互に関連させながら、総合的活動を展開していく方法を学ぶ。 	
授業の到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本や各領域のねらい及び内容と具体的事例を基に指導力ある保育者としての姿や全体構造が理解できる。 2) 幼児にとって、環境による教育・体験学習なぜ大切であるかまた、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上留意点が理解できる。 3) 遊びをどのように捉え、援助していくか総合的指導の重要性について幼稚園における評価の考え方を理解できる。 4) 幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解できる。 2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 幼児理解や援助のあり方により、保育が変わることや幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2) 子どもの自発性を尊重することと保育者の指導性の関係について理解を深めることができ、各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 	
授 業 計 画			
1.	子どもの生活と遊びを捉えたねらい及び内容について、幼児の遊びの姿を関連付けることを通して理解する。		
2.	園生活の中にある生活指導場面、年齢別の援助、課題の捉え方から指導法を考える。		
3.	総合的指導のための計画、具体的活動展開、援助の方法から指導法を考える。		
4.	乳幼児期の遊びと小学校の体育、生活、音楽や図画工作その他さまざまな教科と学びの連続性について具体的な事例から考える。		
5.	五感を使った総合的なあそびを実践し、活動の特徴や面白さ留意点などを考える。 (音を聴いて、匂いをかいで、色や形、身体表現など)		
6.	自然（風、光、影など）や自然物（葉、木の実など）を用いた幼児の総合的な遊びを実践し素材の特徴や活動の面白さ、留意点を考える。		
7.	身近な素材（紙コップ、ペットボトルなど）を用いた幼児の総合的な遊びを実践し素材の特徴や活動の面白さを考える。		
8.	年齢による発達や環境等のさまざまな要因を考え、活動や遊びを広げるための言葉かけや教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について考える。		
9.	遊びにおける情報機器や教材の活用法について事例を通して学び、実際に体験することを通して、保育構想に活用できるアイデアを考える。		
10.	これまでの学びを踏まえ総合的な遊びを実践するために指導案をグループで作成する。		
11.	総合的な遊びを実践するためにグループ内協働作業で指導案を作成する。		
12.	総合的な遊びを実践するためにグループで作成した指導案に沿って教材研究を深める。		
13.	グループで総合的な遊び活動を指導案に沿って実践する。		
14.	実践した指導案からの振り返りを通して改善を試みる。		
15.	これまで学んだ総合的な遊びの実践を通して、保育の場における子どもの生活と遊びについて考え、振り返る。		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
ノート提出		作品提出／指導案提出	授業への取り組み
40%		各 20%	20%

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
・指導案作成時は添削を繰り返します。次の授業までに PC で必ず仕上げしておくこと。		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月	文部科学省	フレーベル館
『感性をひらく表現遊び』	岡本拓子著	北大路書房
参考書又は参考資料等		
厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館 文部科学省編『幼稚園教育要領（平成 30 年 3 月）』フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針（平成 30 年 3 月）』フレーベル館 厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 30 年 3 月）』フレーベル館 ※その他、授業中に適宜資料を配付する。		
その他の（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて		
<ul style="list-style-type: none"> ・自宅や学生ホールなどで入力できるよう USB を持参しておくこと。 ・授業ファイルを作成（配布したプリント、授業内容をきちんと整理しておくこと） ・提出物は期日までに提出すること。授業内容についての質問等が必要な学生には、授業終了後及びオフィスアワーにて対応する。 		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
t0106h0730@hcc.ac.jp		

授 業 科 目 名	保育内容（子どもの文化と表現）		
担 当 者 名	今津 尚子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200043	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	幼稚園教諭選択必修 保育士選択
授業の概要と方法	本授業では、日本の子どもの文化の歴史や教育的意義を知る。その中で、子どもの各年齢の発達段階の理解と関わり方を学び、その伝承について学生同士主体的に探究していく。児童文化財の教材研究をし、保育実践に役立つ指導法を学修する。グループワークをする中で、保育者として表現することの楽しさや、協働で身近な素材を用いて豊かな表現活動ができるように演習を行う。		
授業の到達目標	1. 児童文化財の内容を知り、その教育的意義を理解する。 2. 保育における子どもの発達に合わせた児童文化財の活用方法や指導法を習得する。 3. 児童文化財を教材として作成し、現場で役立つ指導法を体得しながらスキルアップを図る。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション 学習グループの構成を行い、授業内容と評価法について解説する		
2.	子どもの文化の歴史と教育的意義について説明する 子どもの現状について討議する		
3.	子どもの発達と文化財について説明する 各年齢の発達段階に即した遊びについて考察する		
4.	伝承遊びの実践と指導法を解説する・伝承遊びの演習を行う		
5.	児童文化財の研究と感性を育てる教材を作成する・創作絵本を作成する		
6.	児童文化財の研究と感性を育てる教材を作成する 行事に役立つ教材研究（指導案作成）		
7.	エプロンシアターの作り方を説明する・エプロンシアターの構想を考える		
8.	エプロンシアターの表現方法を説明する・エプロンシアターの製作をする		
9.	グループワーク・エプロンシアターの表現方法を工夫する（エプロンシアターの製作）		
10.	グループワーク エプロンシアターの表現方法を工夫する（エプロンシアターの製作）		
11.	エプロンシアターの演習発表をする・評価と改善について討議する		
12.	保育に生かす教材を作成する・“ウェビング”の手法を利用した玩具		
13.	保育に生かす教材を作成する・グループワーク（ペープサート作成）		
14.	保育に生かす教材を作成する・グループワーク（ペープサート作成）		
15.	ペープサートの演習発表、授業総括		
成績評価の方法	〔評価項目と割合〕		
	全授業を通じて、学修内容の様子や気づき、製作した作品をポートフォリオにまとめ、学生自身の学びが可視化されたものを中心に、学びの過程や課題に沿った表現内容を評価する（70%）。		
	最終レポートで学びの成果を評価する（30%）		
授業外で行うべき学習	〔準備学習・事後学習等〕		
	・各回の講義にて、事前準備についての説明や事後学習の振り返りをする。 ・授業内容のファイルを作成（授業内容の記述・配布した資料の添付、レポートの整理）する。＊最終日に提出する。 ・日頃から子どもが育つ環境、社会の変化、児童文化財について文献や報道を通じて把握する。		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
授業に応じて、毎回資料を作成し配布する。			
参考書又は参考資料等			
	1. 文部科学省編『幼稚園教育要領（平成29年告示）』フレーベル館。 2. 厚生労働省編『保育所保育指針（平成29年告示）』フレーベル館。 3. 厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』フレーベル館。		
その他	（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて		
	・授業に必要な材料は事前に準備し、当日必ず持参すること。		
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
shouai@kwuc.ac.jp	授業終了後10分間は小倉北区キャンパス2号館4階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名	乳児保育 I		
担 当 者 名	早川 とも子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200044	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	乳児保育・子育て支援が社会的に要求され、保育指針にも乳児保育に重きをおいた改定がされた。乳児保育の充実がより一層、求められている。乳児が心身共に健全に発育するために保育者として乳児の生活の支援、援助、配慮を学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の誕生を喜び、保育することに喜びを持つ。 2. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について理解する。 3. 乳幼児の育ちの現状と乳児保育を取り巻く状況と課題について理解する。 4. 3才未満児の発達、保育の内容について理解する。 5. 乳児保育における職員間・他職種との連携・協働及び保護者、関係機関との連携について理解する。 		
授 業 計 画			
1.	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割、機能を学ぶ		
2.	乳児保育及び子育て家庭に対する支援を巡る社会的状況と課題を学ぶ		
3.	保育所における乳児保育、保育所以外の児童福祉施設、家庭的保育における乳児保育を学ぶ		
4.	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援を学ぶ		
5.	人の誕生の神秘を知り、乳児保育の基本となる環境を学ぶ		
6.	乳児の身体の発達（誕生、乳児）を学び、援助、配慮を理解する		
7.	乳児の生活（授乳、排泄、睡眠）を学び、援助、配慮を理解する		
8.	乳児の生活（離乳）を学び、援助、配慮を学ぶ		
9.	乳児のことばの発生、人とのかかわりを学び、援助、配慮を理解する		
10.	乳児の発達を促す遊びを学び、乳児の適切な環境を学ぶ		
11.	1歳から3歳の身体の発達を学び、援助、配慮を理解する		
12.	1歳から3歳の生活（食事）を学び、援助、配慮を理解する		
13.	1歳から3歳の生活（排泄、睡眠）を学び、援助、配慮を理解する		
14.	1歳から3歳のことばの発達、人とのかかわりを学び、援助、配慮を理解する。		
15.	乳児保育における計画、記録、評価とその意義を理解する		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	レポート・発達表	授業への取組み姿勢	
70%	20%	10%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）			
<ul style="list-style-type: none"> ・ レポート作成時に、関係者からの聞き取りを行っていく。 ・ 年齢の発達、配慮、援助を事後学修として「発達表」作成すること。 			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
改訂 新・乳児の生活と保育	松本園子	ななみ書房	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「演習 乳児保育の基本 [第3版]」阿部和子 他（萌文書林） ○ 「新保育講座 14 乳児保育 [第2版]」阿部和子、大場幸夫 編（ミネルヴァ書房） ・ DVD「現代心理学 発達と支援」を視聴する。 ・ その他、資料を配布 			
そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ）			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出の期日を守ること。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名		乳児保育 II	
担 当 者 名	早川 とも子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200045	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	社会的に要求される、乳児保育、子育て支援の充実に乳児保育を重視した保育指針が改定された。乳児が心身共に健全に発育するために保育者として乳児の生活の支援、援助、配慮のありかたを具体的に学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人の誕生の重さを理解し、保育することに喜びをかんじる。 2. 3歳未満児の発育・発達過程や特性を援助や関わりの方的な考え方について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 4. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 5. 乳児保育の計画について、具体的に理解する。 		
授 業 計 画			
1.	主体的存在としての保育		
2.	乳児保育における配慮事項		
3.	乳児保育における保育士等のかかわり		
4.	3歳未満児の発達（身体の発育）を学び、配慮、援助を学ぶ		
5.	3歳未満児の発達（食事）を学び、配慮、援助を学ぶ		
6.	3歳未満児の発達（睡眠）を学び、配慮、援助を学ぶ		
7.	3歳未満児の発達（排泄）を学び、配慮、援助を学ぶ		
8.	3歳未満児の発達（ことば）を学び、配慮、援助を学ぶ		
9.	3歳未満児の発達（ひととのかかわり）を学び、配慮、援助を学ぶ		
10.	3歳未満児のあそびを学び、あそびの環境構成を学ぶ		
11.	1日の生活の流れと保育環境を学ぶ		
12.	心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮を学ぶ		
13.	環境の変化や移行に対する配慮を学ぶ		
14.	全体的な計画、長期、短期の指導計画の作成		
15.	個別指導計画、集団（クラス）指導計画の作成		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	発達表	授業への取組み姿勢	
70%	20%	10%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）			
・年齢の発達、配慮、援助を事後学修として「発達表」を作成すること。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
改訂 新・乳児の生活と保育	松本園子	ななみ書房	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
<ul style="list-style-type: none"> ○「演習 乳児保育の基本 [第3版]」阿部和子 他（萌文書林） ○「新保育講座 14 乳児保育 [第2版]」阿部和子、大場幸夫 編（ミネルヴァ書房） ○「子どもと保育 1歳児」、「子どもと保育 2歳児」杉山隆一 監修（かもがわ出版） ○「保育所保育指針ハンドブック」汐見稔幸 監修（学研プラス） ・その他、資料を配布 			
そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ）			
・提出の期日を守ること。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名		子どもの健康と安全	
担 当 者 名	仲野 典子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200031	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 保育士必修
授業の概要と方法	子どもの健康と安全を守り、豊かな心身の発育・発達を助けることは、保護者が行っている毎日の育児の中でなされているが、より専門的な機能は保育士や幼稚園教諭に期待される。そこで、子どもの健康状態を把握し、異常の早期発見や健康教育などについて、実践のできる知識と技術を学ぶことを目的とする。授業は、講義において援助方法の根拠や手順などについて学び、さらに、演習を通して援助方法のあり方を深めていく。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の大切さを理解し、子どもの健やかな成長を手助けすることができる。 2. 健全な子どもを理解し、子どもの保健活動の場を理解することができる。 3. 子どもの特性を理解し、乳幼児期の健康状態を正確に観察・記録ができる。 4. 子どもの疾病を理解し、その予防及び救急時の対応について理解することができる。 		
授 業 計 画			
1.	乳幼児の健康とは：小児期の分類、健康指針と観察と記録の必要性		
2.	形態的成長とその評価：乳幼児に必要な身体計測		
3.	バイタルサイン（体温・呼吸・脈拍・血圧・意識状態）の意義と測定		
4.	精神神経の発達と乳児健診：感覚・運動・情緒・社会性等（母子手帳も含む）		
5.	栄養（乳児）：母乳・人工栄養・混合栄養・調乳について		
6.	栄養（幼児）：離乳食・食習慣のしつけ方・現在の問題点（偏食・生活習慣病）		
7.	排泄：乳幼児のオムツのあて方・幼児のトイレトレーニングの必要性		
8.	睡眠：睡眠習慣のしつけ方・乳幼児の抱き方・おんぶひもの使用時の留意点		
9.	歯の健康：清潔習慣（手洗い・うがい・歯みがき）のしつけ方		
10.	清潔：沐浴の意義と観察の必要性（人形を使用して沐浴を行う）		
11.	予防と健康Ⅰ：病気への対応と感染対策について		
12.	予防と健康Ⅱ：乳幼児の事故と応急処置・心肺蘇生法について		
13.	保育実習を通して...グループワーク		
14.	子どもの保健活動の場：保育所・児童養護施設・知的障害施設・乳児院		
15.	まとめ		
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・予習、復習をしましょう。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
新版 子どもの保健Ⅱ	佐藤益子、中根淳子 編著	ななみ書房	
参考書又は参考資料等			
授業の中で参考書や資料を紹介する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
・上記の計画は、本授業のガイドラインである。授業の進行状況により変更する場合もある。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡します。			

授 業 科 目 名		障害児保育 I	
担 当 者 名	水江 富美子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200046	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	障害児保育について、幅広く基本を学び、気になる子どもや、障害のある子どもの状態を理解する。インクルーシブ保育をベースに子どものニーズに応じた支援方法を学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育の歴史を知る。 2. 現在の障害児保育の流れを知る。 3. 障害の特性や発達を知る。 4. 保育場面での関わり方や、保育士の役割の基本を知る。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション 障害児保育の基本		
2.	障害のとらえかたの変化		
3.	障害児保育の歩み		
4.	障害児保育の制度と形態 合理的配慮		
5.	インクルーシブ保育 ユニバーサルデザイン ※第2回～5回の内容でディスカッションする		
6.	障害の理解と支援 肢体不自由児		
7.	障害の理解と支援 視覚・聴覚・言語障害児		
8.	障害の理解と支援 知的障害児 1		
9.	障害の理解と支援 知的障害児 2		
10.	障害の理解と支援 発達障害児 1		
11.	障害の理解と支援 発達障害児 2		
12.	障害の理解と支援 重症心身障害児 医療的ケア児等 ※第6回～12回の内容にて各グループでまとめて発表する		
13.	保育の中での視覚支援		
14.	環境および視覚支援の作り方		
15.	障害児保育に必要な視点 まとめ ※第13回～15回の内容にて課題を作成し発表する		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験	課題提出 (子どもに伝わる表現できているか)	授業への取り組み姿勢	
70%	25%	5%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等)			
・各回の講義にて、事後学習等について連絡をする。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
よくわかる障害児保育 [第2版]	尾崎康子、小林真、水内豊和、阿部美穂子編	ミネルヴァ書房	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・講義中に適宜、資料を配布する。			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等) / 課 題 等 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク に つ い て			
・いろいろなメディアで障害について発信されていることに、関心をもってください。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
非公開とする。	授業終了後 10 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名		障害児保育 II	
担 当 者 名	水江 富美子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200047	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	「障害児保育 I」で学んだことをベースに、効果的なコミュニケーション方法や、活動場面での具体的な支援方法を学ぶ。事例を通して、要因や支援方法を考える。また、家族支援、学校、地域との連携について、どのように進められているかを知る。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例の検討を通して、様々な行動に対応できるようになる。 2. こどもを肯定的に受け入れ、こどもの視点に立って考えられる保育士を目指す。 3. 保育場面での効果的なコミュニケーションに学ぶ。 4. 保育実習で、気になる子どもとの出会いの中で、学んだことを活かす。 5. 連携を通して地域の資源を知る。 		
授 業 計 画			
1.	保育場面での応用行動分析		
2.	基本的な生活習慣を育てるための支援 ※第 1 回～2 回の内容にて事例についてディスカッションする		
3.	ことばやコミュニケーションの支援 ①支援の必要性		
4.	ことばやコミュニケーションの支援 ②支援の方法		
5.	遊び・行事の支援		
6.	造形の支援		
7.	発達支援の技法		
8.	子ども同士の関わりと育ち合い		
9.	支援に生かす行動観察 ※第 6 回～9 回の内容にて、事例を検討し、発表する		
10.	個別の保育計画		
11.	家族への支援・きょうだいへの支援		
12.	ペアレント・トレーニング		
13.	専門機関・地域との連携		
14.	小学校との連携		
15.	まとめ ※第 10 回～15 回の内容にて課題を作成し発表する		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験	課題提出 (1 回) (自分の考えが表現できているか)	授業への取り組み姿勢	
80%	15%	5%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準備学習・事後学習等)			
・各回の講義にて、事後学習等について連絡をする。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
よくわかる障害児保育 [第 2 版]	尾崎康子、小林真、水内豊和、阿部美穂子編	ミネルヴァ書房	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・講義中に適宜、資料を配布する。			
そ の 他 (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて			
・いろいろなメディアで障害について発信されていることに、関心をもってください。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
非公開とする。	授業終了後 10 分間は 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名	社会的養護 II		
担 当 者 名	竹並 正宏	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2200048	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	里親制度や児童福祉施設（特に児童養護施設、乳児院、障害児施設、児童自立支援施設など）の目的と機能、用いられる援助技術および現状と課題を理解するとともに、子どもとその家族を支えるための様々な機関等の理解や連携の必要性と方法について理解を深める。また児童養護及び里親家庭における児童養護の制度や援助内容について把握する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理についての姿勢が身に付いている。 2. 児童福祉法に触れながら、個々の児童に応じた支援計画を作成して、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について身に付いている。 3. 目標を定め実施のための計画を立て、ソーシャルワークの方法と技術について適切に行動することができる。 		
授 業 計 画			
1.	1 児童養護とは・・・児童養護の概念を理解する		
2.	2 児童養護の理念、原則、方法・技術①児童養護の理念、原則について理解する		
3.	3 児童養護の理念、原則、方法・技術②児童養護の方法について理解する		
4.	4 家庭・家族に困難をもつ子どもの養護①里親制度の概要について理解する		
5.	5 家庭・家族に困難をもつ子どもの養護②里親制度の現状について理解する		
6.	6 家庭・家族に困難をもつ子どもの養護③乳児院について理解する		
7.	7 家庭・家族に困難をもつ子どもの養護④児童養護施設の概要について理解する		
8.	8 家庭・家族に困難をもつ子どもの養護⑤児童養護施設の現状について理解する		
9.	9 家庭・家族に困難をもつ子どもの養護⑥母子生活支援施設について理解する		
10.	10 子どもの養護①知的障害児施設、自閉症児施設について理解する		
11.	11 子どもの養護②肢体不自由児施設、重症心身障害児施設について理解する		
12.	12 子どもの養護③心身の発達に援助を求める地域療育システムについて理解する		
13.	13 子どもへの援助と養護①情緒障害や非行のある子どもの特徴についての理解		
14.	14 子どもへの援助と養護②情緒障害児短期治療施設・児童自立支援施設の援理解		
15.	15 まとめ		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
授業への取組み姿勢	レポート	定期試験	
30%	20%	50%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉の目的や状況に応じた適切な言動をとることができる姿勢を身に付けることが、保育士にとって重要であることを認識して予習及び復習に取り組む。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
子どもの養護-社会的養護の原理と内容-	松本峰雄	建帛社	
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布して重要点を記入して参考資料としていく。 ・視聴覚教育やKJ法を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。 			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
・社会的養護内容を通して、家庭支援、児童家庭福祉の目的や状況に応じた適切な言動をとることができ、身に付くことを認識して臨むこと。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
takenami@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		子育て支援	
担 当 者 名	山下 諒子・早川 とも子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200049	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	1. 保育相談支援の意義を理解する。 2. 保育相談支援の基本を理解する。 3. 保育相談支援の実際学び、内容や方法を理解する。 4. 児童福祉施設における保育相談支援の実際について理解する。		
授業の到達目標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。		
授 業 計 画			
1.	保護者支援、子育て支援の意義		山下担当
2.	子育て支援の基本姿勢		山下担当
3.	子どもの保育とともに行う保護者支援		山下担当
4.	日常的・継続的な関わりをつうじた保護者との相互理解と信頼関係の形成		山下担当
5.	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解		山下担当
6.	子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供		山下担当
7.	子ども及び保護者の状況・状態の把握		山下担当
8.	支援の計画と環境の構成		山下担当
9.	支援の実践・記録・評価・カンファレンス		山下担当
10.	職員間の連携・協働		早川担当
11.	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働		早川担当
12.	保育所等、地域の子育て家庭に対する支援		早川担当
13.	障害のある子どもの家庭、特別な配慮を要する子どもの家庭に対する支援		早川担当
14.	子ども虐待の予防と対応		山下担当
15.	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭を理解し、要保護児童等の家庭に対する支援		山下担当
成 績 評 価 の 方 法 〔評価項目と割合〕			
定期試験	授業への取組み姿勢	提出物	レポート
60%	15%	15%	10%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・レポート作成に事前勉強をしておくこと。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
子育て支援	西村 重稀	中央法規	
※その他資料については、授業中に適宜資料配布する。			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
○「子育て支援 15 のストーリーで学ぶワークブック」 二宮 祐子（萌文書林） ○「保育士等キャリアアップ研修テキスト保護者支援・子育て支援」 秋田喜代美・馬場耕一郎（中央法規） ○「保育所保育指針ハンドブック 2017 告示版」 汐見稔幸（学研） ○「北九州市保育士会 保育ハンドブック」 北九州市保育士会 ○「保育の友（事例使用）」 全国社会福祉協議会			
そ の 他（受講生への要望等）			
①手作り絵本の材料準備をすること。②提出物の期日をまもること。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名		保育実習 I	
担 当 者 名	岩橋 敏子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200050	授 業 形 態	実習 (保育所実習)
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	4 (※1年後期・2年前期を合計した単位数)	履 修 方 法	保育士必修 認定ベビーシッター必修 レクリエーション・インストラクター必修
授業の概要と方法	保育士は保育所や児童養護施設等の社会的な役割を具体的に理解した上で、子どもの観察や関わりを通してより一層理解を深めていくことが求められるため、既習の教科の内容を踏まえ、子どもや保護者への支援についても総合的に学ばなければならない。また、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について学んだ上で、保育士としての役割や職業人としての倫理観についての素地を習得させる。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 		
授 業 計 画			
1.	保育所の役割と機能についての理解①～保育所の生活と一日の流れ～		
2.	保育所の役割と機能についての理解②～保育所保育指針の理解と保育の展開～		
3.	子ども理解①～子どもの観察とその記録による理解～		
4.	子ども理解②～子どもの発達段階の理解 (0、1、2歳児)		
5.	子ども理解③～子どもの発達段階の理解 (3、4、5歳児)		
6.	子ども理解④～子どもへの援助や関わり～		
7.	保育内容・保育環境についての理解と学習①～保育計画に基づく保育内容～		
8.	保育内容・保育環境についての理解と学習②～子どもの発達段階に応じた保育内容		
9.	保育内容・保育環境についての理解と学習③～子どもの生活や遊びに応じた保育内容～		
10.	保育内容・保育環境についての理解と学習④～子どもの健康と安全～		
11.	保育の計画、観察、記録についての理解①～保育過程と指導計画の理解と活用		
12.	保育の計画、観察、記録についての理解②～記録に基づく査察・自己評価～		
13.	専門職としての保育士の役割と職業人としての倫理についての理解と学習①～保育士の業務内容～		
14.	専門職としての保育士の役割と職業人としての倫理についての理解と学習②～職員間の役割分担や連携～		
15.	専門職としての保育士の役割と職業人としての倫理についての理解と学習③～保育士の役割と職業倫理～		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
実習先からの評価表・実習記録・提出物		オリエンテーション記録を含むレポート提出	
80%		20%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準備学習・事後学習等)			
・インターンシップを利用して、保育所及び児童福祉施設等でボランティア活動を行う。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
保育所保育指針解説 (平成 30 年 3 月)	厚生労働省	フレーベル館	
実習の手引き	東筑紫短期大学 編		
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
○「施設実習パーフェクトガイド」(わかば社)			
○「幼稚園実習・保育所実習・施設実習」(ミネルヴァ書房)			
そ の 他 (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所・施設実習の手続きと並行して進めていく。 2. 学外の実習に出るため、学内での「保育実習指導 I」の授業は必ず出席すること。 3. 授業内容について理解不足の学生は、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応する。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail		その他	
t0106h0730@hcc.ac.jp (岩橋)			

授 業 科 目 名		保育実習 I	
担 当 者 名	古野 誠生	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200050	授 業 形 態	実習 (施設実習)
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	4 (※1年後期・2年前期を合計した単位数)	履 修 方 法	保育士必修 認定ベビーシッター必修 レクリエーション・インストラクター必修
授業の概要と方法	保育士は保育所や児童養護施設等の社会的な役割を具体的に理解した上で、子どもの観察や関わりを通してより一層理解を深めていくことが求められるため、既習の教科の内容を踏まえ、子どもや保護者への支援についても総合的に学ばなければならない。また、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について学んだ上で、保育士としての役割や職業人としての倫理観についての素地を習得させる。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 		
授 業 計 画			
1.	施設の役割と機能についての理解①～施設の生活と一日の流れ～		
2.	施設の役割と機能についての理解②～施設の役割と機能～		
3.	子ども理解①～子どもの観察とその記録による理解～		
4.	子ども理解②～個々の状況に応じた援助や関わり		
5.	養護内容・生活環境の理解と学習①～計画に基づく活動や援助～		
6.	養護内容・生活環境の理解と学習②～子どもの心身の状態に応じた対応～		
7.	養護内容・生活環境の理解と学習③～子どもの活動と生活の環境～		
8.	養護内容・生活環境の理解と学習④～健康管理・安全対策の理解～		
9.	計画と記録についての理解①～支援計画の理解と活用～		
10.	計画と記録についての理解②～記録に基づく省察・自己評価～		
11.	専門職としての保育士の役割と職業倫理についての理解と学習①～保育士の業務内容～		
12.	専門職としての保育士の役割と職業倫理についての理解と学習②～職員間の役割分担や連携～		
13.	専門職としての保育士の役割と職業倫理についての理解と学習③～保育士の役割と職業倫理～		
14.	実習の心得		
15.	まとめ		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
実習先からの評価表・実習記録・提出物		オリエンテーション記録を含むレポート提出	
80%		20%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準備学習・事後学習等)			
・インターンシップを利用して、保育所及び児童福祉施設等でボランティア活動を行う。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
保育所保育指針解説 (平成 30 年 3 月)	厚生労働省	フレーベル館	
実習の手引き	東筑紫短期大学 編		
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
○「施設実習パーフェクトガイド」(わかば社)			
○「幼稚園実習・保育所実習・施設実習」(ミネルヴァ書房)			
そ の 他 (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所・施設実習の手続きと並行して進めていく。 2. 学外の実習に出るため、学内での「保育実習指導 I」の授業は必ず出席すること。 3. 授業内容について理解不足の学生は、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応する。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		保育実習指導 I	
担 当 者 名	岩橋 敏子・古野 誠生	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200051	授 業 形 態	演習
学 年	1年・2年	開 講 期	1年（後期）2年（前期）
単 位 数	2 （*1年後期、2年前期を合計した単位数）	履 修 方 法	保育士必修 認定ベビーシッター必修 レクリエーション・インストラクター必修
授業の概要と方法	学外で保育実習を受けるには、保育実習の意義・目的・実習内容を理解した上で保育者として自ら課題を明確にしていくことが求められる。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務については必ず遵守しないといけないものである。学生は、実習の計画、観察、記録、自己評価を行うとともに、事前事後指導を通して実習の総括を行う。その上で自分の新たな課題を明確にしていける保育者としての素地を習得する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益への考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解する。 5. 実習の事前指導を通して総括と自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。 		
授 業 計 画			
1.	保育所実習の意義・目的及び今後のスケジュール	16.	実習の反省、総括及び自己評価①
2.	施設実習の意義・目的	17.	保育の仕事と福祉施設
3.	保育所の役割と機能及び保育士の勤務内容	18.	実習の反省、総括及び自己評価②
4.	施設実習の基本的理解	19.	福祉施設実習での学びの目的
5.	子どもの人権と最善の利益の考え方	20.	実習時における記録の捉え方について
6.	施設実習に対する不安	21.	福祉施設の理解と概要
7.	保育所実習における達成すべき自己課題	22.	年齢別発達段階再認識①
8.	施設別の実習内容	23.	福祉施設実習での実習生の学び
9.	保育所実習記録の書き方・使い方指導	24.	年齢別発達段階再認識②
10.	施設保育士とソーシャルワーク	25.	利用者の日常生活から実習生が学んで欲しいこと
11.	オリエンテーションの捉え方について（保育所）	26.	年齢別発達段階再認識③
12.	施設実習までに身につけておくこと	27.	福祉施設実習へ向けての心構えと基礎理解
13.	お礼状の書き方指導	28.	課題と目的確認及びまとめ
14.	施設実習課題の設定	29.	福祉施設実習の準備及び事前学習
15.	学内オリエンテーション（保育所）	30.	学内オリエンテーション（施設）
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
レポート	授業への取り組み姿勢	小テスト	ファイル提出
40%	20%	20%	20%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・各回の講義にて、事後学習等について連絡する。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
保育所保育指針解説書（平成30年3月）	厚生労働省	フレーベル館	
実習の手引き	東筑紫短期大学保育学科編	東筑紫短期大学	
参考書又は参考資料等			
・参考資料随時配布 「施設実習ガイド」駒井美智子 編著（萌文書林）			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所実習・施設実習の手続きと並行して進めていく。 2. 学外の実習に出るため、学内での「保育実習指導I」の授業は必ず出ること。 3. 授業内容について理解不足の学生は授業終了後あるいはオフィスアワーを活用して指導する。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
t0106h0730@hcc.ac.jp（岩橋）			

授 業 科 目 名		保育実習 II (保育所)	
担 当 者 名	岩橋 敏子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200052	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士選択必修
授業の概要と方法	「保育実習 I」を踏まえ「保育実習 II」は保育士の資格を取得する為に必要な教科目の一つである。その為には今まで学んできた教科目(理論)を修得し、保育の現場において保育内容を計画・実践・記録及び自己評価を行い、保育士としての役割を体得するとともに保護者との関わりや職業人としての倫理観について学び専門性を豊かにすることを目的としている。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 3. 既習の教科目や保育実習 I の経験を踏まえ、子どもへの保育及び子育て、保護者支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 実習における自己の課題を明確化する。 		
授 業 計 画			
1.	保育所の役割や機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体となって行われる保育		
2.	保育所の役割や機能の具体的展開 (2) 保育所の社会的役割と責任		
3.	観察に基づく保育の理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察		
4.	観察に基づく保育の理解 (2) 保育士等の援助や関わり		
5.	観察に基づく保育の理解 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握		
6.	子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育		
7.	子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携 (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援		
8.	子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携 (3) 関係機関や地域社会との連携・協働		
9.	指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解		
10.	指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 (2) 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価		
11.	保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務		
12.	保育士の業務と職業倫理 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理		
13.	実習の心得		
14.	自己の課題の明確化		
15.	実習前オリエンテーション		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
実習先からの評価及び実習記録簿		オリエンテーション他 レポート提出	
80%		20%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準備学習・事後学習等)			
・実習中に実施する設定保育内容に対する準備は、自分でシミュレーションすると共に全て事前に用意しておくこと。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
保育所保育指針解説(平成30年3月)	厚生労働省	フレーベル館	
実習の手引き	東筑紫短期大学 編		
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
幼稚園実習・保育所実習・施設実習(ミネルヴァ書房) 遊びの指導 幼少年教育研究所編著(同文書院出版) 参考資料等随時配布			
そ の 他 (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて			
*成績評価については、実習先からの評価、実習記録、レポート等により総合的に評価します。 ・学外の実習に出る為、学内での「保育実習指導 II」の授業には必ず出席すること。 ・実習前の事前指導及び学内オリエンテーションは必ず受けること。 ・実習前後のレポートは期日を守って提出すること。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail		その他	
t0106h0730@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		保育実習 III (施設)	
担 当 者 名	古野 誠生	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200053	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士選択必修
授業の概要と方法	1. 児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を習得する。		
授業の到達目標	1. 児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を修得する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。		
授 業 計 画			
1.	施設の養護全般に参加し、生活支援・養護技術を習得する。		
2.	子どもの個人差を理解し、対応方法を習得させる。特に発達の遅れや被虐待児、生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その方法を学ぶ。		
3.	援助計画を立案し、演習する。		
4.	子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。		
5.	地域社会に対する理解を深め、連携方法を学ぶ。		
6.	子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。		
7.	保育士としての倫理観を具体的に学ぶ。		
8.	児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を確立する。		
9.	東筑紫短期大学の保育学科の学生として、実習を行うことの意義・責任を学ぶ。		
10.	実習先が学生に求めている内容を学ぶ		
11.	守秘義務の重要性を理解する		
12.	部分実習・責任実習・レクリエーションを行う		
13.	実習におけるトラブルシューティングを学ぶ		
14.	先輩の体験談と現場の職員の声を聴く		
15.	実習の振り返りを行う		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
学内・施設オリエンテーション、施設実習 10 日間、実習日誌、施設の評価		レポート	
80%		20%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・実習終了後のアンケート（北九州市児童養護施設連絡協議会、その他施設）を行う。 ・インターンシップを利用して、保育所及び児童福祉施設等でボランティア活動を行う。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
実習の手引き	東筑紫短期大学 編		
実習の手引き	北九州市児童養護施設連絡協議会 編		
参考書又は参考資料等			
○「福祉施設実習ハンドブック」岡本幹彦 他（みらい）／○「施設実習パーフェクトガイド」守巧 他編（わかば社）			
そ の 他 (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて			
※成績評価については、オリエンテーション、施設実習、実習日誌、施設の評価レポート等により評価。			
1. 実習前の事前指導、オリエンテーション学内・施設は必ず出席すること。			
2. 実習後のレポートは、期日を守って提出すること。			
3. 実習及び講義は、常に実習にふさわしい服装・髪型その他で出席すること。			
4. 「保育実習指導Ⅲ」の授業には必ず出席すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名	保育実習指導 II		
担 当 者 名	古野 誠生	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200054	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士選択必修

授業の概要と方法

【前期】保育について総合的に学ぶ為には実習においては保育内容の計画・保育指導案作成・保育環境準備（教材研究）・実践等を通して学ぶだけではなく、保育士としての専門性や職業人としての倫理について実習前の演習において保育に対する認識や自己課題が明確にできる力を修得する。

【後期】保育所実習後の振り返りや総括を行う中で、保育実践力の総括として実習時に行った設定保育内容を発表し合い、指導内容を共有することや関連する教科目で習得してきた童謡・わらべ歌・絵本などを年齢別年間指導計画として作成することで保育技術を豊かにし総合的な実践力に繋げていく。更に保育士として必要な資質や子どもの最善の利益等を具体的に理解していく為には、自己評価を行うことが大切であり自己課題を明確にできる力をもつことを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を培う。
 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して学ぶ。
 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い保育に対する課題や認識を明確にする。

授 業 計 画			
1.	保育実習IIの意義と目的について	16.	保育実習による総合的な学び①（グループ討議） 実習の振り返り、保育士資質に必要なもの
2.	実習に対する不安、実習までに身に付けておくこと（グループ討議）	17.	保育実習による総合的な学び②（グループ討議） 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
3.	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解（グループ討議）	18.	保育実習による総合的な学び③（グループ討議） 子どもの保育と保護者支援について
4.	子どもの保育と保護者支援（グループ討議）	19.	具体的な計画と実践について
5.	保育の知識や技術を生かした実践力の育成	20.	記録・自己評価に基づく保育の改善について
6.	教材研究（パネルシアター）	21.	保育士の専門性と職業倫理において（連絡帳の必要性和書き方）
7.	子どもの状態に応じた関わりより パネルシアター実践発表	22.	子どもの状態に応じた適切な関わりとは
8.	計画と観察、記録、自己評価	23.	保育実践力の育成 ① 年齢別設定保育の実践発表
9.	実習課題の設定（自己課題の作成）	24.	保育実践力の育成 ② 年齢別設定保育の実践発表
10.	実習の心得（グループワーク）	25.	童謡・わらべ歌年齢別年間指導計画作成① （情報処理）
11.	実習記録書き方指導 （振り返り及び自己課題のまとめ方）	26.	童謡・わらべ歌年齢別年間指導計画作成② （情報処理）
12.	実習園の対象クラスで指導計画案作成（情報処理）	27.	絵本年齢別年間指導計画作成③（情報処理）
13.	指導計画案における教材研究	28.	絵本年齢別年間指導計画作成④（情報処理）
14.	保育士の専門性と職業倫理について	29.	事後指導における実習の総括と自己評価
15.	まとめ	30.	課題の明確化

成 績 評 価 の 方 法 〔評価項目と割合〕			
グループ討議への参加度・実践発表	授業への取組み姿勢	手作り教材提出	レポート
40%	20%	20%	20%

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

- ・手作り教材は、時間内で仕上がらなかった場合、次回の発表時に間に合うよう仕上げてくること。
- ・事前の学内オリエンテーションは必ず出席すること。

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
保育所保育指針解説（平成30年3月）	厚生労働省	フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）	内閣府、文部科学省、厚生労働省	フレーベル館
参考書又は参考資料等		
<ul style="list-style-type: none"> ○「実習の手引き」（東筑紫短期大学 編） ○「遊びの指導」 幼少年教育研究所 編著（同文書院出版） ○その他、講義中に適宜参考資料配布 		
その他の（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて		
<p>*成績評価については、授業中に書いたレポート及び手作り教材の提出、設定保育の実践発表、グループ討議への参加度、記録提出などで総合的に評価する。</p> <p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外実習に出る為、学内での「保育実習指導Ⅱ」の授業には必ず出席すること。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習後の為、その経験を基に実践力を高めていけるようグループ討議やアクティブ・ラーニングを取り入れていきます。人前で発表するので、しっかりと自分の考えをまとめて臨むこと。 		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
t0106h0730@hcc.ac.jp		

授 業 科 目 名		保育実習指導 III	
担 当 者 名	古野 誠生	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200055	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士選択必修
授業の概要と方法	保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ばせるとともに、実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培わせる。また、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について学ばせる。さらには、保育士の専門性と職業倫理を理解させ、実習の事前事後を通じて総括と自己評価を行い、保育課題等を明確にさせる。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理を理解する。 5. 実習の事前事後を通して、総括と自己評価を行い、保育課題等を明確にする。 		
授 業 計 画			
1.	施設実習とは何か（保育実習Ⅲの目的・意義を再確認する）	16.	事例発表 各施設別、実習中の事例（児童養護施設①）を発表する。
2.	施設実習の基本的理解（グループ討議）	17.	事例発表 各施設別、実習中の事例（乳児院①）を発表する。
3.	実習に対する不安、実習までに身につけておくこと（グループ討議）	18.	事例発表 各施設別、実習中の事例（母子生活支援施設）を発表する。
4.	実習生に求められるもの（守秘義務等）	19.	事例発表 各施設別、実習中の事例（障害児入所施設）を発表する。
5.	実習課題の設定（実習課題の作成）	20.	事例発表 各施設別、実習中の事例（児童発達支援センター）を発表する。
6.	実習初日の心得（グループでの自己紹介の練習）	21.	事例発表 各施設別、実習中の事例（障害児支援施設①）を発表する。
7.	各施設の一日の流れと実習内容	22.	事例発表 各施設別、実習中の事例（児童養護施設②）を発表する。
8.	実習日誌とは（各自、実習日誌を書いてみる）	23.	事例発表 各施設別、実習中の事例（児童相談所）を発表する。
9.	指導計画案とは（各自、指導計画案の作成）	24.	事例発表 各施設別、実習中の事例（就労継続支援 B 型施設）を発表する。
10.	部分実習・責任実習・レクリエーションの実際（レクリエーションをやってみる）	25.	事例発表 各施設別、実習中の事例（知的障害者通所施設）を発表する。
11.	日々の振り返りと反省会	26.	事例発表 各施設別、実習中の事例（総合療育センター）を発表する。
12.	実習におけるトラブルシューティング（グループ討議）	27.	事例発表 各施設別、実習中の事例（児童養護施設③）を発表する。
13.	実習終了後の作業（実習先への礼状を書く、実習の振り返り）	28.	事例発表 各施設別、実習中の事例（乳児院②）を発表する。
14.	学内オリエンテーション	29.	事例発表 各施設別、実習中の事例（障害児支援施設②）を発表する。
15.	まとめ	30.	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
実践発表	授業への取組み姿勢	グループ討議への参加度	レポート
40%	20%	20%	20%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・インターンシップを利用して保育所及び児童福祉施設等でボランティア活動を行う。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・参考資料随時配布			
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ○「施設実習ガイド」 駒井美智子 編著（萌文書林） ○「福祉施設実習」 小野澤昇、田中和則、大塚良一 編著（ミネルヴァ書房） ○「施設実習パーフェクトガイド」 守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵 共著（わかば社） ○「新版 施設実習の常識」 教育・保育実習を考える会 編（蒼丘書林） 			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
<ul style="list-style-type: none"> ・前期で行う「保育実習Ⅲ」の施設と同様（種別）の施設において、ボランティア活動等をすることが望ましい。 ・「保育実習Ⅲ」で行った施設の他に、種別の違う施設へのボランティア活動を行ってほしい。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		保育・教職実践演習（幼稚園）	
担 当 者 名		前川 公一・寺本 普見子・都留 守・ 榊田 郁子・小島 久須美	実 務 家 教 員 ○
科 目 コ ー ド		2200056	授 業 形 態 演習
学 年		2	開 講 期 後期
単 位 数		2	履 修 方 法 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法		保育・教職実践演習の授業は、教職課程の他の授業科目を通して学生が身に付けてきた知識・技能を点検・確認するとともに学生が不足している授業内容を補完・向上させ、教育や保育の現場で保育者としての使命感、責任感、教育的愛情などを身に付けていくことが目標である。そこで、学生が自分の課題をもって授業に参加できるようにするため、授業最初のオリエンテーションで「保育者として必要な資質能力に関する意識調査」を実施する。それを踏まえて、教職の意義、職務内容、コミュニケーション能力、幼児の理解等の補完・向上を図る。また、子どもの指導や学級経営等の指導計画案を作成し、模擬授業を実施する。	
授業の到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領や保育所保育指針について理解し、それを保育現場で生かそうとする。 2. 保育者としての使命感、責任、愛情をもって、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。 3. 授業を通して、幼稚園教育要領や保育所保育指針等への理解を深めることができる。 4. 子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、人間的交流ができる。 5. 模擬授業を通して、その展開方法や環境づくりについて修得できる。 	
授 業 計 画			
1.	テーマ設定① オリエンテーション（教科の目標、内容、今後の計画について理解し、見通しを持つ）		
2.	テーマ設定② 「ワールド・カフェ」で出された課題を基に「個人テーマを具体化」する。		
3.	テーマ設定③ 部分指導計画案作成の計画をたてる。		
4.	部分指導計画案の作成と班での模擬授業① 「自主研究レポート」作成。部分指導計画案づくりの基本的な考え方を固める。 部分指導計画案作成① 「自主研究レポート」を基に、「個人テーマ」に沿った部分指導計画案を作成する。		
5.	部分指導計画案の作成と班での模擬授業② 情報処理演習		
6.	部分指導計画案の作成と班での模擬授業③ 各班で実施する部分指導の準備② リハーサル		
7.	部分指導計画案の作成と班での模擬授業④ 「班での模擬授業」を行い、「クラスでの模擬授業」で行う部分指導計画案と授業者を決める。		
8.	クラスでの模擬授業の実施① 第1回「クラス模擬授業」班の代表者がクラス全体で模擬授業を行い、反省会を行う。		
9.	クラスでの模擬授業の実施② 第2回「クラス模擬授業」班の代表者がクラス全体で模擬授業を行い、反省会を行う。		
10.	クラスでの模擬授業の実施③ 「クラス模擬授業」班の代表による模擬授業の成果と課題を整理、授業者と内容を決定する。		
11.	クラスでの模擬授業の実施④ 模擬授業のリハーサルと情報処理演習		
12.	「クラス代表による模擬授業」の実施 附属幼稚園・保育所で「クラス代表による模擬授業」を行う。		
13.	まとめ① 各自の部分指導計画案の修正と部分指導計画案集の作成①（情報処理）		
14.	まとめ② 部分指導計画案の修正と部分指導計画案集の作成 印刷、製本、完成（製本作業）及び（情報処理）		
15.	まとめ③ アンケート調査、到達度チェック		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
指導計画案		模擬授業	グループ討議等授業への取組み姿勢
40%		40%	20%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習や保育実習等での報告書などを活用するため資料を整理し、活用できるようにしておいて下さい。 ・今までに学んできたことをしっかり修得しておくようにして下さい。 ・自分の目標を明確にし、自分なりに教材研究し、指導技術を学んでおくようにして下さい。 			
使用テキスト			
書籍名		著者	出版社
使用しない			
参考書又は参考資料等			
・授業に関係する参考書は、その都度紹介します。			
そ の 他（受講生への要望等）			
<p>※成績評価については、保育者として最小限必要な資質能力が身に付いているか否かという観点から各評価項目の割合にもとづいて総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは、教職課程の教科で指定された全テキスト、参考書、参考資料等を活用するとともにプリントを適宜配付します。 ・授業は、演習形式で進めるので積極的な参加を期待します。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		キャリア教育演習 I	
担 当 者 名		学科教員	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2200069	授 業 形 態
学 年		1	開 講 期
単 位 数		1	履 修 方 法
授業の概要と方法		保育者として、いかに自己実現していくかという観点から、教育・保育現場の実状や必要とされる知識・技能について学ぶことを目的とする。演習では、保育者の生き甲斐や悩みなどに触れ、保育者として自己実現していくための課題について討議しながら考えていく。基本的な教育・保育課題に関わって求められる方法や技能について具体例を提示して考え、身に付けることを目指す。	
授業の到達目標		1. 社会的な常識について理解し、適切な行動をとることができる。 2. 学校行事等に積極的に参加し、協働して取り組み、学校生活を充実することができる。 3. 保育実習や施設実習等に関わる授業を通して、職場に必要な知識を理解し、適切な行動ができる。 4. 就職活動に関わる諸活動を通して、必要な知識や技能を身に付けることができる。	
授 業 計 画 ※講義の内容は変更になる場合があります。			
1.	◎オリエンテーション 授業の目的・内容・方法について HR レクスポの準備 (クラスTシャツなど) 「母校へのメッセージ」作成	16.	◎後期の学習と生活の心構えについて ※【自己評価カルテ】2回目の実施 ・後期のキャリア教育演習の役割分担を確認する ※Internship「附属幼稚園との交流活動」④
2.	◎「教職課程」について 学科長講話 ※【自己評価カルテ】1回目の実施 HR レクスポの練習① (各クラスで練習) HR 実習着に付ける名札の製作①	17.	◎保育所の魅力について (保育所連盟) 講師招聘：保育所連盟役員
3.	◎「保育実習」「教育実習」の心構えについて HR レクスポの練習② (各クラスで練習) HR 実習着に付ける名札の製作②	18.	◎保育所の魅力について (保育所連盟) 講師招聘：保育所連盟役員
4.	◎ 認定こども園附属幼稚園園児との『お弁当交流会』に向けて (附属幼稚園の先生から講話) HR 「母校へのメッセージ」写真撮影 インターンシップの計画 (附属幼稚園との交流活動の準備)	19.	◎保育者としてのメイク、ヘアメイクについて 講師招聘：美容ファッション・ビジネス学科教員 ◎『私がつくった手袋人形発表会』の練習をする 図画工作で作成した手袋人形をクラスで練習する ※Internship「附属幼稚園との交流活動」⑤
5.	◎情報化社会の光と影 講師招聘：情報管理センター ◎『お弁当交流会』準備① 計画を話し合う プログラム作成、役割分担 役割分担ごとに準備に必要なものを集める	20.	◎感染症の予防と対策、及び感染症の子どもへの対応について 講師招聘 ◎『私がつくった手袋人形発表会』をする クラスの手袋人形チャンピオンを決める ※Internship「附属幼稚園との交流活動」⑥
6.	◎『お弁当交流会』準備② 役割分担ごとに必要な教材・教具の準備をする	21.	◎『私がつくった手袋人形クラスチャンピオン発表会』 クラスチャンピオンによる模範演技を発表し合う
7.	◎『お弁当交流会』準備③ 本番を想定して、リハーサルをする	22.	◎「幼稚園の魅力」について (私立幼稚園連盟) 講師招聘：私立幼稚園連盟役員
8.	◎認定こども園附属幼稚園園児との『お弁当交流会』	23.	◎「先輩からのメッセージ①」保育所実習に向けて 講師招聘：保育所、幼稚園、施設に就職している先輩
9.			
10.	◎「児童養護施設」について 講師招聘：施設所員、施設に就職している卒業生 ※Internship「附属幼稚園との交流活動」①	25.	◎「救命救急講習会」 講師招聘：小倉北消防署
11.	◎学外研修 (施設見学) - 各施設の特色と実態を学ぶ 肢体不自由、知的障害、児童養護施設の見学	26.	◎「同和教育講座 I」 (2回目) 講師招聘：インタキ人権問題研究所所長 学生：スーツ着用、挨拶、講師への謝辞、感想文
12.	◎「リプロダクティブヘルスライツ」研修 ※Internship「附属幼稚園との交流活動」②	27.	
13.	◎「同和教育講座 I」 (1回目) 講師招聘：インタキ人権問題研究所所長	28.	◎「専攻科ガイダンス」(専攻科教員) 講師招聘：専攻科教員、学生
14.		29.	◎「先輩の就職活動体験記」(保育学科2年生) ※Internship「附属幼稚園との交流活動」⑧

15.	◎前期試験に向けて ◎夏休みの過ごし方について ・後期のキャリア教育演習の役割分担を決める ※Internship「附属幼稚園との交流活動」③	30.	◎進級へ向けて ※【自己評価カルテ】3回目の実施 ※Internship「附属幼稚園との交流活動」⑨
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業や諸活動への積極的な取組の姿勢	司会進行、手遊びリーダーなどの係活動への取組	レポート（感想文）	キャリア Card
40%	30%	15%	15%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・インターンシップを進んで行き、「筑紫の心」に記録を取っておく。授業以外のボランティア活動に積極的に参加し、参加した記録を取っておく。 <例> オープン・キャンパス、附属幼稚園運動会、北九州ゆめ未来ワーク、餅つき大会（正月）、高校訪問 など ・授業中に心に強く感じたこと、もっと知りたいと思ったこと、やってみたいと考えたことなどを、次の授業まで自分で、新聞やテレビ、インターネット、著書、論文などで調べたり、図書館で資料を集めたり、幼稚園や保育所や施設などに出掛けて行って学んできたりするようにする。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・授業に必要な資料は、適宜配付する。			
参考書又は参考資料等			
・授業に関係する参考書等は、その都度紹介する。			
その他（受講生への要望等）			
※成績評価については、「初年次教育・キャリア教育演習Ⅰ」の成果が出ているかといった点も勘案する ・授業は、演習形式で進めるので積極的な参加を期待する。 ・キャリアについての意識を強くもつように努め、自分の進路を考えていくようにする。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		キャリア教育演習 II	
担 当 者 名		学科教員	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2200070	授 業 形 態
学 年		2	開 講 期
単 位 数		1	履 修 方 法
授業の概要と方法		保育者として、いかに自己実現していくかという観点から、教育や保育の現場で必要とされる知識・技能について深く学ぶことを目的とする。演習では、保育者の生き甲斐や悩みなどに触れ、保育者として自己実現していくための課題について討議しながら考えていく。教育や保育の課題に関わる知識・技能について具体例を提示して考え、身に付けることを目指す。	
授業の到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的な常識について理解し、適切な行動をとることができる。 2. 学校行事等に積極的に参加し、協働して取り組み、学校生活を充実することができる。 3. 保育実習や施設実習等に関わる授業を通して、職場に必要な知識を理解し、適切な行動ができる。 4. 就職に関わる諸活動を通して、必要な知識・マナー・技能を身に付けることができる。 	
授 業 計 画 ※講義の内容は変更になる場合があります。			
1.	キャリア教育演習の目的・内容・計画	16.	後期オリエンテーション
2.	学内レクスポ大会に向けて	17.	専攻科ガイダンス②
3.	情報社会の現状と SNS の取り扱いについて	18.	大学祭の意義・目的
4.	先輩からのメッセージ①（幼稚園実習に向けて）	19.	就職について③
5.	就職について①	20.	情報処理演習①
6.	大学祭に向けて	21.	情報処理演習②
7.	私立幼稚園連盟就職懇談会	22.	現場で使える教材づくり①
8.	社会人としてのマナー	23.	現場で使える教材づくり②
9.	保育園連盟就職懇談会	24.	幼稚園・保育所連絡帳の書き方について
10.	施設実習に向けて	25.	幼稚園・保育所における保護者対応について
11.	専攻科ガイダンス①（介護福祉について）	26.	現場で使える教材づくり③ 発表
12.	就職について②	27.	保育現場における児童虐待の現状と課題
13.	先輩からのメッセージ②（保育所・施設就職者）	28.	卒業に向けて
14.	性犯罪から身を守るセミナー	29.	後期試験に向けて
15.	定期試験と夏休みの心得	30.	まとめ（2年間を振り返って）
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
授業や諸活動に対する取組み姿勢		レポート	教材研究・課題
50%		30%	20%
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （準備学習・事後学習等）			
・授業中に次の授業までに必要な内容を指示するので、新聞やテレビ、インターネット、著書、論文などで集め、準備しておくようにする。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名		著者	出版社
・授業に必要な資料は、適宜配付する。			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・授業に関係する参考書等は、その都度紹介する。			
そ の 他 （受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
※成績評価については、「キャリア教育演習IIでの学びが生かされているか」を重視する。			
・授業は、演習形式で進めるので積極的な参加を期待する。			
・キャリア教育の活動で社会人としてのマナー意識を強くもつように努め、自分の進路を考えていくようにする。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail		その他	
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名	在宅保育論		
担 当 者 名	木本 節子 ・ 岩橋 敏子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200071	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	認定ベビーシッター必修
授業の概要と方法	近年、子どもを取り巻く環境の変化に伴い、母親の仕事と育児の両立支援対策が多様に展開されている中、厚生労働省より「家庭訪問保育」「居宅訪問型保育」などが27年度より公的保育制度に位置づけられ多種の保育サービスが実施されている。本学では保育士の資格を取得し在宅保育・在宅保育論・基礎研修などの履修科目を修了することによって集団保育と個別保育の特徴をより深く理解し、「質の高い専門性豊かな温かいベビーシッターの資格」と同時に「居宅訪問型保育の資格」を取得することを目的としている。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭訪問保育と居宅訪問型保育の制度と意義を理解する。 2. 家庭訪問保育と居宅訪問型保育の社会的役割と実務を修得する。 3. 家庭訪問保育と居宅訪問型保育の目的を理解し、温かな心ある保育者としての自覚をもつ。 4. 家庭訪問保育と居宅訪問型保育におけるサービスの現状を知る。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション		
2.	家庭訪問保育とは		
3.	家庭訪問保育者としての心得（保育マインド）		
4.	家庭訪問保育を行う為の基礎的な知識		
5.	乳幼児の生活と遊び *発達と心理（子ども虐待） 乳幼児の栄養と食事 小児保健Ⅰ・Ⅱ 心肺蘇生法*1		
6.	居宅訪問型保育の概要・保育内容		
7.	居宅訪問型保育の運営と環境整備・安全の確保とリスクマネジメント		
8.	居宅訪問型保育者の倫理と保護者への対応		
9.	特別に配慮を要する子どもへの対応		
10.	一般型家庭訪問保育の業務の流れと事故の予防と対応		
11.	さまざまな家庭訪問保育		
12.	実践演習保育技術（食事と栄養編）		
13.	実践演習保育技術（お世話編）		
14.	実践演習保育技術（遊び編）		
15.	まとめ		
成績評価の方法	〔評価項目と割合〕		
定期試験	授業への取り組み姿勢	レポート	
70%	20%	10%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な保育について自主的に学んでおく。 ・保育実習において0歳児～3歳児までの対応の仕方を体得する。 ・この資格（認定ベビーシッター）は保育士資格取得が必要条件である。 		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
家庭訪問保育の理論と実際 第2版	益社団法人全国保育サービス協会 監修	中央法規出版	
参考書又は参考資料等			
参考資料等講義中に適宜配布			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
<p>*発達と心理については本学「発達心理学」にて実施。 乳幼児の栄養と食事については本学「子どもの食と栄養」にて実施。 小児保健Ⅰ・Ⅱについては、本学「小児保健Ⅰ・Ⅱ」にて実施。 心肺蘇生法については本学「体育」にて実施。 ・授業内容について理解不足の学生は、授業終了後オフィスアワーを活用して指導を受けること。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
t0106h0730@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		こども音楽療育概論	
担 当 者 名	佐藤 佳美	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200073	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	こども音楽療育士必修
授業の概要と方法	障がいのあるこどもの音楽療育の基礎・専門知識について学習する。心身の発達過程と音楽的発達との関係、音楽と遊びの関係、音楽療育の意義と障害種別の具体的援助法を学ぶ。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのあるこどもの音楽療育の基礎的理念を説明することができる。 ・心身の発達過程と音楽的発達との関係、音楽と遊びの関係、さらに障害種別の具体的援助法を説明することができる。 		
授 業 計 画		事前・事後学習について	
1.	オリエンテーション：授業目標及び本授業の到達目標を確認する。	0歳～5歳児の心身の発達をまとめる。	
2.	心身の発達と音楽的発達①：0・1歳児の心身の発達と音楽遊びとの関係について学ぶ	0・1歳児の心身発達と音と音楽との関わりについてまとめる。	
3.	心身の発達と音楽的発達②：2・3歳児の心身の発達と音楽遊びとの関係について学ぶ	2・3歳児の心身発達と音と音楽との関わりについてまとめる。	
4.	心身の発達と音楽的発達③：4・5歳児の心身の発達と音楽遊びとの関係について学ぶ	4・5歳児の心身発達と音と音楽との関わりについてまとめる。	
5.	音楽療育の基礎知識①：音や音楽の中に見えるものについて学ぶ	音や音楽の中に見えるものをまとめる。	
6.	音楽療育の基礎知識②：音や音楽の多感覚性とその可能性について学ぶ	音や音楽の可能性についてまとめる。	
7.	音楽療育の主な概念①：同質と即興演奏について学ぶ	同質と即興演奏についてまとめる。	
8.	音楽療育の主な概念②：音と動き、リラクゼーションについて学ぶ	音と動き、リラクゼーションについてまとめる。	
9.	音楽療育の主な概念③：自己表現のための音楽／コミュニケーションについて学ぶ	自己表現のための音楽／コミュニケーションについてまとめる。	
10.	音楽療育の主な概念④：言葉と音・音楽／認知の学習と音・音楽について学ぶ	認知の学習と音・音楽についてまとめる。	
11.	音楽療育の実際①：個別の音楽療育について学ぶ	個別の音楽療育についてまとめる。	
12.	音楽療育の実際②：グループの音楽療育について学ぶ(1)	音や音楽の使い方についてまとめる。	
13.	音楽療育の実際③：グループの音楽療育について学ぶ(2)	音や音楽の使い方についてまとめる。	
14.	音楽療育の実際④：グループの音楽療育について学ぶ(3)	音や音楽の使い方についてまとめる。	
15.	まとめ	音楽療育についてまとめる。	
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験(筆記試験)	提出物		
70%	30%		
授業外で行うべき学習(準備学習・事後学習等)			
※各授業計画の欄を参照			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
音とひとをつなぐコ・ミュージックセラピー	中島恵子 山下恵子	春秋社 2002	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他 (受講生への要望等) / 課題等に対するフィードバックについて			
・心身共に健康で受講してくださることを望みます。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
yoshimi-dell@i.softbank.jp	講義終了後の質問対応可		

授 業 科 目 名		こども音楽療育演習	
担 当 者 名	佐藤 佳美	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200074	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	こども音楽療育士必修
授業の概要と方法	障害のあるこどもを対象とした音楽療育の実践方法に関する基礎と専門知識・技術技能について学習する。発達の援助のための音や音楽の使い方、障害差別、形態別（個別、集団など）の療育の具体的方法、楽器の活用法や身体表現と音楽との関連を視野に入れた実践方法について学ぶ。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のあるこどもを対象とした音楽療育の実践ができる。 ・発達援助のために音や音楽の使い方を理解して、音楽を構成したり、療育活動を構成したりすることができる。 ・発達に合わせた遊びを創造することができる。 		
授 業 計 画		事前・事後学習について	
1.	オリエンテーション：授業目標および本授業の到達目標を確認する。リズムムーブメントの活動の実際（楽譜配布）	シラバスを読み、授業の流れを理解する	
2.	基礎的技術の習得①：打楽器、鍵盤楽器、弦楽器（ギター）の基礎的な技術を習得する。	”	
3.	基礎的技術の習得②：打楽器、鍵盤楽器、弦楽器（ギター）の基礎的な技術を習得する。	”	
4.	基礎的技術の習得③：手遊び・歌遊びの実際を学ぶ。	手遊び5曲、動物の歌を練習する。	
5.	基礎的技術の習得④：身体活動と音・音楽を学ぶ。	リズムムーブメントの練習	
6.	音楽構成の方法：オルフ楽器を用いて、音楽の構成について考え、実際に楽器構成をする。	さんぼ、ドラえもん、サザエさんなどを練習する。	
7.	肢体不自由児への音楽療育：肢体不自由児に対する個別音楽療育の集団音楽療育の具体的方法を学ぶ。	肢体不自由児の音楽療育に関する課題	
8.	発達障害児への音楽療育①：発達障害児に対する個別音楽療育の集団音楽療育の具体的方法を学ぶ。	発達障害児の音楽療育に関する課題	
9.	発達障害児への音楽療育②：発達障害児に対する個別音楽療育の集団音楽療育の具体的方法を学ぶ。	発達障害児の音楽療育に関する課題	
10.	発達障害児への音楽療育③：発達障害児に対する個別音楽療育の集団音楽療育の具体的方法を学ぶ。	発達障害児の音楽療育に関する課題	
11.	知的障害児への音楽療育：知的障害児に対する個別音楽療育の集団音楽療育の具体的方法を学ぶ。	知的障害児の音楽療育に関する見直し、課題	
12.	視覚・聴覚障害児への音楽療育：視覚障害児・聴覚障害児に対する個別音楽療育の集団音楽療育の具体的方法を学ぶ。	視覚障害児・聴覚障害児の音楽療育に関する課題	
13.	発達援助のための遊びと音楽①：発達を援助していくための遊びの創造を学ぶ。	障害を設定して遊びを考察する。	
14.	発達援助のための遊びと音楽②：発達を援助していくための遊びの創造を学ぶ。	障害を設定して遊びを考察する。	
15.	まとめ	これまでの課題を復習する。	
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験（筆記試験）	提出物		
70%	30%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
※各授業計画の欄を参照			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
音とひとをつなぐコ・ミュージックセラピー	中島恵子 山下恵子	春秋社 2002	
保育所保育指針解説（平成30年3月）	厚生労働省	フレーベル館	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
・心身共に健康で受講してくださることを望みます。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
yoshimi-dell@i.softbank.jp	講義終了後の質問対応可		

授 業 科 目 名		こども音楽療育実習	
担 当 者 名	佐藤 佳美	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2200075	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	こども音楽療育士必修
授業の概要と方法	音楽療育士は、保育所や療育センター施設等の社会的な役割を具体的に理解したうえで、こどもの観察や関わりを通してより一層理解を深めていくことが求められるため、既習の教科の内容を踏まえ、こどもや保護者への支援についても総合的に学ばなければならない。この授業の中で、更に、障害児通園部において5日間の実習を行う。障害児との積極的な関わり、支援者の意図、心身の発達過程と音楽的発達との関係、障害種別の具体的援助方法の意義を見出すことのできる現場実習とする。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・総合療育センター、障害児施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。 ・観察やこどもとの関わりを通して、こどもへの理解を深めることができる。 ・既習の教科の内容を踏まえて、こどもに対する保育や保護者への支援の在り方などを学ぶことができる。 ・保育の計画、観察、記録及び自己評価について具体的に理解することができる。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶことができる。 		
授 業 計 画 〔学外実習の内容含む〕		事前・事後学習について	
<p>講義で概論、演習で学んだことを実習に活かした音楽（音、歌あそび、楽器あそび、身体表現等）を用いて療育総合センター、障害児発達支援センター等での見学・観察実習・参加実習を通して具体的実践方法を学ぶ。</p> <p>〈実習先〉 北九州市立総合療育センター及び北九州市立総合療育センター西部分所において5日間の学外実習もしくは、恵光園こどもの家、門司光の子学園等において5日間の実習を行う。</p> <p>〈オリエンテーション〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義と目的、実習の内容、実習の心得。 <p>〈実習前学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習前に対象児を確認し、障害についての理解を深める。 ・障害児通園部の施設の特徴を理解する。 <p>〈実習の指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のあるこどもたちと積極的に関わりを持つことができる。 ・支援者の療育の意図を理解することができる。 <p>〈実習段階〉</p> <p>① 療育実習の2側面 受動的側面 障害児の観察と理解 能動的側面 障害児と積極的に関わりを持つことができる。</p> <p>② 実習の段階 見学・観察実習、参加実習。</p> <p>〈実習の内容〉</p> <p>① 見学・観察実習、参加実習障害児及び音楽療育の実際を理解する。 ② 参加実習：音楽療育場面に参加し、積極的にこども達と関わる。 ③ 実習担当者より訪問指導を受ける。</p> <p>〈実習後の学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽療育実習記録簿及び、音楽療育実習日誌を作成・提出する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・施設の生活と1日の流れ ・施設の役割と機能 ・障害児の見学と観察の理解 ・援助計画の理解と活用 ・記録に基づく省察・自己評価 ・障害児の発達段階の理解 ・療育士の業務内容・療育士としての役割分担や連携 ・障害児の理解を深める ・音楽療育場面に参加し、積極的にこども達に関わる ・まとめ 	
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕			
実習先からの評価表・実習記録・提出物		オリエンテーション記録を含むレポート提出	
80%		20%	
授業外で行うべき学習 （準備学習・事後学習等）			
※各授業計画の欄を参照			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
音とひとつをつなぐコ・ミュージックセラピー	中島恵子 山下恵子	春秋社 2002	
保育所保育指針解説（平成30年3月）	厚生労働省	フレーベル館	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他 （受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて			
・心身共に健康で受講して下さることを望みます。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
yoshimi-dell@i.softbank.jp		講義終了後の質問対応可。	

授 業 科 目 名		レクリエーション概論	
担 当 者 名	木原 寛子	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2200058	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	レクリエーション・インストラクター必修
授業の概要と方法	日本のレクリエーション運動は 50 年を超える歴史がある。その半世紀に及ぶ成果を踏まえ、新しい時代にふさわしいあり方を求めてレクリエーション運動は大きく変わろうとしている。子どもたちから高齢者までさまざまな人々が心身ともに健やかで生き生きとした暮らしが展開される地域社会を目指している。 そして、多種多様なレクリエーション活動を通して温かな豊かな絆を創りあげることです。レクリエーション・インストラクターの資格を取得して子どもから高齢者までさまざまな人々と楽しさを共有し共感し、社会に貢献できる人材を育成する。		
授業の到達目標	楽しさや心地よさを活用して子どもから高齢者、さまざまな人々を支援するための基礎的な考え方や技術を学び、レクリエーションを提供する側としてホスピタリティを理解し、コミュニケーションの技法や集団を対象としたコミュニケーション・ワークの技術を習得する。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション	レクリエーション・インストラクター資格取得について	
2.	レクリエーション概論	①レクリエーションの趣旨について ②レクリエーション支援の目的と方法	
3.	レクリエーション概論	③レクリエーション・インストラクターの役割	
4.	楽しさと心の健康づくりの理論	①レクリエーション活動の楽しさを感じる心の仕組み ②楽しさが心の元気をもたらす生理的な仕組み、および社会的な仕組み	
5.	楽しさと心の健康づくりの理論	③ライフステージと心の元気づくり ④地域のきずなづくりとレクリエーション	
6.	レクリエーション支援理論	①レクリエーション支援におけるコミュニケーション ②対象者と支援者の信頼関係、および信頼関係づくりの方法	
7.	レクリエーション支援理論	③良好な集団、およびレクリエーション活動をとおした良好な集団づくり ④集団内のコミュニケーションの促進	
8.	レクリエーション支援理論	⑤自主的、主体的にレクリエーション活動を楽しむ力 ⑥やる気の変化とやる気が生じる心の仕組み	
9.	レクリエーション支援理論	⑦成功体験を支え合う対象者の関わり合い	
10.	レクリエーション支援のプログラム	①リスクマネジメントの方法	
11.	レクリエーション支援のプログラム	②プログラムの立案方法	
12.	レクリエーション支援のプログラム	③プログラムの立案 1	
13.	レクリエーション支援のプログラム	④プログラムの立案 2	
14.	レクリエーション支援のプログラム	⑤プログラムの発表と実践 1	
15.	レクリエーション支援のプログラム	⑥プログラムの発表と実践 2	
	レクリエーション支援の総まとめ	自己課題について	
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
授業への取り組み姿勢		ノート・レポート	発表（個人・グループ）
60%		20%	20%
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）			
・授業ノートを作成し、毎回の授業内容の記述と配布した資料を添付する。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
必要に応じて資料配布			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」（公財）レクリエーション協会編 「レクリエーション支援の基礎」（公財）レクリエーション協会編			
そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ） / 課 題 等 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク に つ い て			
「レクリエーション概論」に併せて、「レクリエーション実技」の受講、現場実習 3 回以上、「保育実習 I」を修得して「レクリエーション・インストラクター」の資格取得手続きの運びとなります。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail		その他	
tomo119k@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		レクリエーション実技	
担 当 者 名		木原 寛子	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2200059	授 業 形 態
学 年		2	開 講 期
単 位 数		2	履 修 方 法
授業の概要と方法		「レクリエーション概論」で学んだことを踏まえ、レクリエーション運動の必修活動を理解して実践する。ホスピタリティやアイスブレイキングを身につけ、子どもから高齢者まで幅広いコミュニケーション・ワークに役立てる。北九州市レクリエーション協会が主催する行事や活動に現場実習として参加し地域の皆様と様々なレクリエーション活動体験し、学習して個々の力にする。	
授業の到達目標		1. 人と向き合う力（相手の話をきちんと聞く姿勢） 2. 集団を育てる力（一緒に楽しみ、脇役にまわる） 3. 地域と繋がる力（ボランティア活動・子育て支援・町内会の行事）	
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション レクリエーション・インストラクター資格取得に向けて	16.	後期オリエンテーション レクリエーション活動の習得 ②レクリエーション支援のための歌 1
2.	レクレーション支援の方法 ①あたたかくもてなす意識と配慮 (ホスピタリティ・トレーニング)	17.	レクリエーション活動の習得 ②レクリエーション支援のための歌 2
3.	レクレーション支援の方法 ②対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術 (カウンセリング・マインド)	18.	レクリエーション活動の習得 ③レクリエーション支援のための音楽に合わせた身体活動 1 (エアロビクス)
4.	レクリエーション支援の方法 ③対象者との意思疎通を促進する技術	19.	レクリエーション活動の習得 ③レクリエーション支援のための音楽に合わせた身体活動 2 (ダンス)
5.	レクリエーション支援の方法 ④集団がまとまる仕組みを活かすプログラム	20.	レクリエーション活動の習得 ③レクリエーション支援のための音楽に合わせた身体活動 3 (手遊び等)
6.	レクリエーション支援の方法 ⑤アイスブレイキング・モデル	21.	レクリエーション活動の習得 ④レクリエーション支援のための様々な活動 1 (クラフト)
7.	レクリエーション支援の方法 ⑥アイスブレイキングの効果を高める支援技術	22.	レクリエーション活動の習得 ④レクリエーション支援のための様々な活動 2 (ニュースポーツ)
8.	レクリエーション支援の方法 ⑦ひとつの活動の中で複数回の成功体験を楽しむための目標設定の方法 (ハードル設定)	23.	レクリエーション活動の習得 ④レクリエーション支援のための様々な活動 3 (ニュースポーツ 試合を楽しむ)
9.	レクリエーション支援の方法 ⑧段階的に成功体験をしやすくするアレンジの基本と応用	24.	レクレーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善 1 対象者の特性を考えた事業計画 立案 計画
10.	レクリエーション支援の方法 ⑨対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法 (CSS プロセス)	25.	レクレーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善 2 対象者の特性を考えた事業の実践 (乳幼児期)
11.	レクリエーション支援の方法 ⑩目標設定と言葉や表情の活用方法の一体的な実施 1	26.	レクレーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善 3 対象者の特性を考えた事業の実践 (児童期)
12.	レクリエーション支援の方法 ⑩目標設定と言葉や表情の活用方法の一体的な実施 2	27.	レクレーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善 4 対象者の特性を考えた事業の実践 (青年・壮年・中年期)
13.	レクリエーション活動の習得 ①レクリエーション支援のためのゲーム 1	28.	レクレーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善 5 対象者の特性を考えた事業の実践 (老年期)
14.	レクリエーション活動の習得 ①レクリエーション支援のためのゲーム 2	29.	レクレーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善 6 自己課題について ディスカッション
15.	レクリエーション活動の習得 ①レクリエーション支援のためのゲーム 3 前期まとめ	30.	総まとめ

成績評価の方法 [評価項目と割合]		
授業への取組み姿勢	ノート・レポート	発表（個人・グループ）
60%	20%	20%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
・授業ノートを作成し、毎回の授業内容の記述と配布した資料を添付する。		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
必要に応じて資料配布		
参考書又は参考資料等		
「楽しさをおとした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」（公財）レクリエーション協会編 「レクリエーション支援の基礎」（公財）レクリエーション協会編 「みんなのPA系ゲーム243」 諸澄敏之編著		
その他の（受講生への要望等）／課題等に対するフィードバックについて		
「レクリエーション実技」に併せて、「レクリエーション概論」の受講、現場実習3回以上、「保育実習Ⅰ」を修得して「レクリエーション・インストラクター」の資格取得手続きの運びとなります。		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
tomo119k@hcc.ac.jp		